



AVG 9 Anti- Virus

ユーザーマニュアル

ドキュメント改訂 90.21 (3.2.2010)

Copyright AVG Technologies CZ, s.r.o. All rights reserved.
他のすべての商標はそれぞれの所有者のもです。

この製品は、RSA Data Security, Inc. の MD5 Message- Digest Algorithm を使用しています。Copyright (C) 1991- 2, RSA Data Security, Inc. Created 1991

この製品は、C- SaCzech libraryのコードを使用しています。Copyright (c) 1996- 2001 Jaromir Dolecek (dolecek@cs.muni.cz).

この製品は、compression library zlibを使用しています。Copyright (c) 1995- 2002 Jean- loup Gailly and Mark Adler.

この製品は、圧縮ライブラリlibzip2 を使用しています。Copyright (c) 1996- 2002 Julian R. Seward.

目次

1. はじめに	7
2. AVGインストール要件	8
2.1 対応オペレーションシステム	8
2.2 最低および推奨ハードウェア要件	8
3. AVGインストールオプション	9
4. AVG ダウンロードマネージャー	10
4.1 言語選択	10
4.2 接続性チェック	11
4.3 プロキシ設定	12
4.4 インストールするファイルをダウンロード	13
5. AVGインストールプロセス	14
5.1 インストールの実行	14
5.2 ライセンス契約	15
5.3 システムステータスのチェック	15
5.4 インストールタイプの選択	16
5.5 AVG ライセンスをアクティベート	16
5.6 カスタムインストール - インストール先フォルダ	17
5.7 カスタムインストール - コンポーネントの選択	18
5.8 AVG DataCenter	19
5.9 AVGセキュリティソールバー	20
5.10 開いているアプリケーションを終了する	21
5.11 AVGのインストール	22
5.12 定期スキャンとアップデートのスケジューリング	23
5.13 AVG 保護設定は完了しています	23
6. インストール後	25
6.1 スキャン最適化	25
6.2 製品登録	25
6.3 ユーザーインターフェースへのアクセス	25
6.4 全コンピュータをスキャン	26
6.5 Eicarテスト	26
6.6 AVGデフォルト設定	27

7. AVG ユーザーインターフェース	28
7.1 システムメニュー	29
7.1.1 ファイル	29
7.1.2 コンポーネント	29
7.1.3 履歴	29
7.1.4 ツール	29
7.1.5 ヘルプ	29
7.2 セキュリティステータス情報	31
7.3 クイックリンク	32
7.4 コンポーネント概要	33
7.5 統計	34
7.6 システムトレイアイコン	34
8. AVGコンポーネント	36
8.1 ウイルス対策	36
8.1.1 ウイルス対策 原理	36
8.1.2 ウイルス対策インターフェース	36
8.2 スパイウェア対策	38
8.2.1 スパイウェア対策 原理	38
8.2.2 スパイウェア対策インターフェース	38
8.3 ルートキット対策	40
8.4 メールスカナ	40
8.4.1 メールスカナ 原理	40
8.4.2 メールスカナインターフェース	40
8.4.3 メールスカナ検出	40
8.5 ライセンス	44
8.6 リンクススカナ	45
8.6.1 リンクススカナ原理	45
8.6.2 リンクススカナインターフェース	45
8.6.3 AVGサーチシールド	45
8.6.4 AVGサーフシールド	45
8.7 オンラインシールド	48
8.7.1 オンラインシールドの原理	48
8.7.2 オンラインシールドインターフェース	48
8.7.3 オンラインシールド検出	48
8.8 常駐シールド	54
8.8.1 常駐シールド原理	54

8.8.2 常駐シールドインターフェース	54
8.8.3 常駐シールド検出	54
8.9 アップデートマネージャ	59
8.9.1 アップデートマネージャ原理	59
8.9.2 アップデートマネージャインターフェース	59
9. AVGセキュリティツールバー	62
9.1 AVGセキュリティツールバー インターフェース	62
9.2 AVGセキュリティツールバーオプション	63
9.2.1 タブ全般	63
9.2.2 タブの便利なボタン	63
9.2.3 タブセキュリティ	63
9.2.4 タブの高度なオプション	63
10. AVG 高度な設定	69
10.1 表示	69
10.2 サウンド	71
10.3 障害状態を無視	73
10.4 ウイルス隔離室	74
10.5 PUP 例外	75
10.6 オンラインシールド	77
10.6.1 Web保護	77
10.6.2 インスタントメッセージ	77
10.7 リンクスキャナ	81
10.8 スキャン	82
10.8.1 全コンピュータをスキャン	82
10.8.2 シェル拡張スキャン	82
10.8.3 特定のファイルやフォルダをスキャン	82
10.8.4 リムーバブルデバイスのスキャン	82
10.9 スケジュール	89
10.9.1 スケジュール済スキャン	89
10.9.2 ウイルスデータベースアップデートスケジュール	89
10.10 メールスキャナ	99
10.10.1 認証	99
10.10.2 メールフィルタリング	99
10.10.3 ログと結果	99
10.10.4 サーバー	99
10.11 常駐シールド	108

10.11.1 高度な設定	108
10.11.2 除外ディレクトリ	108
10.11.3 除外されたファイル	108
10.12 キャッシュサーバー	113
10.13 ルートキット対策	114
10.14 アップデート	115
10.14.1 プロキシ	115
10.14.2 ダイアルアップ	115
10.14.3 URL	115
10.14.4 管理	115
10.15 リモート管理	122
11. AVGスキャン	124
11.1 スキャンインターフェース	124
11.2 定義済みスキャン	125
11.2.1 全コンピュータをスキャン	125
11.2.2 特定のファイルとフォルダのスキャン	125
11.3 シェル拡張スキャン	133
11.4 コマンドラインスキャン	134
11.4.1 CMDスキャンパラメータ	134
11.5 スキャンスケジュール	136
11.5.1 スケジュール設定	136
11.5.2 スキャン方法	136
11.5.3 スキャン対象	136
11.6 スキャン結果概要	146
11.7 スキャン結果詳細	147
11.7.1 結果概要タブ	147
11.7.2 感染タブ	147
11.7.3 スパイウェアタブ	147
11.7.4 警告タブ	147
11.7.5 ルートキットタブ	147
11.7.6 情報タブ	147
11.8 ウイルス隔離室	155
12. AVGアップデート	157
12.1 アップデートレベル	157
12.2 アップデートタイプ	157
12.3 アップデートプロセス	157



13. イベント履歴	159
14. FAQとテクニカルサポート	161



1. はじめに

このユーザー マニュアルは、**AVG 9 Anti-Virus** の包括的なマニュアルです。

AVG 9 Anti-Virus をご購入いただき、どうもありがとうございます。

AVG 9 Anti-Virusは、コンピュータの総合的なセキュリティを提供するように設計された、受賞経験のある AVG 製品の 1 つです。すべての AVG 製品と同様に、AVG の信頼性のあるセキュリティ機能をより分かりやすく、効率的な方法で提供するために、**AVG 9 Anti-Virus** は完全に再設計されました。

新しい **AVG 9 Anti-Virus** 製品は、合理化されたインターフェースとより積極的で高速化されたスキャンを提供します。より多くのセキュリティ機能が自動化され便利になりました。新しい「インテリジェント」ユーザーオプションが搭載され、セキュリティ機能をカスタマイズしやすい製品となりました。妥協のないユーザビリティを提供します。

AVGは、コンピュータとネットワークアクティビティの保護を目的として設計、開発されています。AVGによる完全な保護をぜひ体感してください。

2. AVGインストール要件

2.1. 対応オペレーションシステム

AVG 9 Anti-Virus は、次のオペレーティング システムで稼動するワークステーションの保護を目的としています。

- Windows 2000 Professional SP4 + Update Rollup 1
- Windows XP Home Edition SP2
- Windows XP Professional SP2
- Windows XP Professional x64 Edition SP1
- Windows Vista (x86 および x64、すべてのエディション)
- Windows 7 (x86 および x64、すべてのエディション)

(また、特定のオペレーティングシステム用 サービスパック)

2.2. 最低および推奨ハードウェア要件

AVG 9 Anti-Virus の最低ハードウェア要件:

- Intel Pentium CPU 1,5 GHz
- 512 MB の RAM メモリ
- ハードディスク空き容量 390MB以上 (インストールのため)

AVG 9 Anti-Virus の推奨ハードウェア要件:

- Intel Pentium CPU 1,8 GHz
- 512 MB の RAM メモリ
- ハードディスク空き容量 510MB以上 (インストールのため)



3. AVGインストールオプション

AVG はインストール CD にあるインストールファイルからあるいは AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>) から最新のインストール ファイルをダウンロードしてインストールできます。

AVGのインストールを開始する前に、AVGのウェブサイト (<http://www.avg.com/>) で最新のインストールファイルを確認することを強く推奨します。このような手順によって、確実に利用可能な最新バージョンの AVG 9 Anti-Virus をインストールできます。

目的の言語でインストール ファイルをセットアップできるように、最新の [AVG ダウンロードマネージャ](#) ツールを使用することをお勧めします。

インストールプロセス中に、ライセンス番号/セールス番号が必要となります。インストールを開始する前にライセンス番号/セールス番号を準備してください。セールス番号はCDのパッケージ、購入時のメール中等に記載されています。AVGをオンラインで購入した場合、ライセンス番号/セールス番号はメールで送信されます。

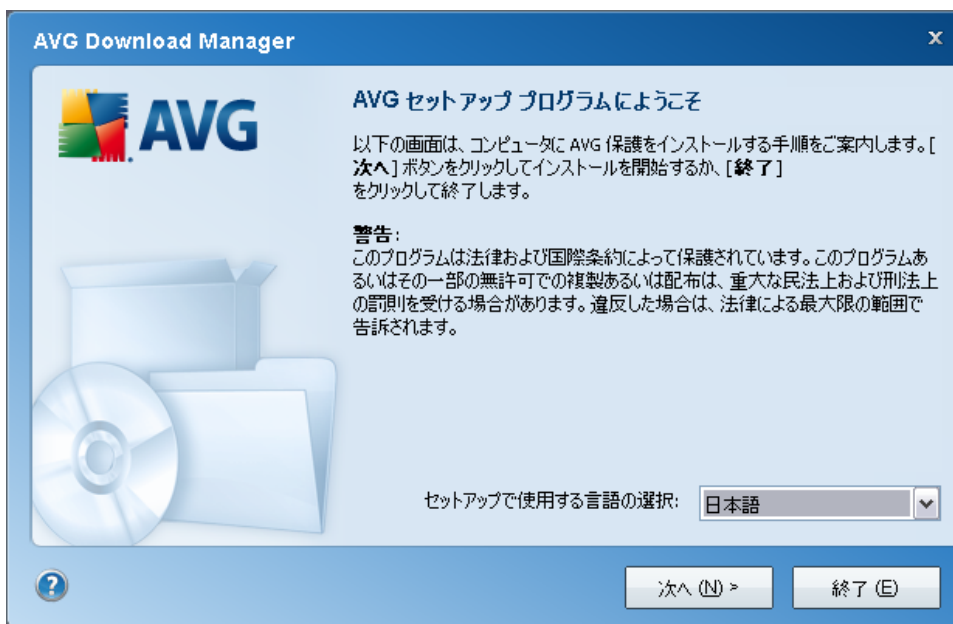
4. AVG ダウンロードマネージャー

AVG Download Manager はシンプルなツールで、AVG 製品の試用版用の正しいインストールファイルを簡単に選択できます。入力されたデータに基づいて、マネージャーは特定の製品、ライセンス種別、必要なコンポーネント、言語を選択します。最後に、**AVG Download Manager** はダウンロードに進み、適切な [インストールプロセスを起動します](#)。

警告: AVG Download Manager は、ネットワーク版および SBS 版のダウンロードには適していません。サポートされているオペレーティングシステムは、Windows 4 (7 + SRP ロールアップ)、Windows XP、Windows Vista、Windows 7 のみです。

AVG Download Manager は AVG のウェブサイト (<http://www.avg.com/>) でダウンロードできます。AVG Download Manager で必要な各ステップを簡単な説明は以下を参照してください。

4.1. 言語選択



AVG Download Manager のこの最初のステップでは、ロールダウンメニューからインストール言語を選択します。注意 :言語選択はインストールプロセスにのみ適用されます。インストール後は、プログラム設定から直接言語を変更できます。[次へ] ボタンを押して続きます。

4.2. 接続性チェック

このステップで、AVG Download Manager は、アップデートを検索できるようにインターネット接続の確立を試みます。AVG Download Manager が接続性テストを完了するまでは、ダウンロード処理を進めることはできません。

- テストで接続がないことが示された場合、本当にインターネットに接続していることを確認してください。次に、[再試行] ボタンをクリックします。



- プロキシ接続でインターネットに接続している場合、[プロキシ設定] ボタンをクリックして、[プロキシ情報](#)を指定します。
- 確認できたら、[次へ] ボタンをクリックして続行します。

4.3. プロキシ設定



AVG Download Manager がプロキシ設定を特定できなかった場合は、手動で指定する必要があります。以下のデータを入力してください。

- **サーバー** - 有効なプロキシサーバー名または IP アドレスを入力します
- **ポート** - 各ポート番号を入力します。
- **プロキシ認証を使用** - プロキシサーバーが認証を必要とする場合はこのチェックボックスにチェックを付けます。
- **認証を選択** - ドロップダウンメニューから認証タイプを選択します。既定値を保持することを強くお勧めします (こうするとプロキシサーバーは自動的に要件を通知します)。ただし、上級者ユーザーの場合、[基本] (一部のサーバーで必要) または [NTLM] (すべての ISA サーバーで必要) オプションを選択することもできます。次に、有効な**ユーザー名**と**パスワード** (任意) を入力します。

[適用] ボタンをクリックして設定を確定し、**AVG Download Manager** の次のステップに進みます。

4.4. インストールするファイルをダウンロード



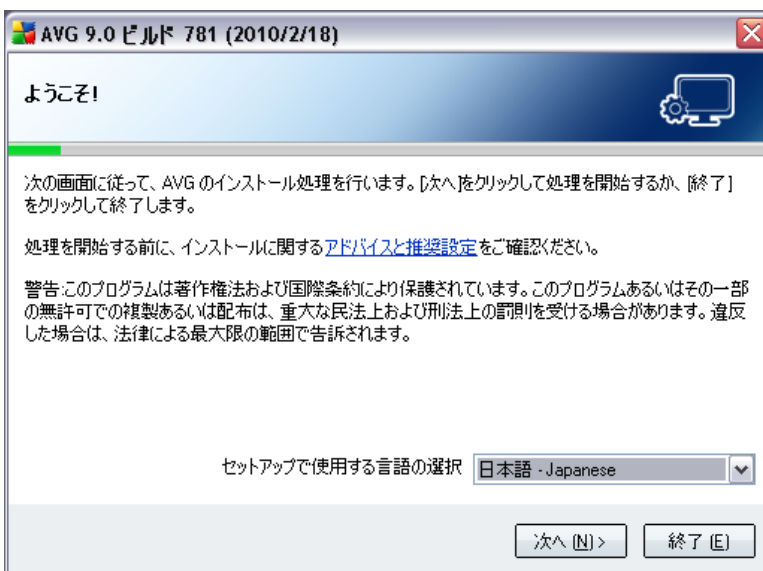
これで、**AVG Download Manager** でインストール パッケージのダウンロードを開始し、インストール処理を起動するために必要なすべての情報を入力しました。次に、[AVG インストール処理](#)に進んでください。

5. AVGインストールプロセス

コンピュータに**AVG 9 Anti-Virus** をインストールする場合は、最新のインストール ファイルを取得する必要があります。パッケージ版内のCDからインストールファイルを使用できますが、このファイルは古い場合があります。したがって、最新のインストールファイルをオンラインで入手することを推奨します。AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>) の **サポートセンター/ダウンロード** セクションからファイルをダウンロードできます。あるいは、必要なインストールパッケージの作成およびダウンロードとインストールプロセスの起動を支援する新しい **AVG Download Manager** ツールを利用できます。

インストールは、各ステップの簡潔な操作を記載した一連のダイアログで構成されます。以下は、各ダイアログの説明です。

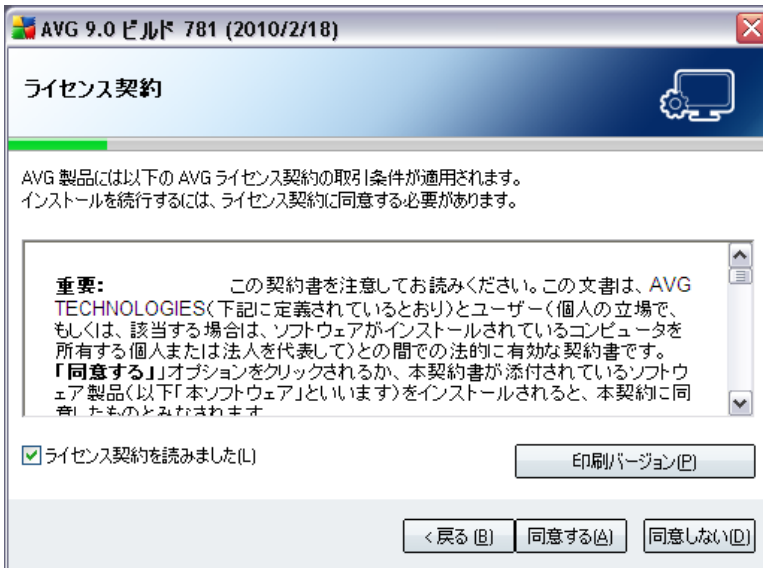
5.1. インストールの実行



インストールプロセスは、**AVG セットアッププログラムへようこそ** ウィンドウから開始します。ここで、インストールに使用される言語を選択します。ダイアログの下部に、**セットアップ言語の選択** メニューが表示されます。ドロップダウンメニューから希望する言語を選択します。**次** ボタンを押し、次のダイアログへ進みます。

注意 :ここで選択する言語はインストールプロセスでのみ使用されます。AVGアプリケーションの言語を選択しているわけではありません。 - AVGアプリケーションの言語は、以後のインストールプロセス中で指定することができます。

5.2. ライセンス契約



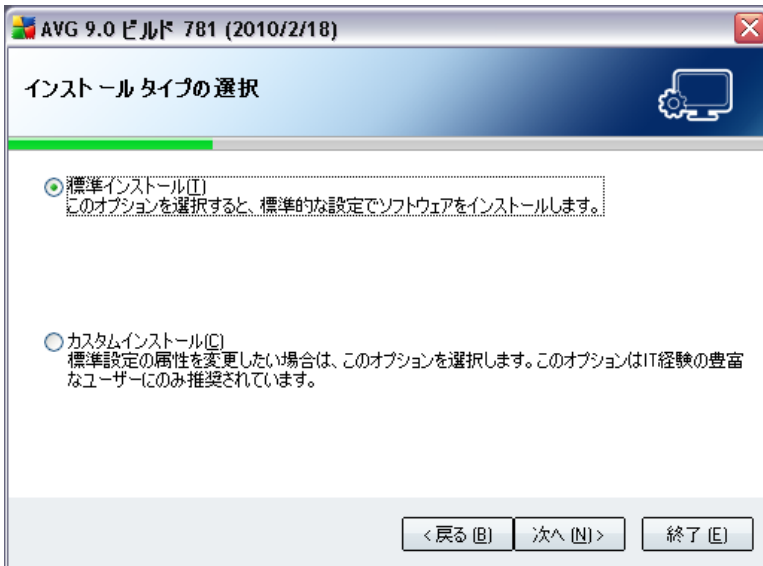
ライセンス契約 ダイアログは、AVGライセンス契約の全文を提供します。契約内容をよく読んで、[**ライセンス契約を読みました**] チェックボックスにチェックを付け、[**同意する**] ボタンをクリックして、契約を読んで理解して同意することを確認します。

ライセンス契約に同意しない場合、**同意しない** ボタンを押してください。インストールプロセスがすぐに中断されます。

5.3. システムステータスのチェック

ライセンス使用許諾を確認したため、[**システムステータスの確認**] ダイアログにリダイレクトします。このダイアログでは一切の作業は必要ありません。AVGのインストール前にシステムがチェックされます。プロセスが終了するまでお待ちください。その後、自動的に次のダイアログが表示されます。

5.4. インストールタイプの選択



インストールタイプの選択ダイアログでは、2つのインストールオプションが提供されます。**標準**と**カスタム**インストールです。

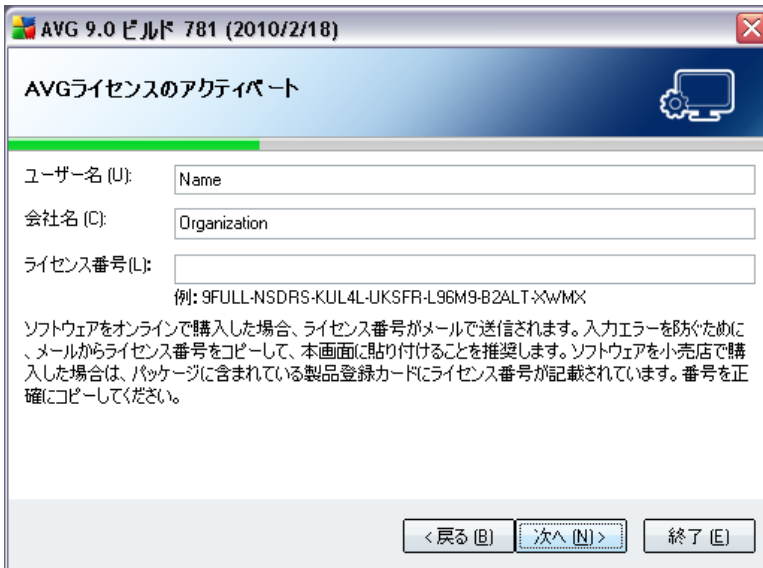
ほとんどのユーザーには、**標準インストール**を選択し、AVGを自動モードでインストールすることが強く推奨されます。この設定は、最適なリソース消費と最大のセキュリティを提供します。将来的に設定の変更の必要が生じた場合、常にAVGアプリケーションで直接変更することができます。

カスタムインストールは、AVGを標準設定でインストールしない正当な理由のある場合、経験のあるユーザーのみが行ってください(例:特定のシステムへの適合)。

5.5. AVG ライセンスをアクティベート

AVG ライセンスのアクティベートダイアログでは、登録データを入力する必要があります。名前 (**ユーザー名**フィールド)と組織名 (**会社名**フィールド)を入力します。

次に、ライセンス番号/セールス番号を**ライセンス番号**テキストフィールドに入力します。セールス番号は、**AVG 9 Anti-Virus** ボックスの CD パッケージに記載されています。ライセンス番号は**AVG 9 Anti-Virus**をオンラインで購入後に受信する確認メールに記載されています。この番号を記載通り正確に入力してください。デジタル形式のライセンス番号が利用できる(メールで)場合は、コピーとペーストを使用して、それを入力することを推奨します。



AVG 9.0 ビルド 781 (2010/2/18)

AVGライセンスのアクティベート

ユーザー名 (U):

会社名 (C):

ライセンス番号 (L):

例: 9FULL-NSDRS-KUL4L-UKSFR-L96M9-B2ALT-XWMX

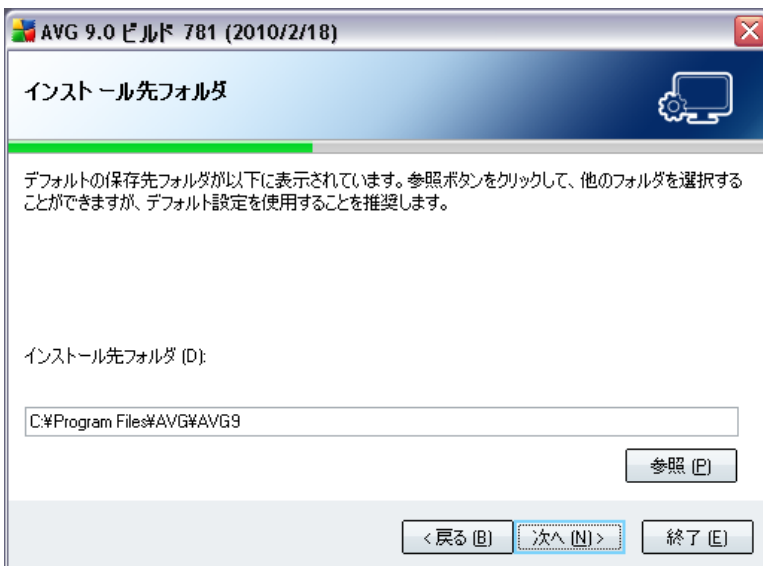
ソフトウェアをオンラインで購入した場合、ライセンス番号がメールで送信されます。入力エラーを防ぐために、メールからライセンス番号をコピーして、本画面に貼り付けることを推奨します。ソフトウェアを小売店で購入した場合は、パッケージに含まれている製品登録カードにライセンス番号が記載されています。番号を正確にコピーしてください。

< 戻る (B) 次へ (N) > 終了 (E)

次へボタンをクリックし、インストールプロセスを続けます。

以前のステップで、標準インストールを選択した場合は、直接 [\[AVG セキュリティツールバー\] ダイアログにリダイレクトされます](#)。カスタムインストールが選択された場合は、[対象フォルダ](#)ダイアログに進みます。

5.6. カスタムインストール - インストール先フォルダ



AVG 9.0 ビルド 781 (2010/2/18)

インストール先フォルダ

デフォルトの保存先フォルダが以下に表示されています。参照ボタンをクリックして、他のフォルダを選択することができますが、デフォルト設定を使用することを推奨します。

インストール先フォルダ (D):

参照 (R)

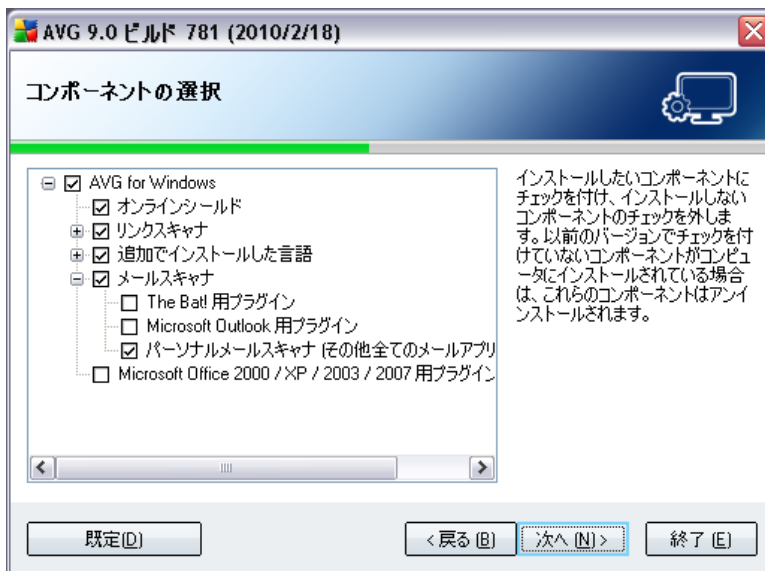
< 戻る (B) 次へ (N) > 終了 (E)

[インストール先 フォルダ] ダイアログでは、**AVG 9 Anti-Virus** をインストールする場所を指定できます。デフォルトでは、AVGは、Cドライブのprogram filesフォルダにインストールされます。フォルダがまだ存在しない場合、新しいダイアログが開き、今すぐAVG によってこのフォルダを作成してもよいかどうかを確認します。

この場所を変更する場合は、[参照] ボタンを使用してドライブ構成を表示し、対象フォルダを選択します。

次へボタンを押して確認します。

5.7. カスタムインストール - コンポーネントの選択



[コンポーネント選択] ダイアログには、インストール可能なすべての **AVG 9 Anti-Virus** コンポーネントの概要が表示されます。デフォルト設定が適当でない場合、特定のコンポーネントを削除/追加することができます。

ただし、購入したAVGに含まれるコンポーネントのみを選択することができます。コンポーネント選択ダイアログでは、これらのコンポーネントのみをインストール可能です。

• 言語選択

インストールするコンポーネント内で、AVG のインストールで使用する言語を定義することができます。追加でインストールする言語をチェックし、希望の言語を選択します。

• メールスキャナプラグイン

[**メールスキャナ**] アイテムをクリックして開き、メールのセキュリティを保證するためにインストールするプラグインを決定します。既定では、**Plugin for Microsoft Outlook** がインストールされます。その他の特定のオプションとしては、**Plugin for The Bat! があります**。その他のメールクライアント (MS Exchange、Qualcomm Eudora、...) を使用している場合は、[**パーソナルメールスキャナ**] オプションに進み、実行されるメールプログラムに関係なく自動的にメール通信の安全を保證してください。

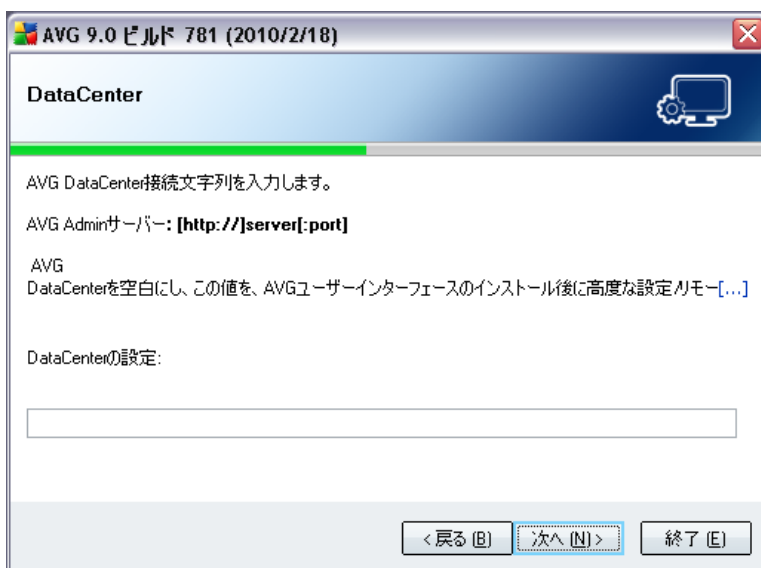
- **リモート管理**

後から AVG Remote Administration にコンピュータを接続する場合、各インストール対象アイテムにもマークを付けてください。

次へボタンを押して続きます。

5.8. AVG DataCenter

AVG ネットワーク ライセンスを使用し、前の [**カスタム インストール - コンポーネント選択**] ダイアログで、[**遠隔管理**] アイテムのインストールを選択した場合、**AVG DataCenter** パラメータを指定する必要があります。

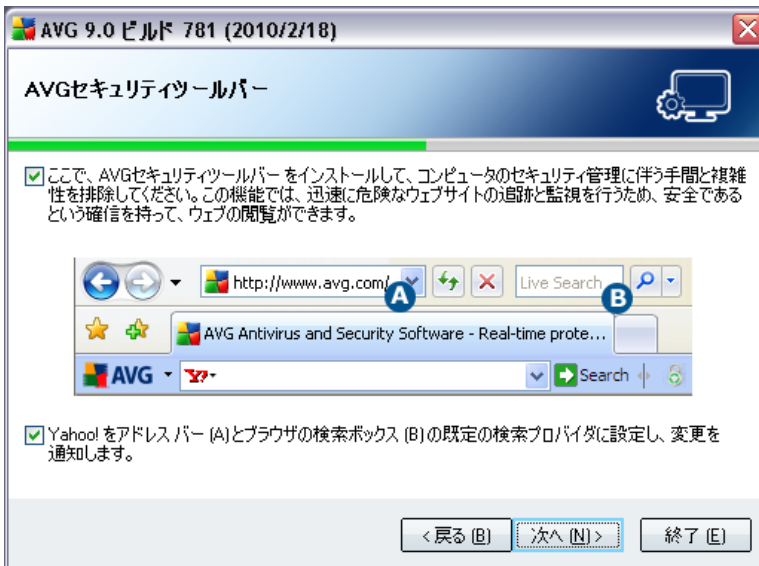


[**AVG DataCenter 指定**] テキストフィールドに、**AVG DataCenter** への接続文字列を サーバー: ポートの形式で入力してください。この時点でこの情報がない場合は、このフィールドを空白にしておくと、後から [**高度な設定 / リモート管理**] ダイアログで設定できます。

注意 :AVG Remote administration の詳細については、AVG Network Edition ユーザーマニュアルを参照してください。このマニュアルは、AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>) からダウンロード

できます。

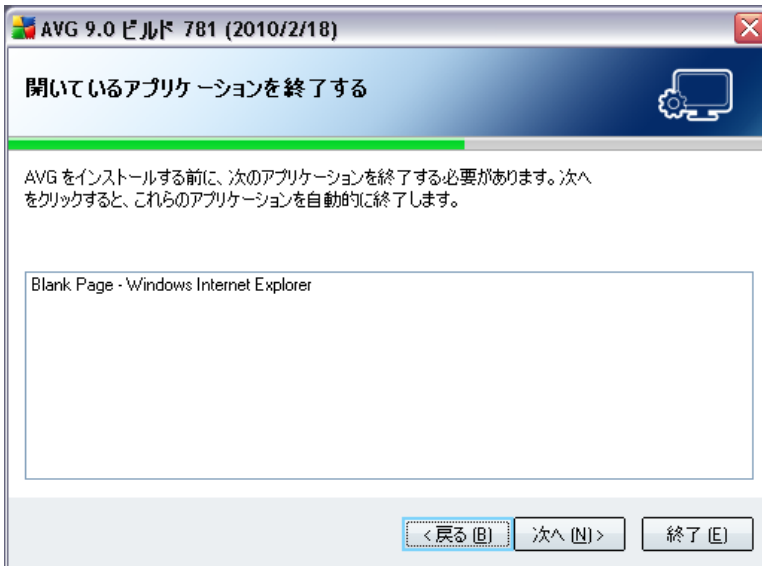
5.9. AVGセキュリティツールバー



[AVG セキュリティツールバー] ダイアログでは、[AVG セキュリティツールバー](#) (サポートされているインターネット検索エンジンによる検索結果の検証) をインストールするかどうかを決定します。デフォルト設定を変更しない場合は、このコンポーネントはインターネットブラウザに自動的にインストールされ (現在サポートされているブラウザは Microsoft Internet Explorer v. 6.0 以上および Mozilla Firefox v. 2.0 以上)、インターネット閲覧中の包括的オンライン保護を提供します。

また、デフォルト検索プロバイダとして Yahoo! を選択するかどうかを決定するオプションがあります。この場合は、該当するチェックボックスにマークを付けてください。

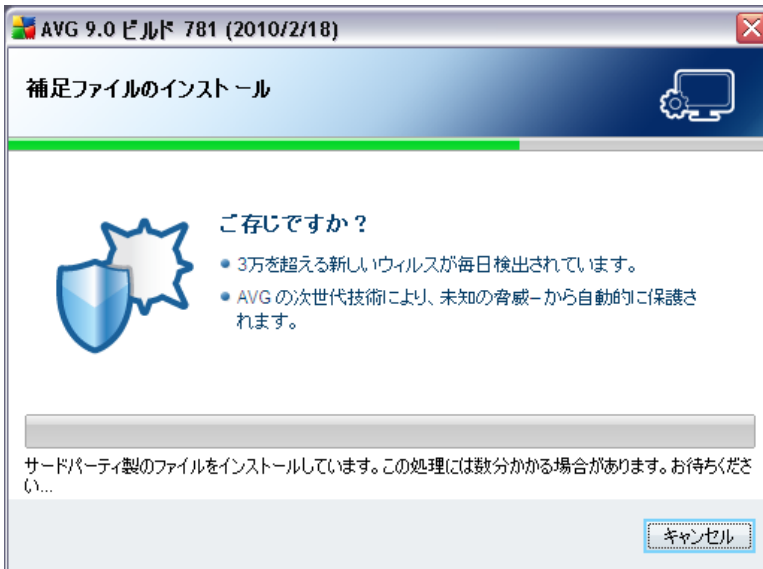
5.10. 開いているアプリケーションを終了する



インストール時点でコンピュータで実行中の他のプログラムが競合する場合にのみ、**[開いているアプリケーションを閉じる]** ダイアログがインストール処理中に表示されます。次に、インストール処理を正常終了させるために終了する必要のあるプログラムのリストが表示されます。**[次へ]** ボタンをクリックして、各アプリケーションを終了することに同意し、次のステップに進みます。

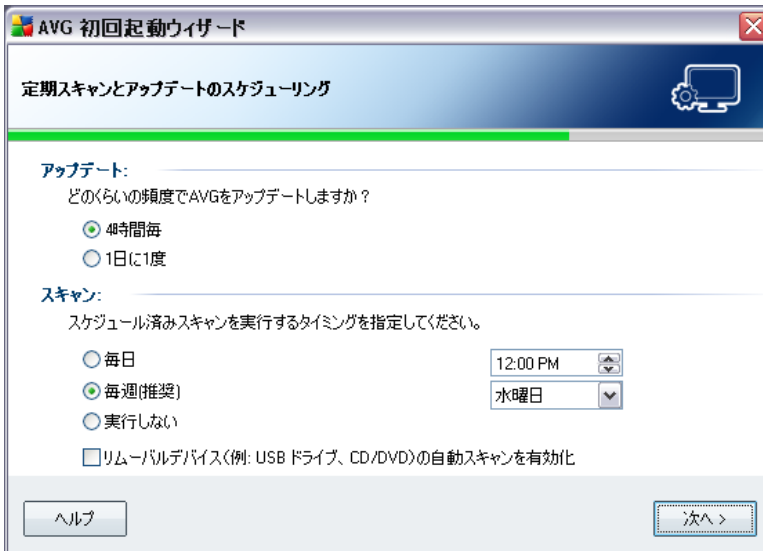
5.11. AVGのインストール

[AVG のインストール] ダイアログは、インストールプロセスの進捗を表示し、ユーザーの操作は必要としません。



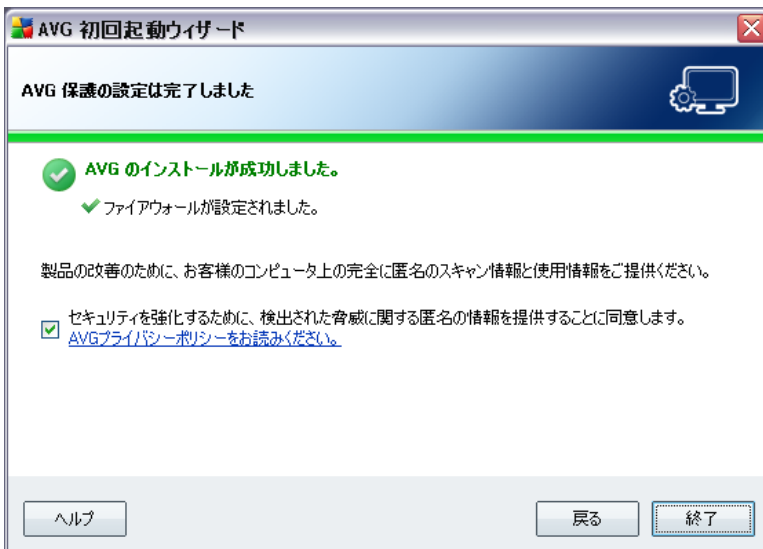
インストールプロセスの終了後、自動的に次のダイアログに進みます。

5.12. 定期スキャンとアップデートのスケジューリング



定期スキャンとアップデートのスケジューリングダイアログでは、アップデートファイルのアクセシビリティチェックの間隔と [スケジュール済みスキャン](#) の実行時間を設定します。デフォルト値を保持することを推奨します。次へボタンを押して続きます。

5.13. AVG 保護設定は完了しています





AVG 9 Anti-Virus が構成 されました。

このダイアログでは、AVG ウィルスラボへのエクスプロイトと悪意のあるサイトの匿名レポートのオプションを有効にするかどうかを決定します。有効にする場合、[**セキュリティ向上のために検出した脅威の情報を匿名で提供します**] オプションにチェックする。

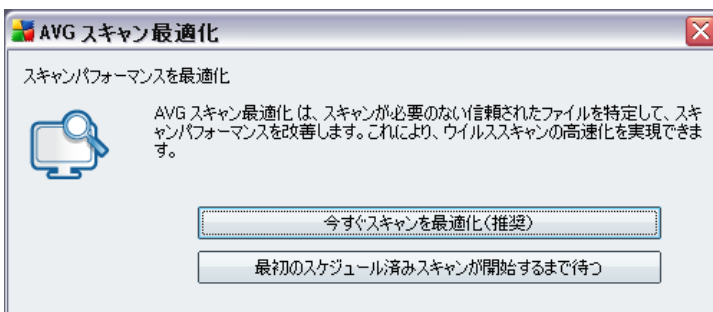
最後に、[**完了**] ボタンをクリックします。

6. インストール後

6.1. スキャン最適化

スキャン最適化機能は、該当するファイルを検出する *Windows* と *Program files* フォルダを検索し (現時点では、*.exe、*.dll、*.sys ファイル)、これらのファイルの情報を保存します。次のアクセス時には、これらのファイルは再度スキャンされず、これによって、スキャン時間が大幅に短縮されます。

インストール処理が完了すると、スキャンを最適化するための新しいダイアログ ウィンドウが表示されます。



[今すぐスキャンを最適化] ボタンをクリックして、このオプションを使用し、スキャン最適化処理を実行することをお勧めします。

6.2. 製品登録

AVG 9 Anti-Virus インストールが終了したら、AVG Webサイト (<http://www.avg.com/>)、[登録] ページで製品のオンライン登録を行ってください (画面上の指示にしたがってください)。登録後、AVGユーザーアカウント、AVGアップデートニュースレター、その他登録ユーザーのみに提供されるサービスが利用できるようになります。

6.3. ユーザーインターフェースへのアクセス

AVGユーザーインターフェースには複数の方法でアクセスできます。

- システムトレイのAVGアイコンをダブルクリックします。
- デスクトップのAVGアイコンをダブルクリックします。
- メニューから**スタート/ すべてのプログラム/ AVG 9.0/ AVGユーザーインターフェース**を選択します。

6.4. 全コンピュータをスキャン

AVG 9 Anti-Virus インストール前にウイルスが感染している可能性があります。このため、[全コンピュータをスキャン](#)を実行して、PCが感染していないことを確認してください。

[全コンピュータをスキャン](#)を実行する方法については、[AVGスキャン](#)の章を参照してください。

6.5. Eicarテスト

AVG 9 Anti-Virus が正常にインストールされたことを確認するために、EICAR テストを実行できます。

EICARテストは、ウイルス対策システムの機能をテストするために使用される、標準的で完全に安全な方法です。これは実際のウイルスではなく、危険なコードを一切含まないため、万一検出されなくてもコンピュータが危険にさらされることはありません。ほとんどの製品は、これがあたかもウイルスであるかのように反応します（「EICAR-AV-Test」のような明確な名称で報告されます。）。EICARのWebサイト www.eicar.com でEICARウイルスをダウンロードすることができ、また、そこですべての必要なEICARテスト情報も入手できます。

ecar.com ファイルをダウンロードし、それをローカルディスクに保存します。検査ファイルのダウンロードを確認後すぐに、[オンラインシールド](#)が警告とともにそれに反応します。この通知は、AVG が正常にコンピュータにインストールされていることを証明します。



<http://www.eicar.com> ウェブサイトから、圧縮された (*eicar_com.zip* 形式) EICAR ウィルスをダウンロードすることもできます。[オンラインシールド](#)によって、このファイルをダウンロードし、ローカルディスクに保存できますが、解凍しようとするとき、[常駐シールド](#)がウイルスを検出します。**AVGがEICARテストファイルをウイルスとして特定できない場合、プログラム設定を再度確認する必要があります。**

6.6. AVGデフォルト設定

のデフォルト設定 (アプリケーションがインストール後に正しく動作するための初期設定) **AVG 9 Anti-Virus** では、すべてのコンポーネントと機能が最適なパフォーマンスで動作するよう設定されています。

特に理由がない場合、AVGの設定を変更しないでください。設定に対するいかなる変更も、経験者ユーザーのみが行うようにして下さい。

[AVGコンポーネント](#)の基本的な設定は、各コンポーネントのユーザーインターフェースから直接変更することができます。AVG設定を変更する必要がある場合、[AVG高度な設定](#)を使用します。システムメニューアイテム **ツール/高度な設定** を選択し、[AVG高度な設定](#) ダイアログでAVG設定を変更します。

7. AVG ユーザーインターフェース

AVG 9 Anti-Virus はメイン ウィンドウで開きます。



メインウィンドウは複数のセクションに分けられます。

- **システムメニュー** (ウィンドウ上のシステムライン)は標準ナビゲーションであり、すべてのAVGコンポーネント、サービス、機能にアクセスすることができます。 - [詳細 >>](#)
- **セキュリティステータス情報** (ウィンドウ上部のセクション)には、現在のAVGプログラムのステータスが表示されます。 - [詳細 >>](#)
- **クイックリンク** (ウィンドウの左のセクション)では、最も重要で最も頻繁に使用されるAVGタスクにすぐにアクセスすることができます。 - [詳細 >>](#)

- **コンポーネント概要** (ウィンドウ中央部)は、インストールされたAVGコンポーネントの概要が表示されます。 - [詳細 >>](#)
- **統計** (ウィンドウ左下部)では、プログラムに関する統計データが表示されます。 - [詳細 >>](#)
- **システムトレイアイコン** (モニター右下端のシステムトレイ)では、現在のAVGステータスが表示されます。 - [詳細 >>](#)

7.1. システムメニュー

システムメニューは、すべてのWindowsアプリケーションで使用される標準のナビゲーションです。**AVG 9 Anti-Virus** メイン ウィンドウの最上部に横方向に表示されます。システムメニューを使用して、AVGの各コンポーネント、機能、サービスにアクセスします。

システムメニューは5つの主要なセクションにわかれています。

7.1.1. ファイル

- **終了** - **AVG 9 Anti-Virus**のユーザーインターフェースを閉じます。ただし、AVGアプリケーションはバックグラウンドで実行され、コンピュータは保護されます。

7.1.2. コンポーネント

システムメニューの**コンポーネント**には、インストールされたすべてのAVGコンポーネントへのリンクが含まれ、選択すると各デフォルトページが表示されます。

- **システム概要** - [インストールされたすべてのコンポーネントとそのステータスの概要を表示します。](#)
- **ウイルス対策** - [ウイルス対策](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **ルートキット対策** - [ルートキット対策](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **スパイウェア対策** - [スパイウェア対策](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **リンクスキャナ** - [リンクスキャナ](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **メールスキャナ** - [メールスキャナ](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **ライセンス** - [ライセンス](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。
- **オンラインシールド** - [オンラインシールド](#)コンポーネントのデフォルトページを開きます。
- **常駐シールド** - [常駐シールド](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。

- **アップデート** - [アップデートマネージャ](#)コンポーネントのデフォルトページを表示します。

7.1.3. 履歴

- **スキャン結果** - AVGスキャンインターフェースの[スキャン結果概要](#)ダイアログを表示します。
- **常駐シールド検出** - 常駐シールドによって検出された脅威の概要ダイアログを開きます。
- **メールスキャナ検出** - [メールスキャナ](#)コンポーネントによって検出されたメールの概要ダイアログを開きます。
- **オンラインシールド検出** - [オンラインシールド](#)
- **ウイルス隔離室** - 隔離スペース ([ウイルス隔離室](#)) インターフェースを開きます。AVGは、検出、または何らかの理由で自動修復できなかったすべての感染をここに移動します。隔離室内では、感染ファイルは隔離され、コンピュータの安全は保障されます。同時に感染ファイルは将来の修復に備えて保存されます。
- **イベント履歴ログ** - **AVG 9 Anti-Virus**すべてのログに記録されたアクションの概要履歴インターフェースを開きます。

7.1.4. ツール

- **コンピュータスキャン** - [AVGスキャンインターフェース](#)に切り替わり、スキャンを実行します。
- **特定フォルダのスキャン** - [AVGスキャンインターフェース](#)に切り替わり、スキャンするファイルとフォルダを設定できます。
- **ファイルスキャン** - 特定ファイルを指定してスキャンを実行することができます。
- **アップデート** - 自動的にアップデートプロセスを実行します。 **AVG 9 Anti-Virus**
- **ディレクトリからのアップデート** - ローカルディスクの指定フォルダ内のアップデートファイルからアップデートプロセスを実行します。ただし、このオプションは緊急時にのみ推奨されます。例えば、インターネット接続がない場合 (例えば、コンピュータが感染し、インターネットから切断されている状況。コンピュータはネットワークに接続されているがインターネットアクセスがない場合等)、フォルダの参照ウィンドウで、アップデートファイルを保存したフォルダを選択し、アップデートプロセスを実行します。
- **高度な設定** - [AVG高度な設定](#)ダイアログを開きます。ここでは**AVG 9 Anti-Virus**各項目の設定を編集できます。通常、定義済みのデフォルト設定を使用してください。

7.1.5. ヘルプ

- **目次** - AVGヘルプファイルを開きます。
- **オンラインヘルプ** - AVG Free Webサイトのカスタマーサポートセンターページを開きます (<http://www.avg.com/>)。
- **AVG Web** - AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>)を開きます。
- **ウイルスと脅威について** - オンラインの**ウイルスエンサイクロペディア**を開きます。ここでは、特定されたウイルスに関する詳細情報を検索することができます。
- **再アクティベート** インストールプロセスの [**AVG のパーソナライズ**] ダイアログで入力したデータとともに、 [**AVG のアクティベート**] ダイアログが表示されます。このダイアログ内では、ライセンス番号を入力し、セールス番号 (AVGをインストールした際の番号) を置き換えるか、古いライセンス番号 (例えば、新しいAVG製品にアップグレードした場合) を置き換えることができます。
- **今すぐ登録** - AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>)の登録ページに接続します。登録データを入力してください。AVG製品を登録したお客様のみが無料テクニカルサポートを受けることができます。

注意: **AVG 9 Anti-Virus** の試用版を使用している場合は、最後の2つの項目が [**今すぐ購入**] および [**アクティベート**] として表示され、完全バージョンの製品をすぐに購入できません。セールス番号でインストールされている **AVG 9 Anti-Virus** の場合、 [**登録**] および [**アクティベート**] として表示されます。詳細については、このマニュアルの「[ライセンス](#)」を参照してください。

- **AVGについて** - **情報** ダイアログを開きます。このダイアログでは、プログラム名、プログラムとウィルスデータベースバージョン、システム情報、ライセンス契約、**AVG Technologies CZ**の連絡先情報を確認することができます。

7.2. セキュリティステータス情報

セキュリティステータス情報 セクションはAVGメインウィンドウの上部にあります。このセクションでは、**AVG 9 Anti-Virus**の現在のセキュリティステータスに関する情報が常に表示されます。このセクションで表示されるアイコンの意味は以下の通りです。



緑のアイコンはAVGが完全に機能していることを示します。コンピュータは完全に保護され、最新のインストール済みのコンポーネントが適切に動作しています。



オレンジのアイコンは、1つあるいは複数のコンポーネントが間違っ て設定され、プロパティ設定に注意する必要があることを警告しています。AVGには致命的な問題はなく、おそらく何らかの理由で一部のコンポーネントをオフにしたものと思われます。コンピュータはAVGによって保護されています。ただし、問題のコンポーネントの設定に注意してください。その名前は **セキュリティステータス情報** セクションに表示されます。

このアイコンは、何らかの理由で、[コンポーネントのエラー状態を無視](#) することにした場合にも表示されます ([[コンポーネント状態を無視](#)] オプションはAVGメインウィンドウのコンポーネント概要にある該当するコンポーネントアイコンを右クリックすると開くコンテキストメニューで利用できます)。特定の場 合にこのオプションを使用する必要があるかもしれませんが、[[コンポーネント状態を無視](#)] オプションはすぐにオフにすることを強く推奨します。



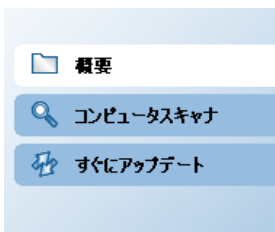
赤のアイコンは AVG が重大な状況にあることを示しています。1つあるいは複数のコンポーネントが適切に動作しておらず、AVGがコンピュータを保護できません。報告された問題を修復してください。エラーを自分で修復できない場合、[AVGテクニカルサポート](#) チームにお問い合わせください。

セキュリティステータス情報に注意し、問題がレポートされた場合にはすぐに解決することを強く推奨します。そうでない場合、コンピュータが危険にさらされます。

注意 :AVGステータス情報は、[システムトレイアイコン](#)からも取得可能です。

7.3. クイックリンク

クイックリンク([AVGユーザーインターフェースの左側のセクション](#))では、最も重要で、最も頻繁に使用されるAVG機能に直接アクセスできます。



- **概要**- このリンクをクリックすると、すべてのインストールされたコンポーネントの概要を含むデフォルトインターフェースへ切り替わります- [コンポーネント概要の章を参照 >>](#)
- **コンピュータスキャン**- このリンクをクリックすると、AVG スキャンインターフェースが表示されます。ここでは、直接スキャンを実行したり、スキャンをスケジュールしたり、パラメータを編集するこ

ことができます - [AVG スキャンの章を参照 >>](#)

- **すぐにアップデート** - このリンクはアップデートインターフェースを開き、AVGアップデートプロセスを実行します。 - [AVG アップデートの章を参照 >>](#)

これらのリンクは、ユーザーインターフェースから使用することができます。一度、クイックリンクを使用して特定のプロセスを実行すると、GUIは新しいダイアログに切り替わりますが、クイックリンクはまだ利用できます。さらに、実行中のプロセスは、よりグラフィカルに表示されます。

7.4. コンポーネント概要

[**コンポーネント概要**] セクションは[AVGユーザーインターフェース](#)の中央部にあります。このセクションは2つの箇所にわかれています。

- コンポーネントアイコン表示によるインストール済みコンポーネントの概要と、各コンポーネントの有効/無効を示す情報
- 選択されたコンポーネントの説明

AVG 9 Anti-Virus の [**コンポーネント概要**] セクションには、次のコンポーネントの情報が示されません。

- **ウイルス対策**は、コンピュータに侵入しようとするウイルスからコンピュータを確実に保護します。 - [詳細>>](#)
- **スパイウェア対策**は、アプリケーションが実行されるたびに、バックグラウンドでアプリケーションをスキャンします。 - [詳細>>](#)
- **リンクスキャナ**は、インターネットブラウザに表示される検索結果をチェックします - [詳細>>](#)
- **ルートキット対策**はマルウェアを隠そうとするプログラムと技術を検出します。 - [詳細>>](#)
- **メールスキャナ**は、すべての送受信メールのウイルスチェックを行います。 - [詳細>>](#)
- **ライセンス**には、ライセンス番号、種類、有効期限が表示されます - [詳細 >>](#)
- **オンラインシールド**は、ウェブブラウザからダウンロードされるすべてのデータをスキャンします - [詳細>>](#)
- **常駐シールド**は、バックグラウンドで実行され、ファイルがコピーされたり開かれたり保存される際にそのファイルをスキャンします。 - [詳細>>](#)
- **アップデートマネージャ**は、すべてのAVGアップデートをコントロールします。 - [詳細>>](#)

いずれかのコンポーネントアイコンをシングルクリックすると、コンポーネントが選択されます。同時に、ユーザーインターフェースの下部にコンポーネントの基本機能説明が表示されます。アイコンをダブルクリックすると、コンポーネントのインターフェースが表示されます。

コンポーネントのアイコン上でマウスを右クリックし、コンテキストメニューを展開します。コンポーネントのグラフィックインターフェースを開く以外にも、**コンポーネント状態を無視**を選択できます。このオプションを選択して、**コンポーネントのエラー状態**を認識していると示しますが、何らかの理由で、**システムトレイアイコン**による警告を表示したくない場合は、AVGをそのままに保つことができます。


7.5. 統計


AVGユーザーインターフェースの左下部には[統計]セクションがあります。これはプログラム操作に関する情報のリストを提供します。

- **最終スキャン** - 最後にスキャンが実行された日付を表示します
- **最終更新** - 最後の更新が起動した日付を表示します。
- **ウイルスDB** - 現在インストール済みのウイルスデータベースのバージョンを表示します。
- **AVGバージョン** - インストール済みのAVGのバージョンを表示します (番号は、9.0.xxの形式で表示され、9.0は製品ラインバージョンであり、xxはビルド番号を表します)
- **ライセンス有効期限** - AVGライセンスの有効期限を表示します。

7.6. システムトレイアイコン

システムトレイアイコン (Windows タスクバー上) は、**AVG 9 Anti-Virus** の現在の状態を示します。このアイコンは、AVGのメインウィンドウが表示されているかどうかにかかわらず、システムトレイ上に常に表示されます。

全色の場合 、**システムトレイアイコン**はすべてのAVGコンポーネントが有効であり、完全に機能していることを意味します。また、AVGシステムトレイアイコンは、AVGがエラー状態にある場合にも全色で表示されますが、ユーザーはこの状況を完全に認識しており、慎重に**コンポーネント状態を無視**することを決定しています。

アイコンとエクスクラメーションマーク  は、問題を示します (非アクティブなコンポーネント、エラー状態など)。**システムトレイアイコン**をダブルクリックして、メインウィンドウを開き、コンポーネントを編集します。

さらに、システムトレイアイコンは、現在のAVG活動とプログラム内で起こりうるステータス変更を通知します (スケジュールされたスキャンまたはアップデートの自動起動、コンポーネントのステータス変更、エラーステータスの発生など)。これは、AVGシステムトレイアイコンから開くポップアップウィンドウに表示されます。



システムトレイアイコンはまた、クイックリンクとしても使用され、アイコンをダブルクリックすることでAVGメインウィンドウにいつでもアクセスできます。システムトレイアイコンを右クリックすると、以下のオプションの簡単なコンテキストメニューを開きます。

- **AVGユーザーインターフェースを開く** - クリックすると[AVGユーザーインターフェースが表示されます。](#)
- **アップデート** - すぐに[アップデートを起動します。](#)

8. AVGコンポーネント

8.1. ウイルス対策

8.1.1. ウイルス対策 原理

ウイルス対策ソフトウェアのスキャンエンジンは、既知のウイルスに対して、すべてのファイルとその活動（ファイルオープン/クローズ等）をスキャンします。検出されたウイルスは動作をブロックされ、除去、または隔離されます。大部分のウイルス対策ソフトウェアは、ヒューリスティックスキャンも使用します。これによりファイルは一般的なウイルスの特性、つまりウイルスシグネチャ、に基づいてスキャンされます。これは、新種のウイルスが既存のウイルス特性を含む場合、未知のウイルスであっても検出可能であることを意味します。

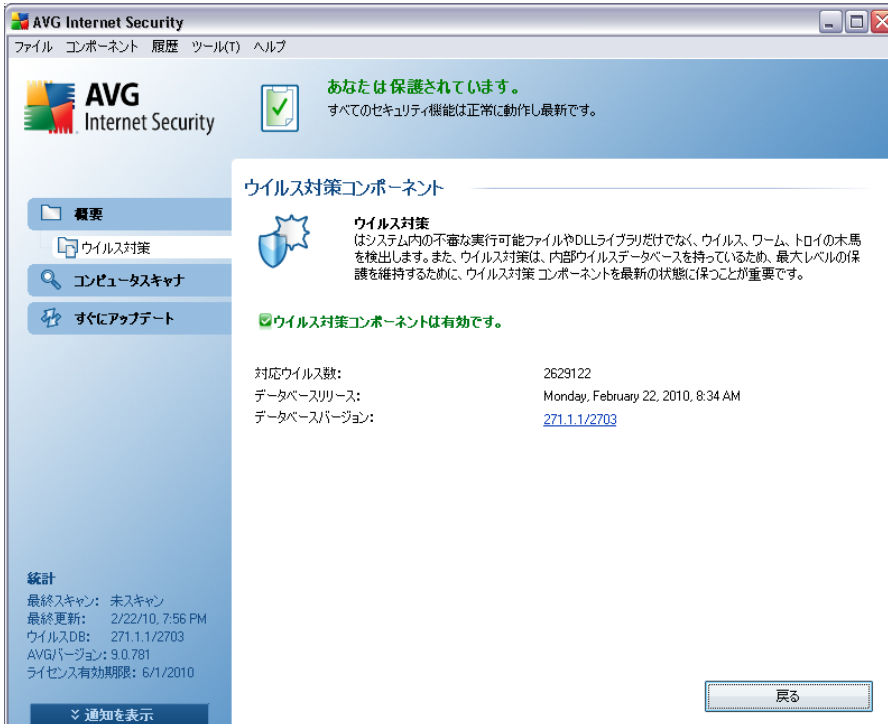
ウイルス対策の重要な機能は、既知のウイルスはコンピュータで実行されないということです。

1つの技術だけではウイルスを検出、特定できない場合、**ウイルス対策**は、複数の技術を結合し、コンピュータがウイルスから保護されていることを保証します。

- スキャン- ウイルス特性文字列のスキャン
- ヒューリスティック分析 - 仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション
- 一般検出 - ウイルス/ウイルスグループの命令特性の検出

AVGはまた、不審な実行可能アプリケーションやDLLライブラリを分析、検出することができます。このような脅威を不審なプログラムと呼んでいます（各種スパイウェア、アドウェア等）。さらに、AVGは疑わしいエントリ、インターネット一時ファイル、tracking cookiesに対しシステムレジストリをスキャンし、潜在的に有害なアイテムを他の感染と同様に処理することができます。

8.1.2. ウイルス対策インターフェース



ウイルス対策コンポーネントのインターフェースは、一部の基本的なコンポーネントの機能に関する情報、コンポーネントの現在のステータスに関する情報（ウイルス対策コンポーネントがアクティブです等）、簡単なウイルス対策統計の概要が表示されます。

- **ウイルス定義数** - 番号はウイルスデータベースの最新バージョンで定義されているウイルス数です。
- **最新データベース更新** - ウイルスデータベースが最後にアップデートされた日時を指定します。
- **データベースバージョン** - 最新のウイルスデータベースバージョン番号が表示されます。この番号はウイルスアップデートごとに変更されます。

コンポーネントのインターフェースで利用できる操作ボタンは1つです（戻る）。 - このボタンを押すと、デフォルトのAVGユーザーインターフェース（コンポーネント概要）に戻ります。

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテムツール/



高度な設定を選択し、[AVG高度な設定](#)ダイアログで設定を編集します。

8.2. スパイウェア対策

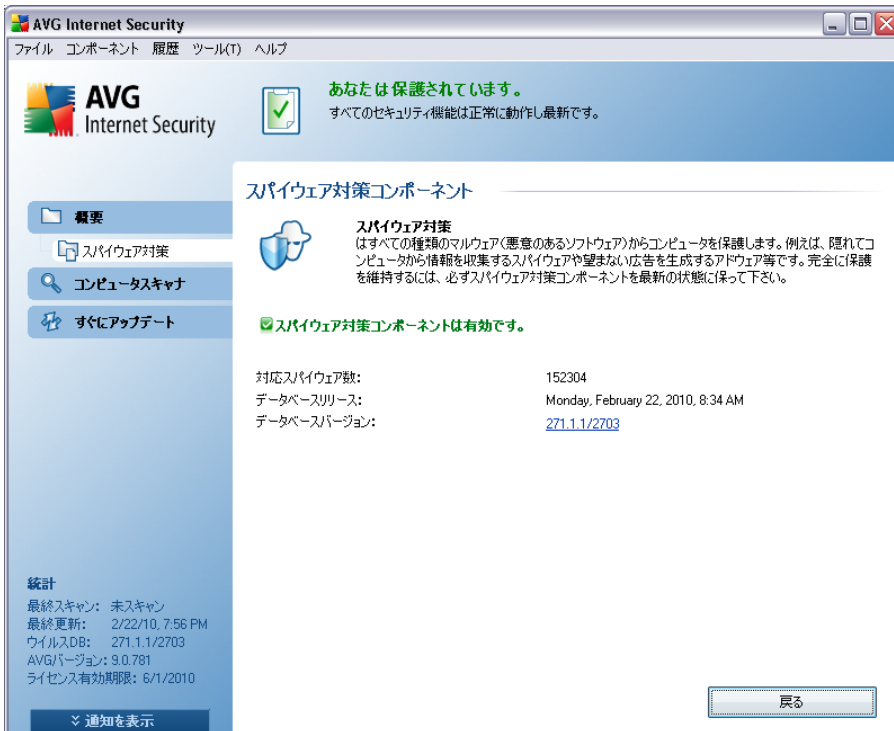
8.2.1. スパイウェア対策 原理

スパイウェアは、通常、ユーザーが知らない間に許可なくコンピュータから情報を収集するようなマルウェアの一種として定義されます。一部のスパイウェアアプリケーションは、故意にインストールされることもあり、広告やウィンドウポップアップ、その他の不快なソフトウェアを含む場合があります。

現在、大部分の感染原因は、潜在的に危険な内容を含むWebサイトです。メールを介してのワーム、ウイルスの送信といったその他の感染方法も広まっています。常にバックグラウンドスキャンをオンにして、**スパイウェア対策**を使用することが重要です。これは常駐シールドのように機能し、アプリケーションを実行する際にそれをバックグラウンドでスキャンします。

また、マルウェアがAVGをインストールする前にコンピュータに送信されたり、あるいは、最新の**AVG 9 Anti-Virusデータベースを維持し、プログラムのアップデート**を行わなかったという潜在的なリスクもあります。このため、AVGでは、スキャン機能を使用して、マルウェアやスパイウェアを検出することができます。また、休止中で、アクティブではないマルウェアも検出します。例えば、ダウンロードされ、またアクティブ化されていないマルウェアも検出されます。

8.2.2. スパイウェア対策インターフェース



スパイウェア対策コンポーネントのインターフェースは、基本的なコンポーネントの機能、コンポーネントの現在のステータス(スパイウェア対策コンポーネントがアクティブです。等)、スパイウェア対策統計に関する情報が表示されます。

- **スパイウェア定義数**- 最新のスパイウェアデータベースバージョンで定義されたスパイウェアサンプルの数が表示されます。
- **最終データベース更新**- スパイウェアデータベースが最後にアップデートされた日時が表示されます。
- **データベースバージョン**- 最新のスパイウェアデータベースバージョン番号が表示されます。この番号はアップデートごとに増加します。

コンポーネントのインターフェースで利用できる操作ボタンは1つです(戻る)。- このボタンを押すと、デフォルトのAVGユーザーインターフェース(コンポーネント概要)に戻ります。

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテムツール

高度な設定を選択し、[AVG高度な設定](#)ダイアログで設定を編集します。

8.3. ルートキット対策

ルートキットは、システムの所有者や正式な管理者の許可なしで、コンピュータシステムの基本的なコントロールを実行するように設計されたプログラムです。ルートキットは、ハードウェア上で実行されているオペレーティングシステムのコントロールを掌握するよう意図されているため、ハードウェアへのアクセスはほとんど必要とされません。一般的には、ルートキットは、標準のオペレーティングシステムのセキュリティメカニズムを破壊したり回避したりすることで、システム上でその存在を隠すように動作します。一般的に、それは同時にトロイの木馬でもあり、システムで実行しても安全であるかのようにユーザーを騙し、信じこませます。これを実現させる技術によって、実行中のプロセスをプログラム監視から隠したりオペレーティングシステムからファイルやシステムデータが隠されることもあります。

8.4. メールスキャナ

最も一般的なウイルスとトロイの木馬の感染源の一つはメールです。フィッシング、スパムはメールをさらに大きなリスクソースとします。無料メールアカウントは、さらにこのような悪意のあるメールを受信する可能性が高くなり(これらはめったにスパム対策技術を導入していないため)、かなりのホームユーザーはこのようなメールを利用しています。また、ホームユーザーは、不明なサイトをインターネットサーフィンしたり個人情報(メールアドレスなど)を含むオンラインフォームに情報を入力し、メールを介しての攻撃にさらされる機会を増やします。会社は、通常会社のメールアドレスを使用し、スパム対策フィルタ等を導入してリスクを削減します。

8.4.1. メールスキャナ 原理

メールスキャナコンポーネントは、自動的に送受信メールをスキャンします。AVG にプラグインのないメールクライアント(Outlook Express、Mozilla、Incredimail など)で使用できます。)

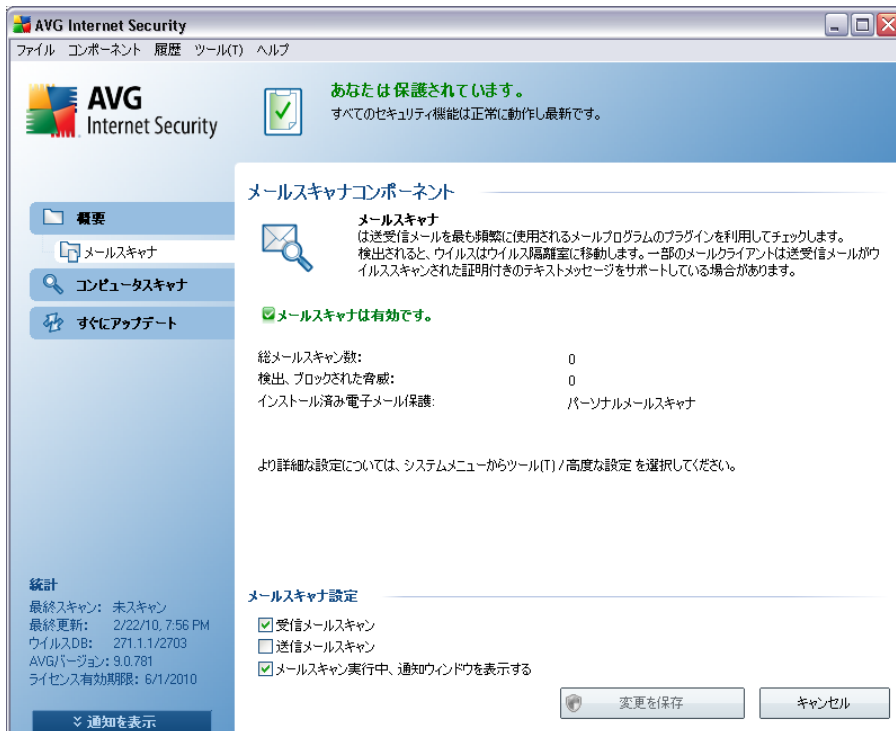
AVG [インストール中に](#) AVG ではメール制御用の自動サーバーが作成されます。1 つは受信メールチェック用で、もう1 つは送信電子メールチェック用です。この2 つのサーバーを使用して、メールは自動的にポート 110 と25 (送受信メールの標準ポート)でチェックされます。

パーソナルメールスキャナはメールクライアントとインターネット上のメールサーバーのインターフェースとして動作します。

- **受信メール** :サーバーからメッセージを受信している間、**メールスキャナ**コンポーネントはウイルススキャンを行い、感染した添付ファイルを削除し、証明書を追加します。検出されたウイルスは、即時に[ウイルス隔離室](#)に隔離されます。次にメッセージはメールクライアントに渡されます。
- **送信メール** :メールクライアントからメールスキャナにメッセージが送信されます。メッセージと添付ファイルはウイルススキャンされ、その後にメッセージが SMTP サーバーに送信されます(送信メールのスキャンは既定では無効で、手動で設定できます)。

注意 :AVG メールスキャナはサーバープラットフォームには対応していません。

8.4.2. メールスキャナインターフェース



メールスキャナコンポーネントダイアログでは、コンポーネントの機能を説明する簡潔なテキスト、現在のステータスに関する情報（メールスキャナはアクティブです。等）、また以下の統計が表示されます。

- **合計スキャン済み電子メール数** - 前回電子メールスキャナが起動してからスキャンされた電子メールメッセージ数（必要に応じて、統計目的などで値のリセットを使用して、この値をリセットできます）。
- **検出、ロックされた脅威** - メールスキャナ起動後、検出された感染数が表示されます。
- **インストール済みのメール保護** - 既定のインストール済みメールクライアントに対応する特定の電子メール保護プラグインに関する情報

基本コンポーネント設定

ダイアログの下部には、**メールスキャナ設定**というセクションが表示されます。ここではコンポーネント機能の基本的な機能を編集することができます。

- **受信メッセージのスキャン** - アイテムをチェックすると、すべてのアカウントに送信されたメールがウイルススキャンされるように指定できます。既定では、このアイテムはオンです。この設定を変更しないことをお勧めします。
- **送信メールスキャン** - このアイテムにチェックを付けると、アカウントからの送信されるすべてのメールのウイルススキャンが実行されるようになります（既定ではこのアイテムはオフになっています）
- **電子メールのスキャン中に通知アイコンを表示** - このアイテムにチェックを付けると、[電子メールスキャン](#) コンポーネントで電子メールをスキャンしているときに、システムトレイの AVG アイコン上に表示される通知ダイアログで通知することを確認します。既定では、このアイテムはオンです。この設定を変更しないことをお勧めします。

メールスキャンコンポーネントの高度な設定はシステムメニューの **ツール/高度な設定** アイテムで利用できます。ただし、高度な設定は経験者ユーザー向けとして推奨されています！

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテム**ツール/高度な設定**を選択し、[AVG高度な設定](#)ダイアログで設定を編集します。

コントロールボタン

メールスキャナインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **変更を保存** - このボタンを押すと、ダイアログで行われた変更を保存、適用します。
- **戻る** - このボタンを押すと、デフォルトの[AVGユーザーインターフェース](#) (コンポーネント概要) に戻ります

8.4.3. メールスキャナ検出



[電子メール スキャナ検出] ダイアログ ([システム メニュー] オプションの [履歴/電子メール スキャナ 検出] からアクセスできます)では、**電子メールスキャナコンポーネントによって検出されたすべての結果 リストが表示されます**。検出された各 オブジェクトについて、以下の情報が提供されます。

- **感染**- 検出されたオブジェクトの説明 (可能な場合は名前も)
- **オブジェクト** オブジェクトの場所
- **結果**- 検出されたオブジェクトで実行されたアクション
- **検出時刻** - 不審なオブジェクトが検出された日時
- **オブジェクトタイプ** 検出されたオブジェクトの種類

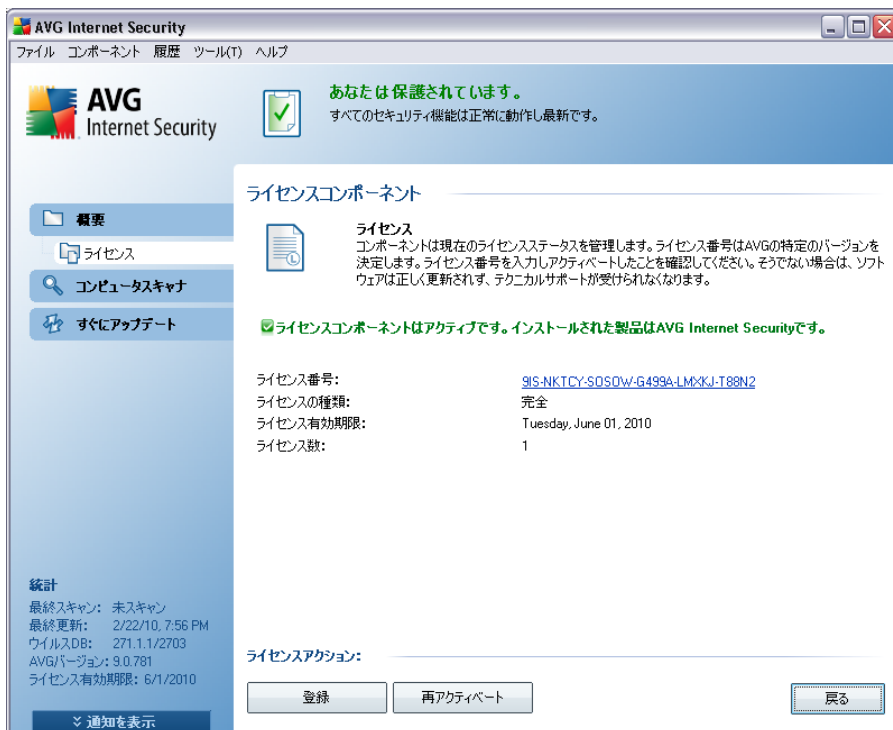
ダイアログの下部では、リストの下に上記でリストされた検出 オブジェクトの総数に関する情報が表示されます。さらに、検出 オブジェクトの完全なリストをファイルにエクスポート (**ファイルにエクスポート**)し、検出 オブジェクトのすべてのエントリを削除 (**リストを空にする**)ことができます。

コントロールボタン

メールスキャナ検出インターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **リストを更新** - 検出された脅威のリストの更新
- **戻る** - 既定の [AVG ユーザーインターフェース](#) (コンポーネント概要)に戻ります。

8.5. ライセンス



ライセンスコンポーネントインターフェースでは、コンポーネントの機能を説明する簡潔なテキスト、現在のステータスに関する情報 (ライセンスコンポーネントは有効です。等)、以下の情報が表示されます。

- **ライセンス番号**- 正式なライセンス番号が表示されます。ライセンス番号を入力する際に、完全に正確に表示されているとおりにタイプする必要があります。したがって、ライセンス番号を誤って入力しないように、「コピーと貼り付け」を必ず使用することを強くお勧めします。
- **ライセンスタイプ**- インストールされている製品のタイプを指定します。

- **ライセンス有効期限**- この日付はライセンスの有効期間です。**AVG 9 Anti-Virus**この日付の後もを使用し続けたい場合は、ライセンスを更新する必要があります。[ライセンスの更新](#)はAVGのウェブサイト (<http://www.avg.com/>)でオンラインで行うことができます。
- **ワークステーション数**- をインストールできるワークステーションの数です。**AVG 9 Anti-Virus**

コントロールボタン

- **今すぐ登録** - AVG ウェブサイト (<http://www.avg.com/>)の登録ページに接続します。登録データを入力してください。AVG製品を登録したお客様のみが無料テクニカルサポートを受けることができます。
- **再アクティベート** では、[AVG のパーソナライズ](#) ダイアログで入力したデータとともに、**[AVG のアクティベート]** ダイアログが表示されます。このダイアログ内では、ライセンス番号を入力し、セールス番号 (AVGをインストールした際の番号)を置き換えるか、古いライセンス番号 (例えば、新しいAVG製品にアップグレードした場合)を置き換えることができます。

注意: AVG 9 Anti-Virus の試用版を使用している場合は、**[今すぐ購入]** ボタンおよび**[アクティベート]** ボタンが表示され、完全バージョンの製品をすぐに購入できます。セールス番号でインストールされている**AVG 9 Anti-Virus** の場合、**[登録]** ボタンおよび**[アクティベート]** ボタンが表示されます。

- **戻る** - このボタンを押すと、デフォルトの[AVGユーザーインターフェース](#) (コンポーネント概要)に戻ります。

8.6. リンクスキャナ

8.6.1. リンクスキャナ原理

LinkScanner は、ウェブブラウザやプラグイン経由でマルウェアをコンピュータにインストールするように設計されているウェブサイトに対する保護を提供します。**LinkScanner** 技術は、[AVG サーチシールド](#)と[AVG アクティブサーフシールド](#)の2つの機能から構成されています。

- [AVG サーチシールド](#)には、危険であることが確認されているウェブサイト (URL アドレス)のリストが含まれています。Google、Yahoo!、Bing、百度、Altavista、Yandex での検索時、検索結果はすべてこのリストに従いチェックされ、決定アイコンが表示されます (Yahoo! での検索結果の場合、「悪用されているウェブサイト」という決定アイコンのみ表示されます)。また、ブラウザに直接アドレスを入力する場合や、メールにあるリンクなど任意のウェブサイトのリンクをクリックする場合には、自動的にリンクがチェックされ、必要に応じてブロックされます。
- [AVG サーフシールド](#)はウェブサイトアドレスに関係なく、アクセスしようとしているウェブサイトの

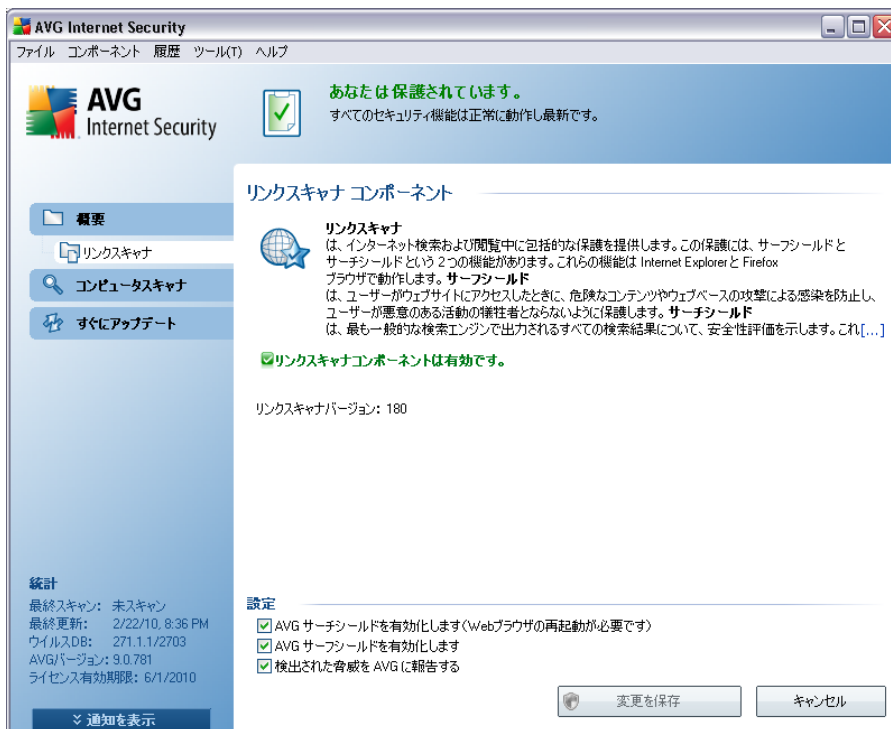
コンテンツをスキャンします。一部のウェブサイトが **AVG サーチシールド** で検出されない場合 (例: 新しい悪意のあるウェブサイトが作成された、以前に安全であったウェブサイトには今はマルウェアが含まれているなど) には、そのサイトにアクセスしようとする **AVG サーブシールド** によってブロックされます。

注意 :AVG LinkScannerはサーバープラットフォームには対応していません。

8.6.2. リンクスキャナインターフェース

リンクスキャナコンポーネントは、**リンクスキャナコンポーネント**インターフェースでオン/ オフ可能な2つの機能から構成されています。

LinkScannerコンポーネントインターフェースは、コンポーネントの機能の概要と現在のステータスに関する情報 (**LinkScanner** コンポーネントはアクティブです。). さらに、最新の **LinkScanner** データベースバージョン番号 (**LinkScanner** バージョン)に関する情報を表示できます。



ダイアログの下部の一部のオプションは編集できます。


- **サーチシールドを有効化**- (デフォルトではオン)Google、Yahoo、Bing、百度、Yandex、Altavistaの検索エンジンによる検索結果をあらかじめチェックし、その内容をアイコンで通知します。


- **サーフシールドを有効化** - (デフォルトではオン)アクセス時のアクティブな (リアルタイムの) エクスプロイトサイトに対する保護。ユーザーが Web ブラウザ (あるいは他の HTTP を使用するアプリケーション) から Web ページにアクセスする際、既知の悪意のあるサイトへの接続と、エクスプロイトコンテンツがブロックされます。
- **検出された脅威の AVG への報告を有効化** - この項目にチェックを付けると、**サーフシールド**、または**サーチシールド**によって検出されたエクスプロイトと悪意のあるサイトが報告され、Web 上の悪意のある活動に関する情報を収集するためのデータベースに送信されます。


8.6.3. AVGサーチシールド


AVG **サーチシールド**をオンにしてインターネットを検索する場合、Yahoo!、Google、Bing、Altavista、Yandex などの最も有名な検索エンジンの検索結果は、危険、または疑わしいリンクであるかどうかの評価されています。これらのリンクをチェックし、悪意のあるリンクとして判定されると **AVG リンクスキャナ**は、危険、または疑わしいリンクをクリックする前に警告を表示します。したがって、安全なウェブサイトのみアクセスすることが保証されます。

検索結果ページのリンクが評価されている間、リンクの隣にリンク検証が実行中であることを示すアイコンが表示されます。判定が終了すると、各情報アイコンが表示されます。

 リンクされたページは安全です (Yahoo! 検索エンジンを **AVG セキュリティツールバー**とともに使用すると、このアイコンは表示されません。).

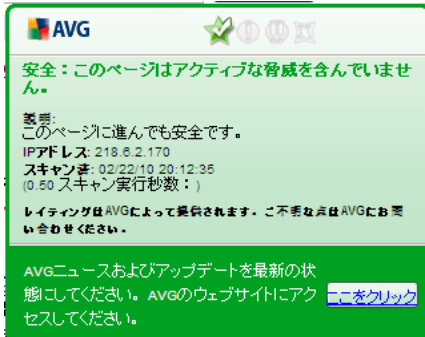
 リンクされたページは脅威を含んでいませんが、疑わしいコンテンツを含みます (または目的が疑わしいため、電子ショッピングが推奨されないなど。).

 リンクされたページはそれ自体安全ですが、明らかに危険なページへのリンクを含んでいます。あるいは、現段階では脅威ではないものの、疑わしいコードを含んでいます。

 リンクされたページはアクティブな脅威を含んでいます。安全のために、このページへのアクセスは禁止されています。

 リンクされたページは、アクセスできないかスキャンできませんでした。

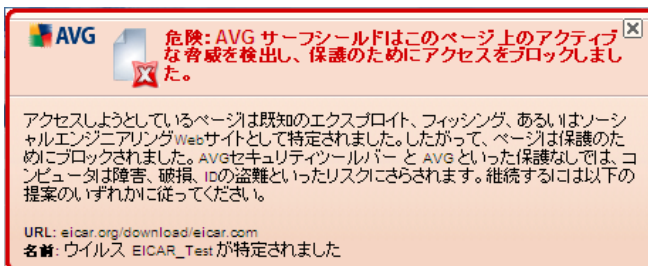
個々の評価アイコンは、問題のあるリンクに関する詳細を表示します。この情報には、(存在する場合)脅威についての追加詳細、リンクのIPアドレス、スキャン実行日時が含まれています。



8.6.4. AVGサーフシールド

この強力な保護は開こうとするWebページの悪意のある内容をブロックし、コンピュータへのダウンロードを防止します。この機能が有効化されていると、危険なサイトへのリンクをクリックしたり、URLを入力したりすると、自動的にWebページを開かないようにブロックし、不注意な感染から保護します。エクスプロイトWebページは、単にサイトにアクセスするだけでコンピュータが感染する可能性があります。エクスプロイトや他の深刻な脅威を含むWebページにアクセスする際、[AVG リンクスキャナ](#)は、これらのページを表示させません。

悪意のあるWebサイトに遭遇した場合、[AVG リンクスキャナ](#)は以下のような画面で警告を表示します。



このようなウェブサイトへのアクセスは非常に危険であり、お勧めしません。

8.7. オンライン シールド

8.7.1. オンライン シールドの原理

オンラインシールドは、リアルタイムの常駐保護の一種です。Webブラウザに表示され、コンピュータにダウンロードされる前に、Webページの内容（およびそこに含まれる可能なファイル）をスキャンします。

オンラインシールドは、アクセスしようとしているページが危険なjavascriptを含んでいる場合、ページ

の表示を防ぎます。また、ページに含まれるマルウェアも検出することができ、コンピュータにダウンロードされないようにします。

注意 :AVG オンラインシールドはサーバープラットフォームには対応していません。

8.7.2. オンラインシールドインターフェース

オンラインシールドコンポーネントのインターフェースには、保護の説明が表示されます。さらに、コンポーネントの現在のステータスに関する情報（オンラインシールドは有効で完全に機能していますなど）を見ることができます。）。ダイアログの下部には、このコンポーネント機能の基本編集オプションが表示されます。

基本コンポーネント設定

オンラインシールド有効化にチェックを付けると、**オンラインシールド**のオン/オフを切り替えることができます。このオプションはデフォルトでチェックされており、**オンラインシールド**コンポーネントは有効です。この設定を変更する理由がない場合、コンポーネントを有効のままにすることを推奨します。有効化にチェックがつけられており、**オンラインシールド**が実行中の場合、さらに設定を編集することができます。

- **Web**- Webコンテンツのスキャンに関するコンポーネント設定を編集します。編集インターフェースでは、以下の基本オプションを設定します。

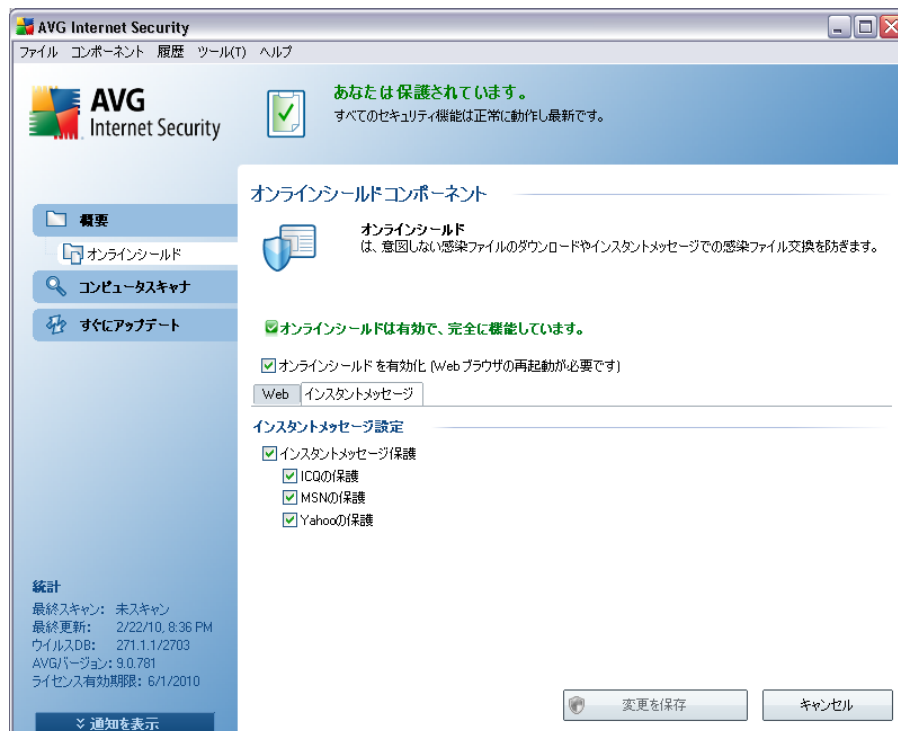


- **Web 保護** - このオプションがチェックされている場合、**オンラインシールド**はWWWページコンテンツをスキャンします。このオプションがオン(デフォルト)の場合、さらに以下の項目のオン/オフを変更することができます。
 - **アーカイブチェック** - WWWページに含まれるアーカイブコンテンツをスキャンします
 - **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると **スパイウェア対策エンジン**を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします**。**スパイウェア**は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。
 - **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると **スパイウェア**の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。

➤ **ヒューリスティック分析の使用**- ヒューリスティック分析 (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)を使用して、表示されるページコンテンツをスキャンします。したがって、ウイルスデータベースにまだ登録されていない悪意のあるコードを検出することも可能です ([ウイルス対策の原理](#)を参照)。

➤ **スキャン対象ファイルの最大サイズ**- このファイルサイズ以下のファイルがページに含まれる場合、コンピュータにダウンロードされる前にスキャンを実行します。ただし、大きいファイルのスキャンは時間がかかり、Webページのダウンロードの速度が著しく遅くなる場合があります。スライダーを使用して、**オンラインシールド**でスキャンされるファイルの最大サイズを指定できます。ダウンロードファイルが指定値より大きく、オンラインシールドでスキャンされない場合でも、保護は続きます。この場合、ファイルは感染し、**常駐シールド**がそれをすくいに検出します。***

- **インスタントメッセージ**- インスタントメッセージ (例えば、ICQ、MSNメッセージャー、Yahoo ...)スキャンに関するコンポーネント設定を編集できます。



- **インスタントメッセージ保護** - オンラインシールドでインスタントメッセージによるウイルス感染をチェックする場合、この項目をチェックします。このオプションがオンの場合、さらに制御するインスタントメッセージアプリケーションを指定します - **AVG 9 Anti-Virus**現在サポートされているものはICQ、MSN、Yahoo です。

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテムツール/**高度な設定**を選択し、**AVG高度な設定**ダイアログで設定を編集します。

コントロールボタン

オンラインシールドインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **変更を保存** - このボタンを押すと、ダイアログで行われた変更を保存、適用します。
- **キャンセル** - このボタンを押すと、デフォルトの**AVGユーザーインターフェース** (コンポーネント概要)に戻ります

8.7.3. オンラインシールド検出

オンラインシールドはウェブブラウザに表示され、コンピュータにダウンロードされる前に、ウェブページの内容およびそこに含まれる可能性のあるファイルをスキャンします。脅威が検出されると、次のダイアログで即時に警告が表示されます。



疑わしいウェブページは開かれませんが、脅威検出は **オンラインシールド検出結果**のリストにログ出力されます。この検出された脅威の概要は、システムメニューの [**履歴 / オンラインシールド検出結果**] からアクセス可能です。



AVG Internet Security

あなたは保護されています。
すべてのセキュリティ機能は正常に動作し最新です。

オンラインシールド 検出

感染	オブジェクト	結果
ウイルス EICAR_Test が特定されました	www.eicar.org/download/eicar.com	オブジェクトはブロックされました。
ウイルス EICAR_Test が特定されました	ecar.org/download/eicar.com	オブジェクトはブロックされました。
ウイルス EICAR_Test が特定されました	ecar.org/download/eicar.com	オブジェクトはブロックされました。

3レコードがリストにあります。
追加アクション: [リストをファイルにエクスポート](#), [空にする](#)

リスト更新 戻る

統計
最終スキャン: 未スキャン
最終更新: 2/22/10, 8:36 PM
ウイルスDB: 271.1.1/2703
AVGバージョン: 9.0.781
ライセンス有効期限: 6/1/2010

通知を表示

検出された各オブジェクトについて、以下の情報が提供されます。

- **感染**- 検出されたオブジェクトの説明 (可能な場合は名前も)
- **オブジェクト**- オブジェクトソース (ウェブページ)
- **結果**- 検出されたオブジェクトで実行されたアクション
- **検出時刻** - 脅威が検出された日時
- **オブジェクトタイプ** 検出されたオブジェクトの種類
- **プロセス**- 呼び出すために実行されたアクション

ダイアログの下部では、リストの下に上記でリストされた検出オブジェクトの総数に関する情報が表示されます。さらに、検出オブジェクトの完全なリストをファイルにエクスポート (**ファイルにエクスポート**) し、検出オブジェクトのすべてのエントリを削除 (**リストを空にする**) ことができます。[**リストを更新**] ボタンは **オンラインシールド** の検出結果リストを更新します。[**戻る**] ボタンをクリックすると、既定の **AVG ユーザーインターフェース** (コンポーネント概要) に戻ります。

8.8. 常駐シールド

8.8.1. 常駐シールド原理

常駐シールド コンポーネントはコンピュータに継続した保護を提供します。これは、オープン、保存、コピーされるあらゆるファイルをスキャンし、コンピュータのシステムエリアを保護します。**常駐シールド** がアクセスされるファイルにウイルスを検出する場合、現在実行されている操作を停止し、ウイルスが活性化しないようにします。通常、「バックグラウンド」で実行されるため、このプロセスに気づくことはありません。脅威が検出された場合のみ通知されます。同時に、常駐シールドは脅威のアクティブ化をブロックし、それを除去します。**常駐シールド** は、システムの起動中にコンピュータメモリにロードされます。

警告 : **常駐シールドはシステム起動時にコンピュータのメモリ内にロードされます。したがって、常にそのスイッチを入れておくことが極めて重要です。**

8.8.2. 常駐シールドインターフェース



最も重要な統計データとコンポーネントの現在のステータスに関する情報の概要 (常駐シールドは有効で完全に機能しています。等)に加えて、**常駐シールド**インターフェースには、いくつかの基本コンポーネント設定オプションも表示されます。統計は以下の通りです。

- 常駐シールド起動時間 - コンポーネントが起動されている時間
- **検出およびブロックされた脅威** - 実行したり開いたりできないようにされた検出された感染数 (統計目的などで、必要に応じて、この値はリセットできます - 値のリセット)。

基本コンポーネント設定

ダイアログの下部には、**常駐シールド設定**というセクションがあります。ここでは、コンポーネントの機能の基本設定 (他のコンポーネントと同様に、詳細設定はシステムメニューの**ファイル/高度な設定**で使用可能です)を編集することができます。

常駐シールド有効化オプションでは、常駐保護のオン/オフを簡単に切り替えることができます。デフォルトではこの機能はオンとなっています。常駐シールドをオンにすると、さらに検出された感染の処理 (除去)方法を決定できます。

- 自動 (すべての脅威を自動的に除去)
- あるいはユーザー許可の後のみ (脅威を削除する前に確認する)

この選択はセキュリティレベルに影響はありません。

いずれの場合も、**Tracking Cookie** をスキャンするかどうかを選択することができます。特定の場
合、このオプションをオンにし、最大限のセキュリティレベルに変更することができます。デフォルトではオフ
になっています。(cookieとはサーバーによってWebブラウザに送信され、そのサーバーにアクセスするたびに
ブラウザによって変更されずに返信されるテキストのことです。HTTP cookie は認証トラッキングやサイ
トの好み、あるいは電子ショッピングカートの内容といったユーザーに関する特定情報の保持のために
使用されます)。

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されていま
す。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザー
が行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテム**ツール**
高度な設定を選択し、[AVG高度な設定](#)ダイアログで設定を編集します。

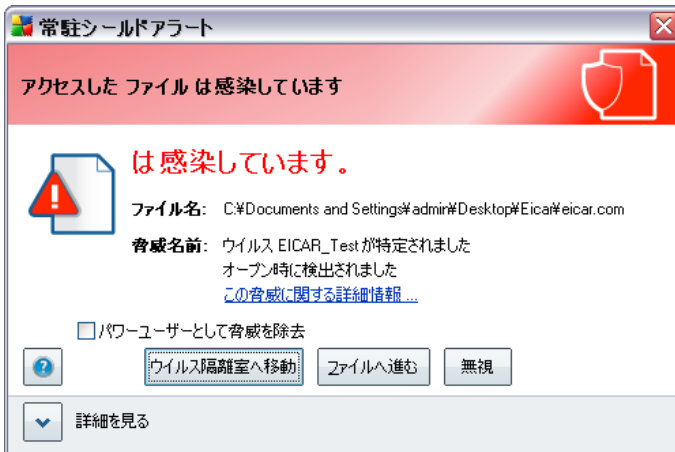
コントロールボタン

常駐シールドインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **例外の管理** - [[常駐シールド-例外ディレクトリ](#)] ダイアログを開きます。このダイアログで
は、[常駐シールド](#)スキャンから除外されるフォルダを定義します。
- **変更を保存** - このボタンを押すと、ダイアログで行われた変更を保存、適用します。
- **戻る** - このボタンを押すと、デフォルトの[AVGユーザーインターフェース](#)(コンポーネント概要)
に戻ります

8.8.3. 常駐シールド検出

常駐シールドは、ファイルがコピー、オープン、保存される時にファイルをスキャンします。ウイルスや何らかの種類の脅威が検出されると、以下のダイアログ経由で即時に警告が表示されます。



ダイアログには検出された脅威に関する情報が表示され、この時点で取るべきアクションを決定するように要求されます。

- **修復** - 修復方法がある場合、AVG によって感染ファイルは自動的に修復されます。このオプションのアクションを取ることをお勧めします。
- **ウイルス隔離室に移動** - ウイルスは AVG [ウイルス隔離室に移動します。](#)
- **ファイルに移動** - このオプションは不審なオブジェクトの正確な場所に移動します (新しい Windows Explorer ウィンドウを開きます)
- **無視** - しかるべき理由がない場合は、このオプションを使用しないでください。

常駐シールドによって検出されたすべての脅威の概要は、システムメニューオプションの [履歴/常駐シールド検出] の [[常駐シールド検出](#)] ダイアログに表示されます。



常駐シールド検出では、常駐シールド**によって検出され**、修復あるいは**ウイルス隔離室**に移動されたオブジェクトの概要が表示されます。検出された各オブジェクトについて、以下の情報が提供されます。

- **感染**- 検出されたオブジェクトの説明 (可能な場合は名前も)
- **オブジェクト** オブジェクトの場所
- **結果**- 検出されたオブジェクトで実行されたアクション
- **検出時刻** - オブジェクトが検出された日時
- **オブジェクトタイプ** 検出されたオブジェクトの種類
- **プロセス** 呼び出すために実行されたアクション

ダイアログの下部では、リストの下に上記でリストされた検出オブジェクトの総数に関する情報が表示されます。さらに、検出オブジェクトの完全なリストをファイルにエクスポート (**ファイルにエクスポート**)し、検出オブジェクトのすべてのエントリを削除 (**リストを空にする**)ことができます。[**リストを更新**] ボタンは**常駐シールド**の検出結果リストを更新します。[**戻る**] ボタンをクリックすると既定の **AVG ユーザーインターフェース** (コンポーネント概要)に戻ります。

8.9. アップデートマネージャ

8.9.1. アップデートマネージャ 原理

定期的にアップデートが実行されていない場合、どのようなセキュリティソフトウェアも様々な脅威からの保護を保証することはできません。ウイルス作成者は、常にソフトウェアとオペレーティングシステムの両方の欠陥を探しています。新しいウイルス、新しいマルウェア、新しいハッキング攻撃は日々出現しています。このため、ソフトウェアベンダーは継続的にアップデートとセキュリティパッチを発行し、発見されたセキュリティホールを修復しています。

AVGを定期的にアップデートすることは非常に重要です。

アップデートマネージャによって、定期的なアップデートを管理することができます。このコンポーネントでは、インターネット、またはローカルネットワークからのアップデートファイル自動ダウンロードをスケジュールすることができます。可能であれば、ウイルス定義アップデートを毎日実行してください。より緊急度の低いプログラム更新は、週次で行うことを推奨します。

注意 :アップデートの種類とレベルの詳細については、[AVGアップデート](#)の章を参照してください。

8.9.2. アップデートマネージャ インターフェース



アップデートマネージャのインターフェースには、コンポーネントの機能、現在のステータスに関する情報（アップデートマネージャは有効です。等）、関連する統計データが表示されます。

- **最終アップデート** データベースが最後にアップデートされた日時が表示されます。
- **ウイルスデータベースバージョン** 最新のウイルスデータベースバージョンが表示されます。この番号はウイルスアップデートごとに増加します。
- **次回のスケジュール済みアップデート** - データベースが再度アップデートされるようにスケジュールされている日時

基本 コンポーネント設定

ダイアログの下部では、**アップデートマネージャ設定** セクションが表示され、ここでは、アップデートプロセスの実行ルールの一部を変更することができます。アップデートファイルのダウンロードを自動的に実行するか（**自動アップデート開始**）、またはオンデマンドで実行するかを指定します。デフォルトでは、**自動アップデート開始** オプションはオンであり、この設定を保持することを推奨します。最新アップデートファイルの定期的なダウンロードは、セキュリティソフトウェアが正しく機能するために、非常に重要で

す。

さらに、アップデートが起動するタイミングを指定することができます。

- **定期的**- 時間間隔を定義します。
- **時間指定**- 正確な日時を指定します。

デフォルトでは、アップデートは4時間おきに設定されています。特に変更する理由がない場合、この設定を保持することを強く推奨します。

注意 :すべてのAVGコンポーネントは、最適なパフォーマンスを提供するようにあらかじめ設定されています。特に理由がない場合は、AVGの設定を変更しないでください。設定変更は、経験のあるユーザーが行うことを推奨します。AVGの設定を変更する必要がある場合は、システムメニューアイテムツール/**高度な設定**を選択し、[AVG高度な設定](#)ダイアログで設定を編集します。

コントロールボタン

アップデートマネージャインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **すぐにアップデート** オンデマンドで[即時アップデート](#)を実行します。
- **変更を保存** - このボタンを押すと、ダイアログで行われた変更を保存、適用します。
- **戻る** - このボタンを押すと、デフォルトの[AVGユーザーインターフェース](#) (コンポーネント概要) に戻ります

9. AVGセキュリティツールバー

AVG セキュリティツールバーは、[リンクスキャナ](#)コンポーネントと連携して動作し、サポートされたインターネット検索エンジン (Yahoo!、Google、Bing、Altavista、[百度](#)) の検索結果をチェックする新しいツールです。AVG セキュリティツールバーは [AVG リンクスキャナ](#) 機能を制御して、動作を調整するために使用できます。

AVG 9 Anti-Virus のインストール中にツールバーのインストールを選択した場合は、自動的にウェブブラウザに追加されます。別のインターネットブラウザ (例 :Avant ブラウザ) を使用している場合は、予期しない動作を起す場合があります。

9.1. AVGセキュリティツールバー インターフェース

AVG セキュリティツールバーは、**MS Internet Explorer** (バージョン 6.0 以上) および **Mozilla Firefox** (バージョン 2.0 以上) で動作するように設計されています。AVG セキュリティツールバー のインストールを選択 ([AVG インストールプロセス](#) 中に、コンポーネントをインストールするかどうかを決定するように要求されます) した場合、このコンポーネントがウェブブラウザのアドレスバーの下に表示されます。



注意 :AVG セキュリティツールバーはサーバープラットフォームには対応していません。

AVG セキュリティツールバーは以下のように構成されています。

- **AVG ロゴ** - 一般 ツールバー アイテムへのアクセスを提供します。ロゴボタンをクリックすると AVG の Web サイト (<http://www.avg.com/>) が表示されます。AVGアイコンの隣のポイントををクリックすると、以下が表示されます。
 - **Toolbar Info** - ツールバーの保護に関する詳細情報を提供する [AVG セキュリティツールバーホームページへのリンク](#) です。
 - **AVG 9 Anti-Virus** を起動 - AVG 9 Anti-Virus ユーザー インターフェースを開きます
 - **オプション** - 設定ダイアログが開き、**AVG Security Toolbar** の設定をニーズに合わせて調整できます。 [AVG Security Toolbar オプションの章を参照してください。](#)
 - **履歴の削除** - AVGセキュリティツールバーの完全な履歴の削除または、検索履歴の削除、ブラウザ履歴の削除、ダウンロード履歴の削除および Cookies の削除ができます。

- **アップデート** - AVGセキュリティツールバーの新しいアップデートをチェックします。
- **Help** - ヘルプファイルを開いたり、製品フィードバックを送信したり、ツールバーの現行バージョンの詳細を見るオプションを提供します。
- **検索ボックス** - 単語またはフレーズを検索ボックスに入力します。[検索] をクリックすると、現在表示されているページに関係なく、指定した検索エンジンを使用して検索を開始します ([AVGセキュリティツールバー高度なオプション](#)で使用する検索エンジンを指定できます。また、Yahoo!、Wikipedia、百度、WebHledani、Yandex のいずれかを選択できます)。検索ボックスには検索履歴のリストも表示されます。検索ボックスで行われた検索はAVGサーチシールドで分析されます。
- **総合的な保護** - このボタンは、総合的な保護/限定的な保護/保護なしとして、AVG 9 Anti-Virus設定
- **ページステータス** - このボタンは、ツールバーに直接、[AVGサーチシールド](#) コンポーネントの条件に基づいて現在アップロードされているウェブページの評価を示します (ページは安全です/不審/明らかに危険/脅威を含む/スキャンできませんでした)。ボタンをクリックすると、情報パネルと、特定のウェブページに関する詳細データが表示されます。
- **AVG情報** - AVG Webサイト (<http://www.avg.com/>) の重要なセキュリティ情報へのリンクを提供します。
 - **Toolbar Info** - ツールバーの保護に関する詳細情報を提供するAVGセキュリティツールバーホームページへのリンクです。
 - **脅威について** - 現在のインターネット ウィルスと脅威に関する情報を示す AVG ウェブページを開きます。
 - **AVG ニュース** - 最新の AVG 関連記者発表記事を掲載したウェブページを開きます。
 - **現在の脅威レベル** - ウェブ上の現在の脅威レベルをグラフィカルに表示したウィルスラボのウェブページを開きます。
 - **ウィルスエンサイクロペディア** - 名前ごとに特定のウィルスを検索し、ウィルスの詳細情報を確認できるウィルスエンサイクロペディアページを開きます。

9.2. AVGセキュリティツールバーオプション

すべての AVG セキュリティツールバー パラメータ設定には、[AVG セキュリティツールバー] パネル内から直接アクセスできます。インターフェースの編集は、新しい [ツールバーオプション] ダイアログの [AVG/ オプション] ツールバー メニュー アイテムで開きます。このダイアログには 4 つのセクションがあります。

9.2.1. タブ全般



このタブでは、[AVG セキュリティツールバー] パネル内の表示/非表示を切り替えるツールバーコントロール ボタンを指定できます。該当するボタンを表示する場合には、任意のオプションをマークします。各ツールバー ボタンの機能の詳細な説明は次のとおりです。

- **AVG ニュース ボタン** - このボタンを使用すると、最新の AVG 関連記者発表記事を掲載したウェブページを開きます。
- **ニュース ボタン** - このボタンを使用すると、毎日のニュース記事から最新のニュースの構造化された概要を表示します。
- **AVG 情報 ボタン** - このボタンを使用すると、AVG ツールバー、現在の脅威とインターネット脅威レベルに関する情報を表示し、ウイルス エンサイクロペディアを開き、詳細な AVG 製品関連 ニュースを表示します。
- **履歴の削除 ボタン** - このボタンを使用すると、完全な履歴の削除または検索履歴の削除、ブラウザ履歴の削除、あるいは Cookies の削除を AVG Security Toolbar から直接実行できます。

9.2.2. タブの便利なボタン








[**便利なボタン**] タブでは、リストからアプリケーションを選択し、ツールバー インターフェイスにアイコンを表示できます。アイコンは、各アプリケーションを即時起動できるクイック リンクとなります。

9.2.3. タブ セキュリティ



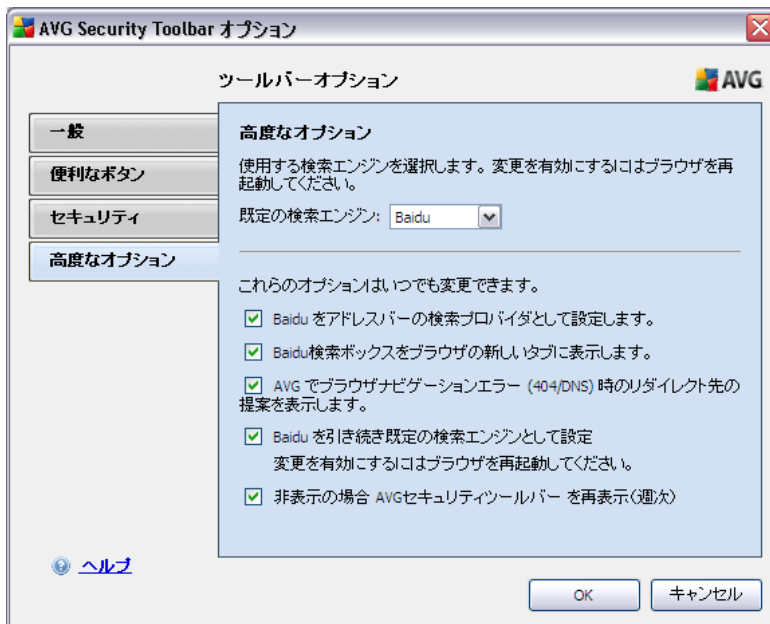
[セキュリティ] タブには、[AVG ブラウザセキュリティ] と [評価] という2つのセクションがあり、特定のチェックボックスをオンにして、使用する **AVG Security Toolbar** 機能を割り当てられます。

- **AVG ブラウザセキュリティ** - このアイテムにチェックすると、[AVG Search Shield](#) または [AVG Surf Shield](#) サービスの有効化/無効化を切り替えられます。
- **評価** - 使用する [AVG Search-Shield](#)
 -  ページは安全です
 -  ページには不審な部分があります
 -  ページには明らかに危険なページへのリンクが含まれます
 -  ページにはアクティブな脅威が含まれます
 -  リンクされたページはアクセスできないかスキャンできませんでした

各オプションをオンにして、この特定の脅威レベルに対する通知方法を確認します。ただし、アクティブかつ危険な脅威を含むページに割り当てられる赤いマークをオフにすることはできません。こ

こでも、変更する理由がない限り、プログラムベンダーが設定した既定の設定を保持することをお勧めします。

9.2.4. タブの高度なオプション



[高度なオプション] タブでは、まず既定で使用する検索エンジンを選択します。Yahoo!、百度、WebHledani、および Yandex から選択できます。既定の検索エンジンを変更した場合は、変更を有効にするために、インターネット ブラウザを再起動してください。

特定の AVG セキュリティツールバー設定のオン/オフを切り替えることができます。

- **Yahoo! をアドレスバーの検索プロバイダとして設定** - (既定ではオン)このオプションをオンにしている場合、インターネットブラウザのアドレスバーに直接検索キーワードを入力し、Yahoo!サービスを自動的に使用して関連するウェブサイトを検索できます。
- **AVG でブラウザナビゲーションエラー (404/DNS) に関する提案を表示** - (デフォルトではオン) ウェブを検索しているときに存在しないページがあった場合や、表示できないページ (404 エラー) があった場合、自動的に代替のトピック関連のページの概要から選択できるページにリダイレクトします。
- **Yahoo! をブラウザの検索プロバイダとして設定** - (既定ではオフ)Yahoo!は AVG セキュリティツールバーのウェブ検索時の既定の検索エンジンですが、このオプションを有効にすると Yahoo! がウェブブラウザでも既定の検索エンジンとなります。



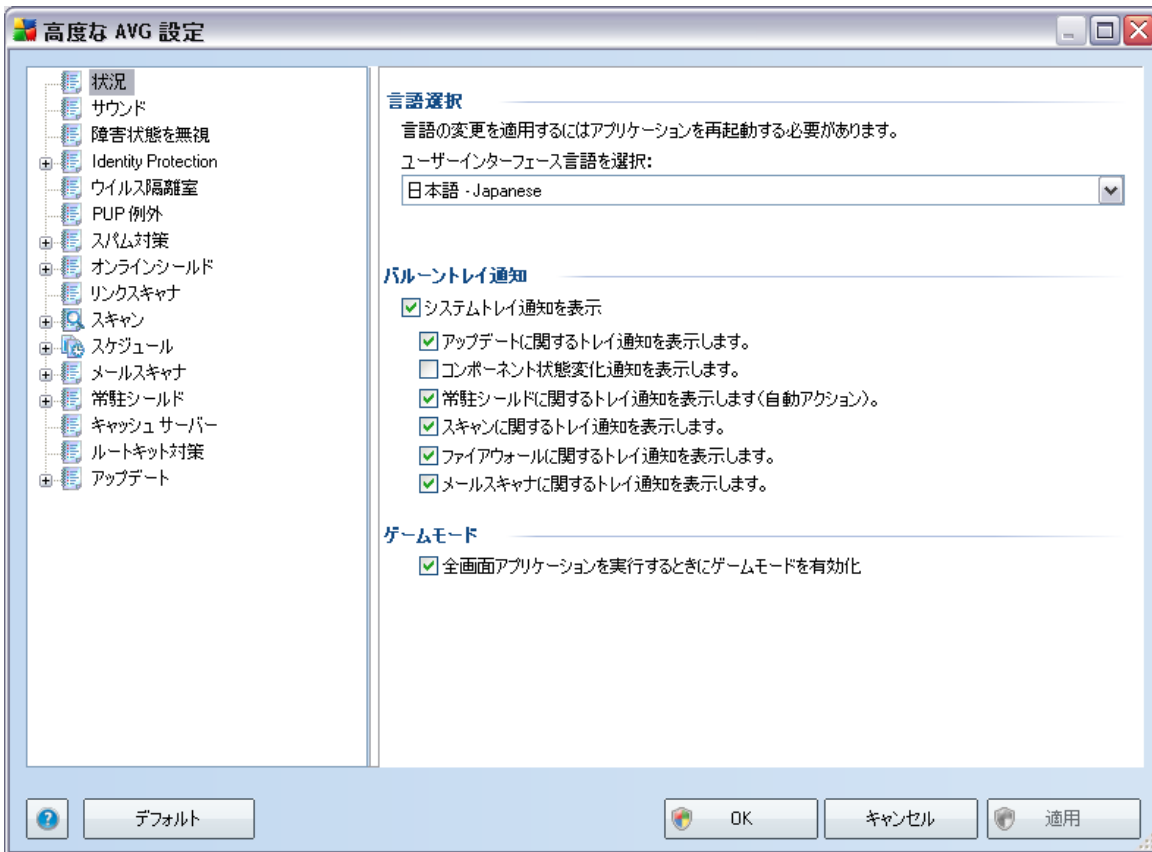
- **非表示の場合は AVG Security Toolbar を再表示 (毎週)** - (既定ではオン)このオプションは既定では有効です。**AVG Security Toolbar** が偶然非表示になってしまった場合でも、1 週間以内に再度表示されます。

10. AVG 高度な設定

AVG 9 Anti-Virus の高度な設定 ダイアログは [高度な AVG 設定] という名前の新しいダイアログで開きます。このウィンドウは2つのセクションにわかれています。左部にはツリー状のナビゲーションが表示されます。設定を変更したいコンポーネントを選択すると、ウィンドウ右側に設定項目が表示されます。

10.1. 表示

ナビゲーションツリーの最初の項目は、**表示**であり [AVGユーザーインターフェース](#)と いくつかの動作の基本オプションを設定します。

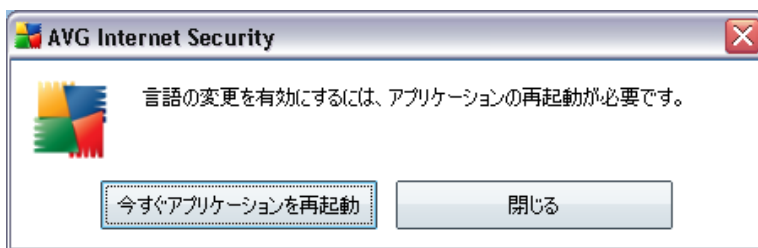


言語選択

言語選択セクションでは、ドロップダウンメニューから希望する言語を選択します。この言語は、すべての [AVGユーザーインターフェース](#) で使用されます。ドロップダウンメニューには、[インストールプロセス](#)中にイ

インストールされた言語のみが表示されます ([カスタムインストール - コンポーネント選択](#)の章を参照して下さい)。ただし、アプリケーションを他の言語に切り替える際には、以下の方法でユーザーインターフェースを再起動する必要があります。

- アプリケーションの希望する言語を選択し、**適用**ボタン (右側下端)を押します。
- **[OK]** ボタンをクリックして、確定します。
- AVG ユーザーインターフェースの言語を変更する場合は、アプリケーションの再起動が必要であることを通知する新しいポップアップダイアログウィンドウが表示されます。



バルーントレイ通知

このセクションでは、アプリケーションステータスに関するシステムトレイバルーン通知の表示を制御できます。デフォルトではバルーン通知は表示されるようになっており、この設定を保持することが推奨されます。バルーン通知は一般にAVGコンポーネントのステータス変更を通知します。

ただし、なんからの理由で、これらの通知を非表示にしたい場合や、ある通知のみを表示したい場合は、以下のオプションのチェックの付け外しにより、希望の内容を指定することができます。

- **システムトレイ通知を表示** - デフォルトでは、このアイテムはチェックされており、通知が表示されます。このアイテムのチェックを外すとすべてのバルーン通知表示はオフになります。オンの場合、どの通知が表示されるかを選択することができます。
 - **アップデート**に関するトレイ通知を表示 - AVGアップデートプロセスの起動、進行、完了に関する情報が表示されるかどうかを決定します。
 - **コンポーネントの状態変化に関するトレイ通知を表示** - コンポーネントの有効/無効、または問題に関する情報が表示されるかどうかを決定します。コンポーネントの不具合状態をレポートする際、このオプションは、[システムトレイアイコン](#) (色変更)と同等のものとなります。
 - **常駐シールド関連のトレイ通知を表示** - ファイルの保存、コピー、および開く処理に関する情報を表示するかしないかを決定します (この設定は、常駐シールドの[\[自動修復\]](#) オプションがオンになっている場合にのみ有効です)。

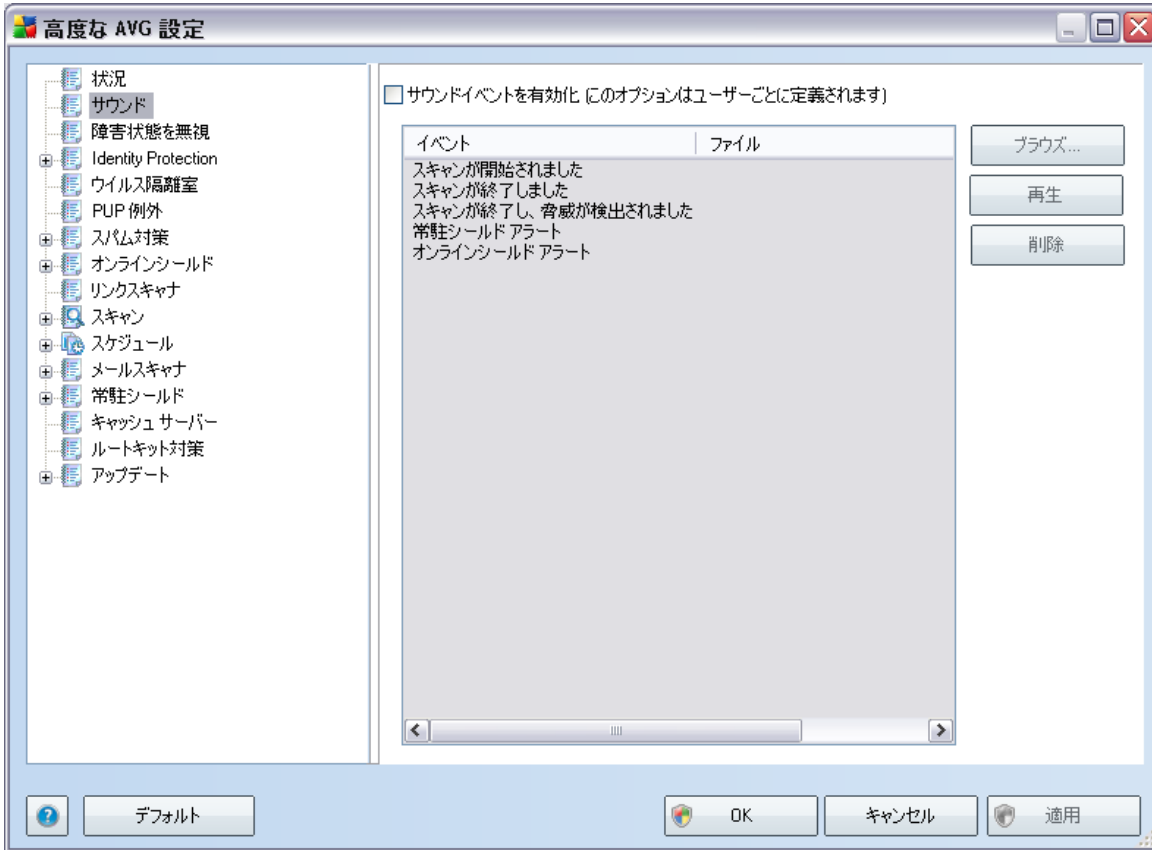
- **スキャン**に関するトレイ通知を表示 - スケジュール済スキャンの自動起動、進行、結果に関する情報が表示されるかどうかを決定します。
- **メールスキャナに関するトレイ通知を表示** - すべての送受信メールに関する情報が表示されるかどうかを決定します。

ゲームモード

この AVG 機能は、AVG 情報バルーン (スケジュールされているスキャンが開始するときなどに表示) がアプリケーションを妨害する可能性のある全画面アプリケーション用に設計されています (情報バルーンはアプリケーションを最小化したグラフィックを壊す可能性があります)。このような問題を回避するには、**[全画面アプリケーションが実行されているときにゲームモードを有効にする]** オプションのチェックボックスを付けた状態にしておきます (既定の設定)。

10.2. サウンド

[サウンド] ダイアログでは、サウンド通知によって特定の AVG アクションの通知を行うかどうかを指定できます。このようにする場合は、**[サウンドイベントを有効化]** オプション (既定ではオフ) にチェックを付け、AVG アクションのリストを有効化します。

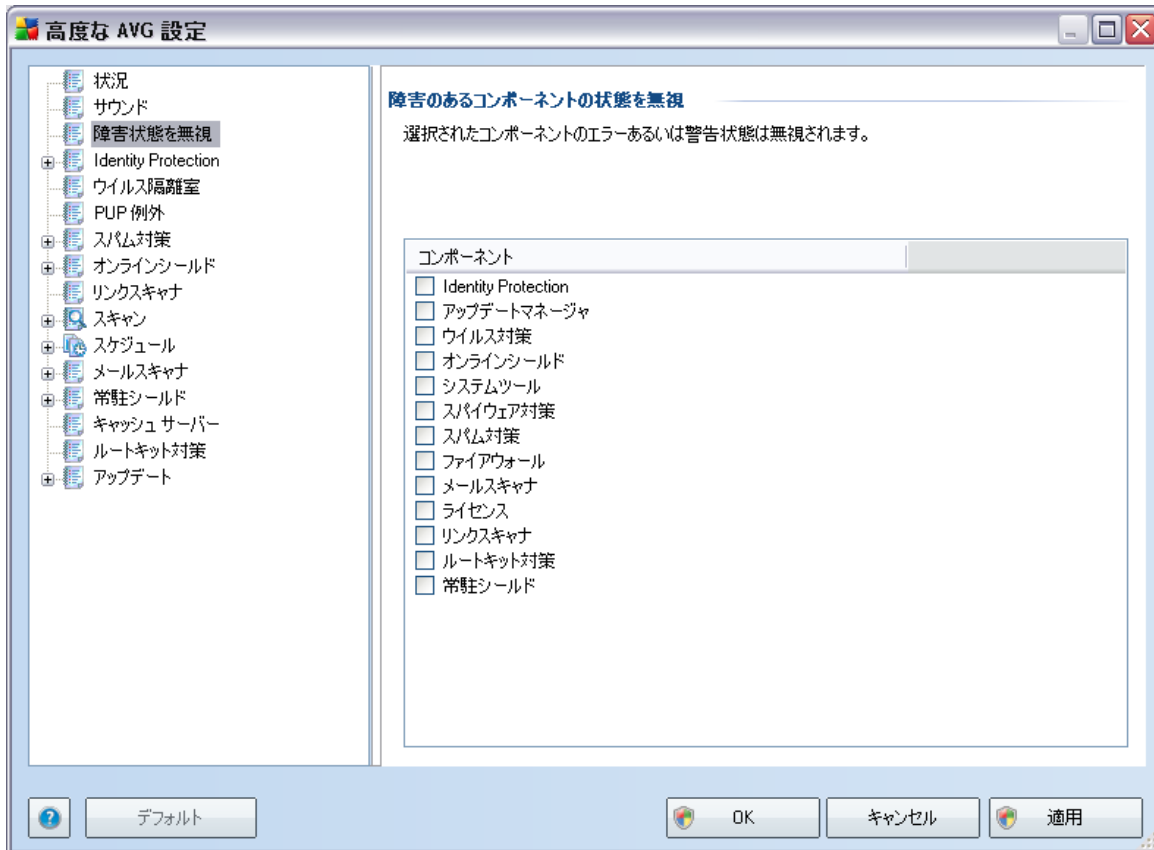


次に、リストから該当するイベントを選択し、このイベントに割り当てる適切なサウンドをディスクから参照 (参照) します。選択されたサウンドを聴くには、リストのイベントをハイライトし、[再生] ボタンをクリックします。[削除] ボタンをクリックすると、特定のイベントに割り当てられたサウンドを削除します。

注意 :*.wav サウンドのみがサポートされています。

10.3. 障害状態を無視

コンポーネントの障害状態を無視ダイアログでは、情報の通知を受けたくないコンポーネントにチェックを付けることができます。



既定値では、リストのどのコンポーネントも選択されていません。つまり すべてのコンポーネントがエラー状態となる場合は、すぐに以下の方法で通知されます。

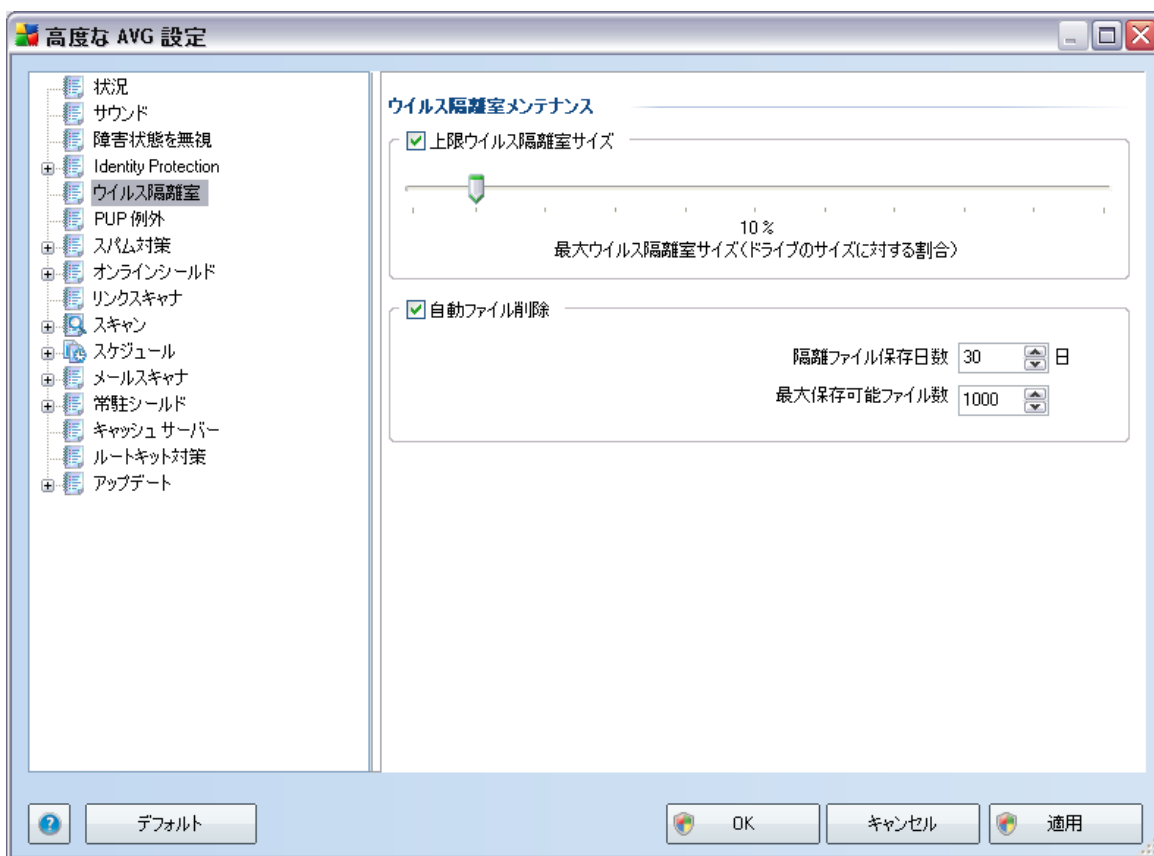
- **システムトレイアイコン** すべてのAVGコンポーネントが正常に動作している間はアイコンは四色で表示されますが、エラーが発生すると、黄色のエクスクラメーションマークのついたアイコンが表示されます。
- AVGメインウィンドウの**セキュリティステータス情報**セクション既存の問題に関するテキスト説明

何らかの理由のため、一時的にコンポーネントをオフにする必要がある場合が考えられます (これは推奨されません)。すべてのコンポーネントを永久的にオンにし続け、既定のコンフィグレーションを保持する

必要がありますが、この状況は起こりえます)。この場合、システムトレイアイコンが自動的にコンポーネントのエラーステータスをレポートします。ただし、この場合には、自分で慎重に行い、潜在的なリスクを認識しているため、実際のエラーについては説明できません。同時に、グレイ色で表示されると、アイコンは実際には表示される可能性のある他のエラーをレポートできません。

この場合、上記のダイアログで、エラー状態となる可能性のある(あるいはオフになる)コンポーネントを選択でき、その状態は通知されません。**コンポーネント状態を無視**の同様のオプションは[AVG メインウィンドウのコンポーネント概要](#)からも直接特定のコンポーネントに対して提供されています。

10.4. ウイルス隔離室



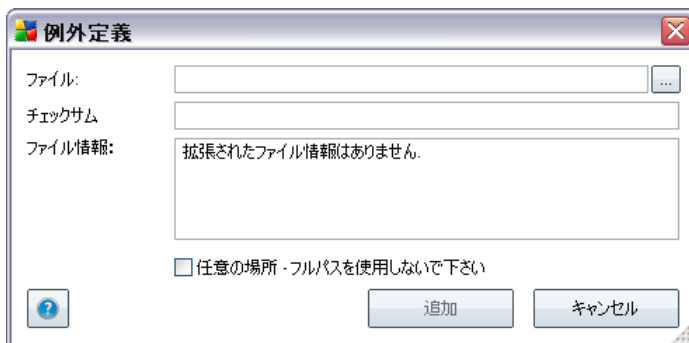
ウイルス隔離 メンテナンスダイアログでは、[ウイルス隔離](#)に格納されるオブジェクト管理に関するパラメータを定義できます。

- **ウイルス隔離室のサイズを制限**- スライダーを使用して、[ウイルス隔離室](#)の最大サイズを設定できます。サイズは、ローカルディスクのサイズに対する割合で指定されます。

- **ファイル** - 各アプリケーション名を提供します。
- **ファイルパス** - アプリケーションの場所を示します。
- **チェックサム** - 選択されたファイルの一意の「シグネチャ」を表示します。このチェックサムは自動的に生成された文字列で、これによって、AVGは選択されたファイルとその他のファイルを区別します。チェックサムは、ファイルが正常に追加された後で生成、表示されます。

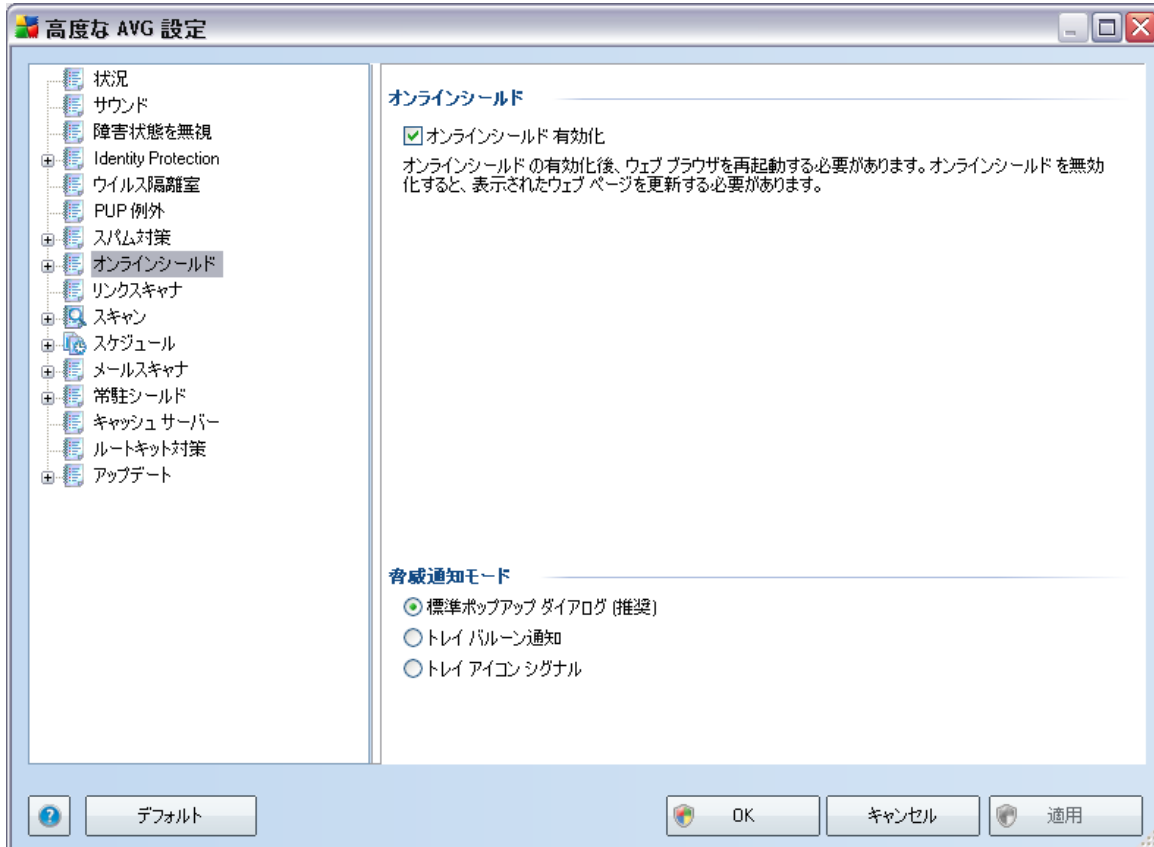
コントロールボタン

- **編集** - 既に定義された例外の編集ダイアログ (新しい例外定義ダイアログと同一です。以下を参照)を開きます。ここで例外パラメータを変更します。
- **削除** - 例外リストから選択された項目を削除します。
- **例外を追加** - 編集ダイアログを開きます。ここでは作成する例外のパラメータを定義します。



- **ファイル** - 例外としてマークするファイルへのフルパスを入力します。
- **チェックサム** - 選択されたファイルの一意の「シグネチャ」を表示します。このチェックサムは自動的に生成された文字列で、これによって、AVGは選択されたファイルとその他のファイルを区別します。チェックサムは、ファイルが正常に追加された後で生成、表示されます。
- **ファイル情報** - ファイルに関する追加情報 (ライセンス/バージョン等)
- **任意の場所 - フルパスを使用しない** - 特定の場所のみの例外としてこのファイルを定義する場合、このチェックボックスのチェックを外します。

10.6. オンライン シールド



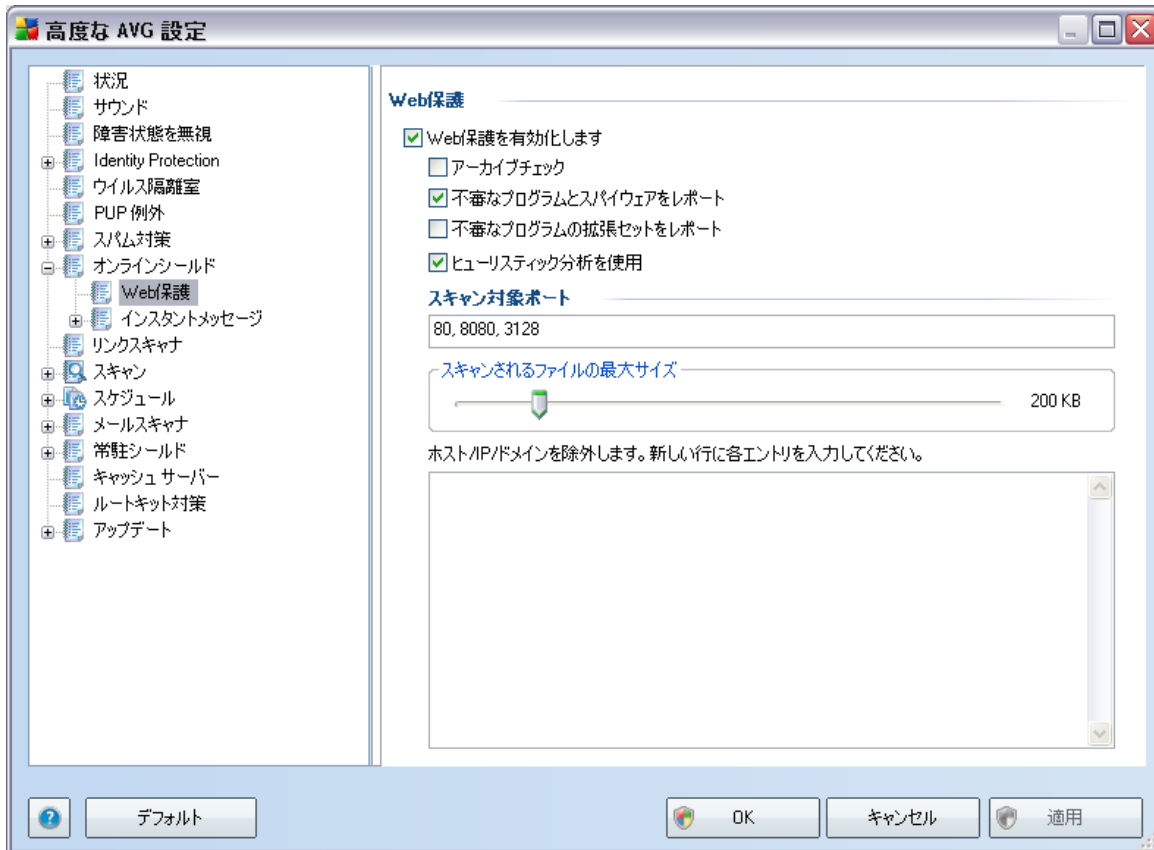
[Web 保護] ダイアログでは、[[オンラインシールドを有効化](#)] オプション (既定では有効) を使用して、オンラインシールドコンポーネントを有効化/無効化できます。このコンポーネントのさらに高度な設定については、ツリーナビゲーションのリストの後に続くダイアログにしたがってください。

- [Web保護](#)
- [インスタントメッセージ](#)

脅威通知モード

ダイアログの下部では、検出された起こりうる脅威に関する情報を通知する方法を選択します: 標準ポップアップダイアログ経由、トレイバルーン通知経由、あるいはトレイアイコン情報経由。

10.6.1. Web保護

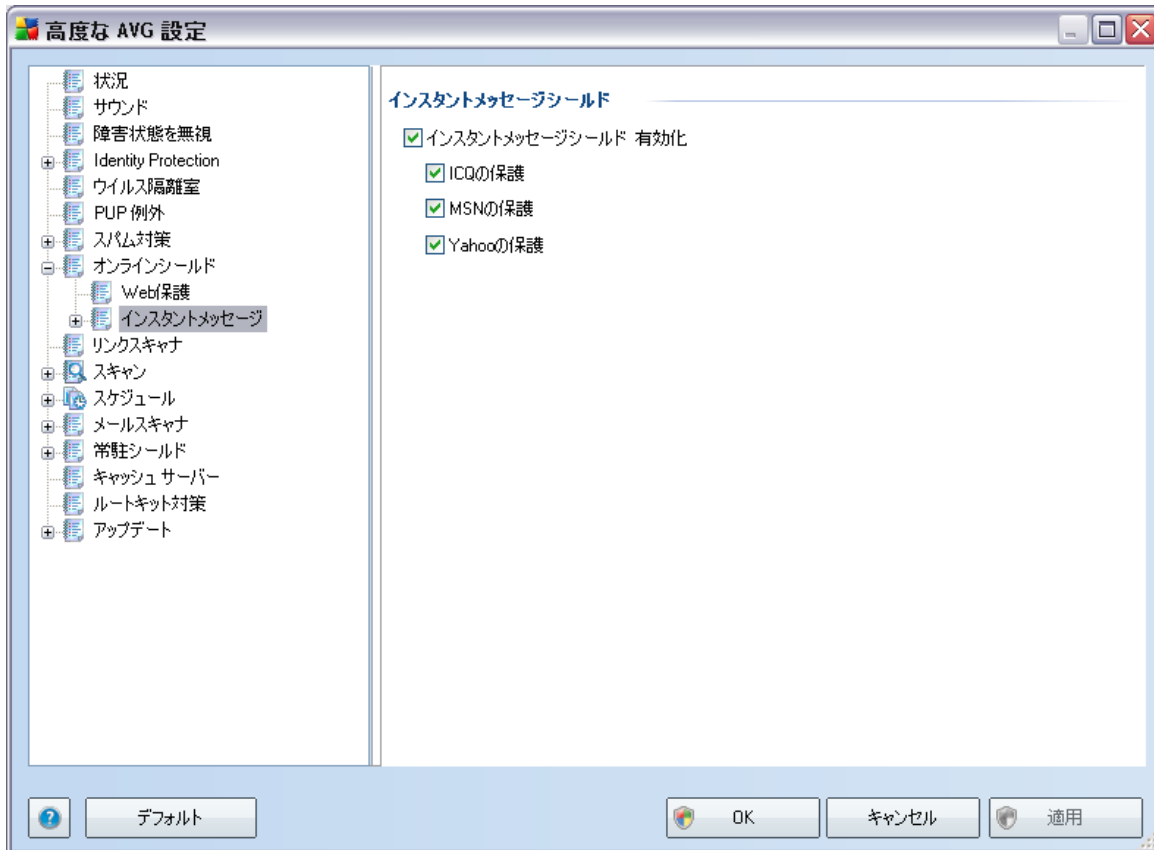


Web保護ダイアログでは、Webコンテンツのスキャンに関するコンポーネント設定を編集することができます。編集インターフェースでは、以下の基本オプションを設定します。

- **Webの保護を有効化** - このオプションがチェックされている場合、**オンラインシールド**はWWWページのスキャンを実行します。このオプションがオン(デフォルト)の場合、さらに以下の項目のオン/オフを変更することができます。
 - **アーカイブチェック** - WWWページに含まれるアーカイブコンテンツをスキャンします。
 - **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると、**スパイウェア対策エンジン**を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャン**します。**スパイウェア**は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#)の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
- **ヒューリスティック分析の使用** - [ヒューリスティック分析](#) (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)を使用して、表示されるページコンテンツをスキャンします。
- **スキャン対象ポート** この欄には標準http通信ポート番号が表示されます。コンピュータの設定が異なる場合は、必要に応じてポート番号を変更することができます。
- **スキャンされる最大ファイルサイズ** 含まれるファイルが表示されるページにある場合、これがコンピュータにダウンロードされる前にスキャンできます。ただし、大きいファイルのスキャンは時間がかかり、Webページのダウンロードの速度が著しく遅くなる場合があります。スライダーを使用して、[オンラインシールド](#)でスキャンされるファイルの最大サイズを指定できます。ダウンロードファイルが指定値より大きく、オンラインシールドでスキャンされない場合でも、保護は続きます。この場合、ファイルは感染し、[常駐シールド](#)がそれをすぐに検出します。
- **ホスト/ IP/ ドメインを除外** - テキストフィールド内にオンラインシールドのスキャンの対象外となるべきサーバー (ホスト、IPアドレス、マスク付きIPアドレス、あるいはURL) あるいはドメインの正確な名称を入力します。このため、絶対に危険なウェブサイトコンテンツを送信しないことが確実であるホストのみを除外してください。

10.6.2. インスタントメッセージ

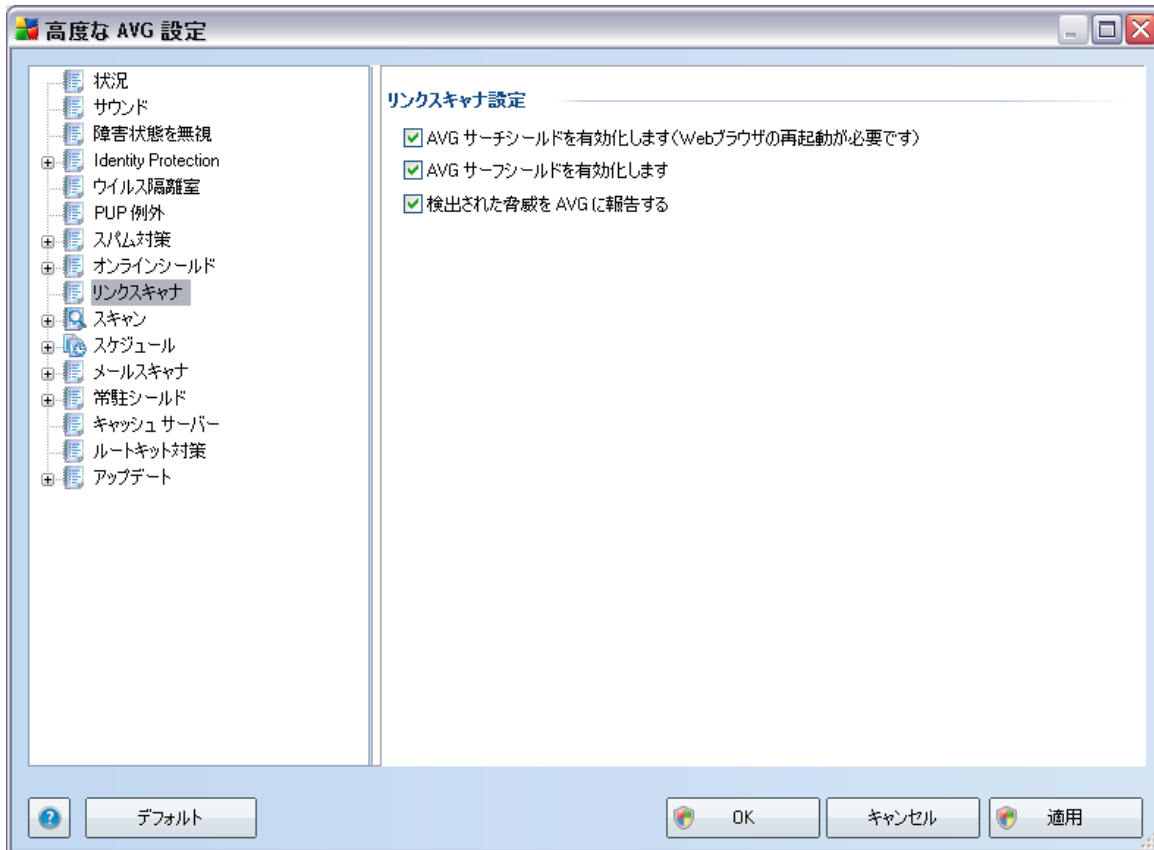


[**インスタントメッセージシールド**] ダイアログでは、**オンラインシールド**コンポーネントのインスタントメッセージ スキャンに関する設定を編集します。現在は次の3つのメッセージング プログラムがサポートされています。**ICQ**、**MSN**、**Yahoo** - **オンラインシールド**がオンライン通信がウイルス フリーだということを確認するようにしたい場合は、この中から該当するアイテムをチェックします。

さらに、ユーザーを許可/ブロックする場合、各ダイアログで設定を参照、編集可能です。(高度な **ICQ**、高度な **MSN**、高度な **Yahoo**)。また、**ホワイトリスト**(通信を許可されるユーザーのリスト)と**ブラックリスト**(ブロックされるユーザーのリスト)を指定することができます。

10.7. リンクスキャナ

[**リンクスキャナ設定**] ダイアログでは、**リンクスキャナ** 基本機能のオフ/オンを切り替えることができます。



- **サーチシールドを有効化** - (デフォルトではオン) Google、Yahoo、Bing、Yandex、Altavista、百度の検索エンジンによる検索結果をあらかじめチェックし、その内容をアイコンで通知します。
- **サーフシールドを有効化** - (デフォルトではオン) アクセス時のアクティブな (リアルタイムの) エクスプロイトサイトに対する保護。ユーザーが Web ブラウザ (あるいは他の HTTP を使用するアプリケーション) から Web ページにアクセスする際、既知の悪意のあるサイトへの接続と、エクスプロイトコンテンツがブロックされます。
- **検出された脅威の AVG への報告を有効化** - (デフォルトではオン) : この項目をチェックすると、AVG セーフサーフあるいは AVG セーフサーチによって検出されたエクスプロイトと悪意のあるサイトのレポートを許可し、悪意のある活動に関する情報を収集しているデータベース

スに送信されます。

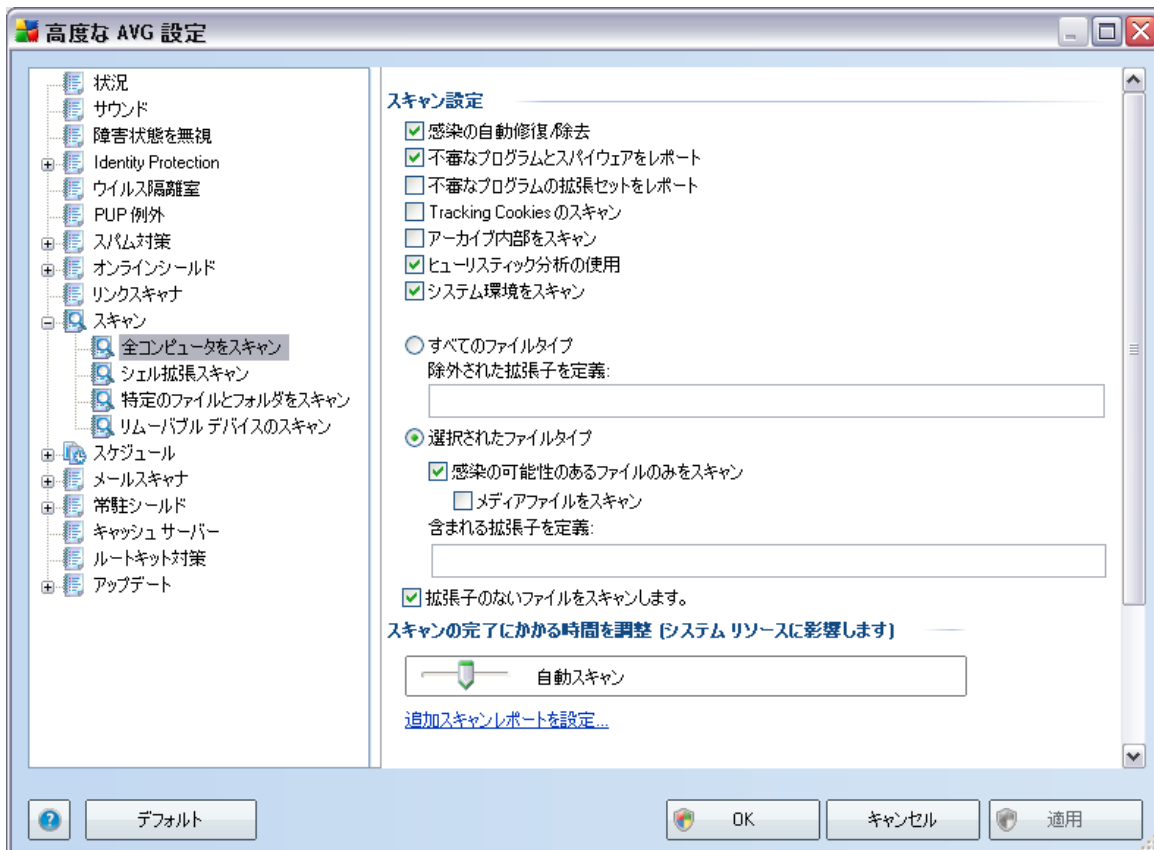
10.8. スキャン

高度なスキャン設定は3つのカテゴリに分けられ、このカテゴリはソフトウェアベンダーによって定義された特定のスキャンタイプを示します。

- **完全コンピュータスキャン** - 予め定義された完全コンピュータスキャンです。
- **シェル拡張スキャン** - Windows Explorer 環境から直接選択されたオブジェクトのスキャンです。
- **特定ファイルまたはフォルダのスキャン** - 予め定義されたコンピュータの特定エリアのスキャンです。
- **リムーバブルデバイスのスキャン** - コンピュータに接続した特定のリムーバブルデバイスのスキャン

10.8.1. 全コンピュータをスキャン

完全コンピュータスキャンオプションでは、ソフトウェアベンダーによってあらかじめ定義されたスキャンパラメータ、[完全コンピュータスキャン](#)を編集することができます。



スキャン設定

スキャン設定セクションでは、オン/オフ可能なスキャンパラメータが表示されます。

- **感染の自動修復/除去** - (デフォルトではオン)ウイルスがスキャン実行中に検出され、修復可能な場合、自動で修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは[ウイルス隔離室](#)に移動されます。
- **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると、[スパイウェア対策エンジン](#)を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします**。[スパイウェア](#)は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合で

も、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#)の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
- **Tracking Cookie をスキャン** - スパイウェア対策 [コンポーネントのこのパラメータは、スキャン実行中に Cookie が検出されるように定義します。](#) (HTTP cookie は、サイトのプリファレンスや電子ショッピングカードの内容等のユーザーの特定の情報の認証、トラッキング、メンテナンスに使用されます)
- **アーカイブ内部をスキャン** - ZIPやRAR等のアーカイブ内に格納されているファイルをスキャンします。
- **ヒューリスティック分析を使用** - (デフォルトではオン)ヒューリスティック分析 (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)は、スキャン実行中にウイルス検出に使用される方法の1つです。
- **システム環境をスキャン** - コンピュータのシステムエリアの部分もスキャンチェックします。

さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

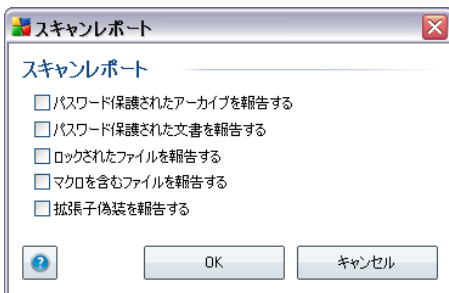
- **すべてのファイルタイプとスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリスト** (保存するとカンマはセミコロンに変わります) を入力することで、スキャンからの除外を定義できます。
- **選択されたファイルタイプ** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーンテキストファイルやその他の非実行可能ファイルなど、感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディアファイル (ビデオ、オーディオファイル - これらのファイルは多くの場合、サイズが非常に大きく、ウイルスに感染している可能性が非常に低いいため、このボックスのチェックを外している場合、スキャン時間がさらに短縮されます)が含まれます。ここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。
- オプションとして、**拡張子のないファイルをスキャン**できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審なものであり、常にスキャンするべきです。

スキャン処理優先度

スキャン処理優先度セクションでは、システムリソース使用度に応じて、希望するスキャン速度を指定することができます。デフォルトでは、このオプションの値は、自動的にリソースを使用する中レベルの値に設定されています。スキャンの速度を上げたい場合、スキャンにかかる時間を削減することができますが、スキャン実行中、システムリソース使用度は著しく上がり、PC上の他の作業の速度が低下します。(このオプションは、コンピュータの電源がオンであり、コンピュータ上で作業をしているユーザーがない場合等に適しています。)一方、スキャンの時間を延長することで、システムリソース使用度を下げることができます。

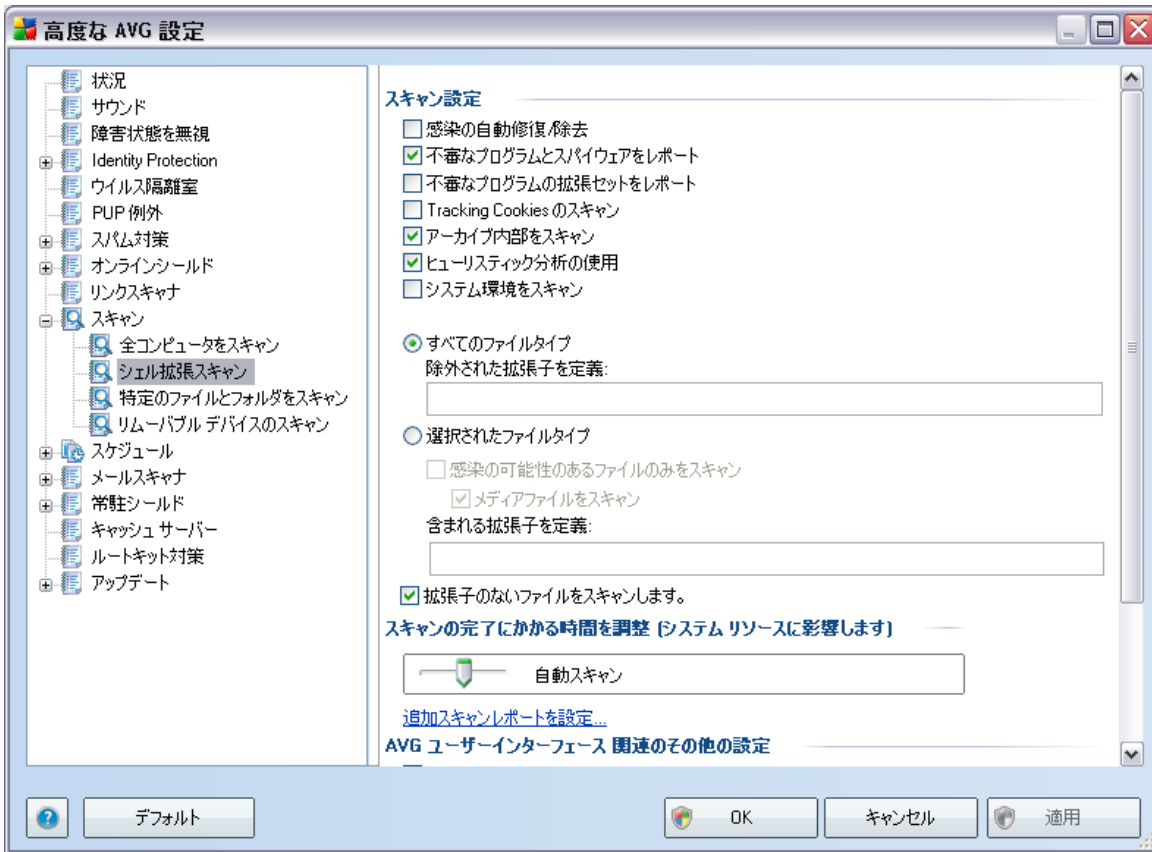
追加スキャンレポートを設定...

追加スキャンレポート...リンクをクリックすると、**スキャンレポートダイアログ**が開きます。このウィンドウでは、レポートされる検出項目を設定します。



10.8.2. シェル拡張スキャン

このアイテムは **シェル拡張スキャン**と呼ばれ、以前の完全コンピュータスキャン同様、あらかじめ定義されたスキャンを編集することができます。設定が [Windows Explorer環境から直接起動される特定オブジェクトスキャン](#)に関連している(シェル拡張)場合、******* Windows Explorerのスキャンの章を参照してください。

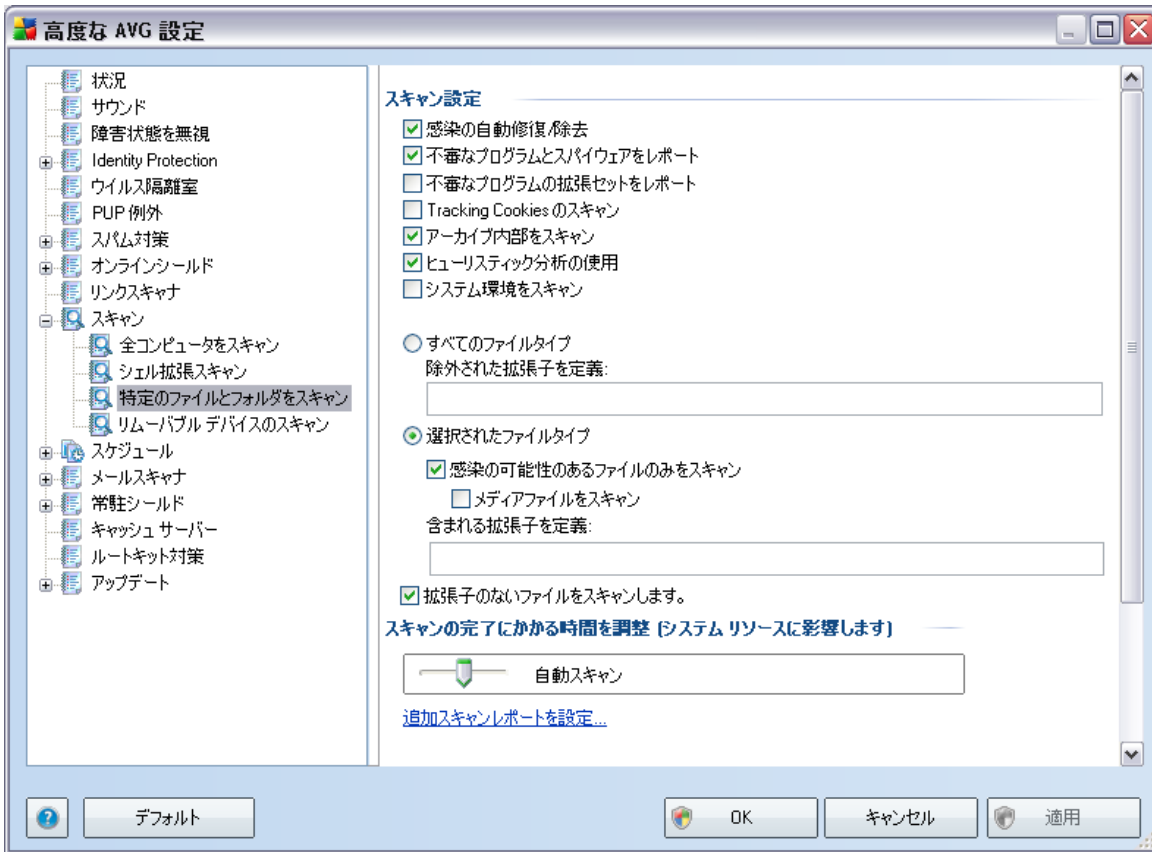


パラメータのリストは **完全 コンピュータスキャン** で利用できるものと同一です。ただし、デフォルト設定が異なります。**完全 コンピュータスキャン** では、ほとんどのパラメータは選択されていますが、**シェル拡張スキャン** (**Windows Explorer のスキャン**) では、関連パラメータのみがオンとなっています。

注意 :各パラメータの説明については、**AVG 高度な設定 / スキャン / 完全スキャン**の章を参照してください。

10.8.3. 特定のファイルやフォルダをスキャン

選択領域スキャンの編集インターフェースは**完全スキャン**編集ダイアログと同一です。すべてのコンフィグレーションオプションは同一です。ただし、デフォルト設定は**完全 コンピュータスキャン**の場合にはより厳密なものとなっています。

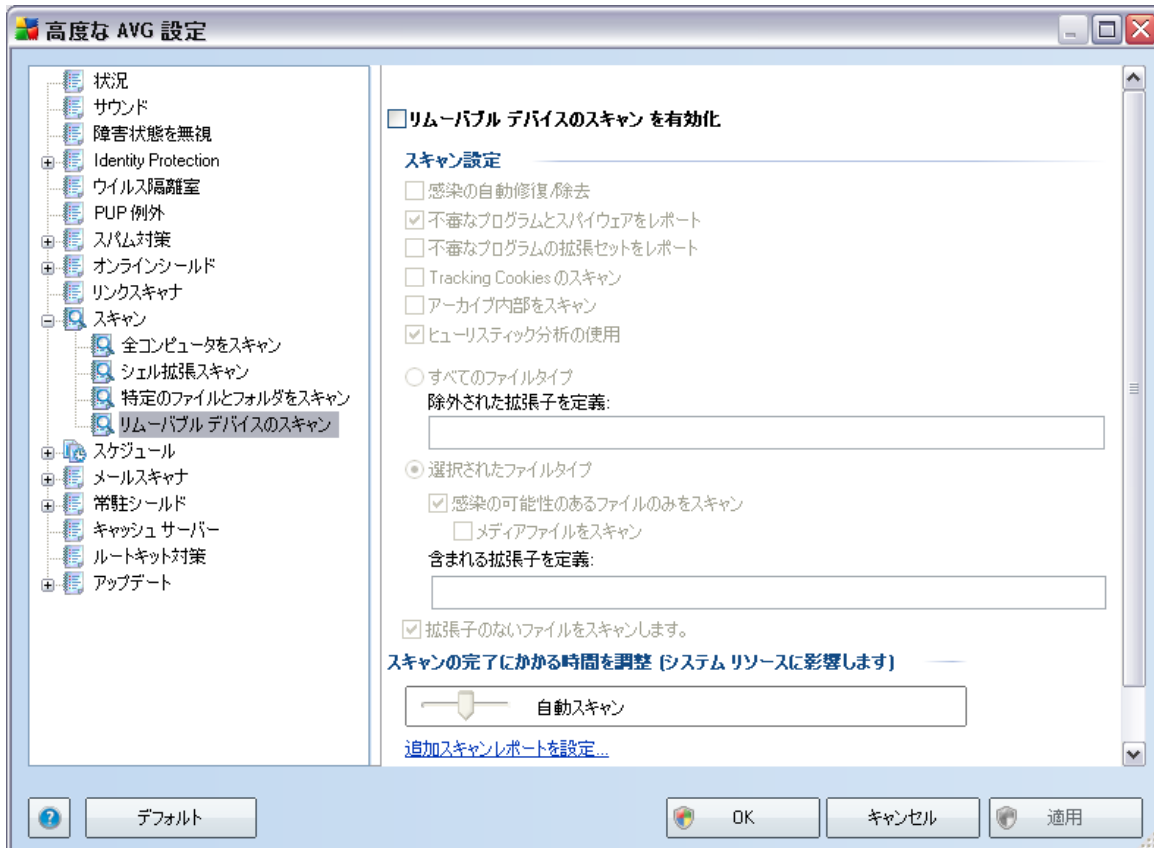


この設定ダイアログで設定されるすべてのパラメータは、[特定のファイルとフォルダをスキャン](#)で選択されたスキャンエリアのみに適用されます。

注意 :各パラメータの説明については、[AVG高度な設定 / スキャン / 完全スキャン](#)の章を参照してください。

10.8.4. リムーバブルデバイスのスキャン

また、[[リムーバブルデバイスのスキャン](#)] の編集 インターフェースは [[完全 コンピュータスキャン](#)] 編集ダイアログに非常に似ています。



リムーバブルデバイスのスキャンは、コンピュータにリムーバブルデバイスを接続したときに、自動的に起動します。既定では、このスキャンはオフになっています。ただし、リムーバブルデバイスは大きな脅威源なので、潜在的な脅威をスキャンすることが非常に重要です。このスキャンを準備し、必要なときに自動的に起動するようにするには、[[リムーバブルデバイスのスキャンを有効化](#)] オプションにチェックを付けます。

注意 :各パラメータの説明については、[AVG高度な設定 / スキャン / 完全スキャン](#)の章を参照してください。

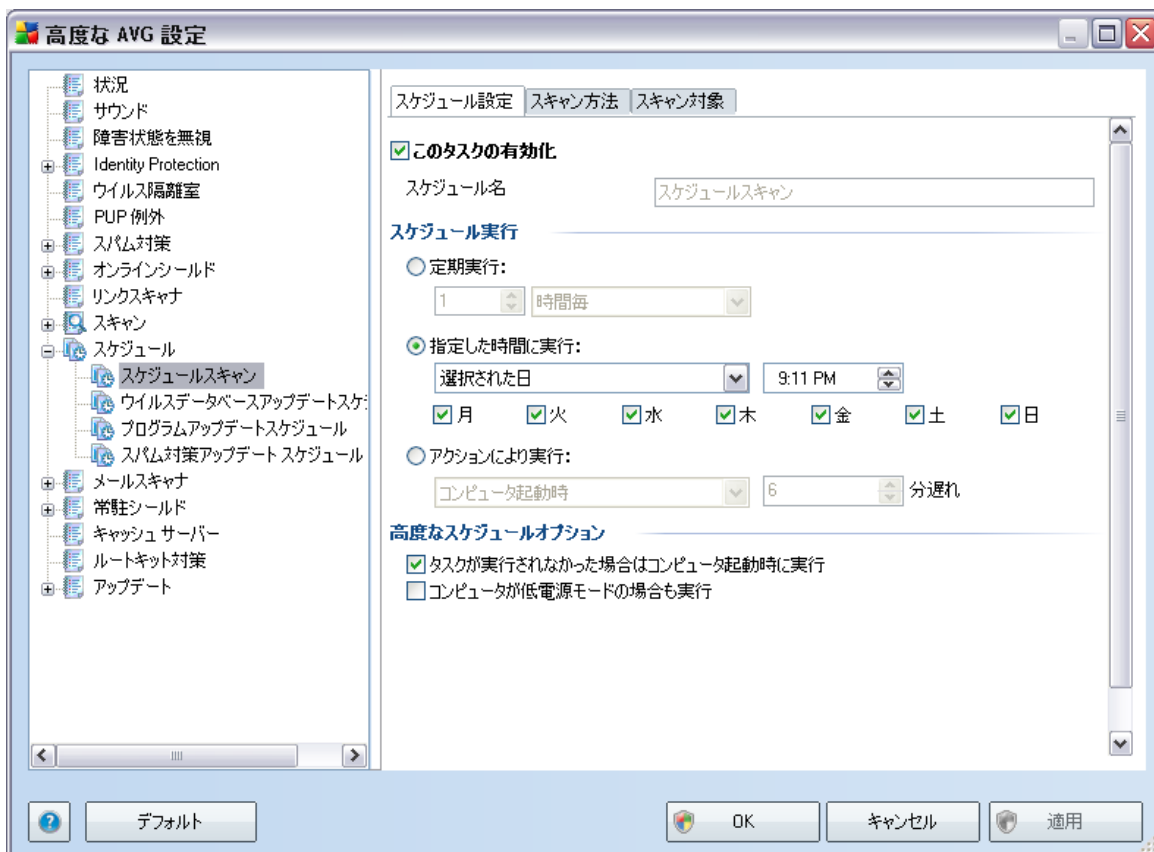
10.9. スケジュール

スケジュールセクションでは、デフォルト設定を編集することができます。

- [完全スキャンスケジュール](#)
- [ウイルスデータベースアップデートスケジュール](#)
- [プログラムアップデートスケジュール](#)

10.9.1. スケジュール済スキャン

スケジュール済スキャン (または新しいスケジュール設定) のパラメータは、3つのタブで編集することができます。



[スケジュール設定] タブでは、[このタスクの有効化] アイテムのチェックをON/OFFすることによって、必要に応じて、スケジュール済みスキャンを一時的に有効化/無効化することができます。

次に、[名前] テキストフィールド(すべての既定のスケジュールでは無効化)には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。新しく追加されたスケジュール(ナビゲーションツリーの[スキャンのスケジュール] アイテムを右クリックして新しいスケジュールを追加できます)の場合、独自の名前を指定できます。その場合は、テキストフィールドが開き、編集できるようになります。スキャンには、必ず簡潔で、説明的で、適切な名前を使用して、後に他のスキャンと区別できるようにしてください。

例: 「新規スキャン」あるいは「マイスキャン」という名前は適切ではありません。これらの名前は、実際にスキャンがチェックする対象を指さないからです。「システムエリアスキャン」というような名前が推奨されます。また、スキャンが完全コンピュータスキャンか単に選択されたファイルやフォルダのスキャンであるかを区別する名前を指定することも重要です - 自分のスキャンは常に[選択されたファイルやフォルダのスキャン](#)の特定バージョンにあります。

このダイアログでは、さらに以下のスキャンパラメータを定義します。

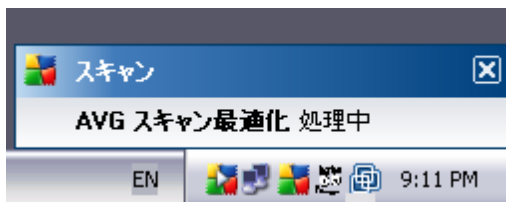
スケジュール実行

ここでは、新しくスケジュールされたスキャンを起動する時間間隔を指定できます。特定の期間が経過した後に繰り返しスキャンを起動(**定期実行...**)、正確な日時を定義(**特定の時間間隔で実行...**)または、スキャン起動のトリガとなるイベントを定義(**コンピュータ起動時のアクションベース**)することでタイミングを定義できます。

高度なスケジュールオプション

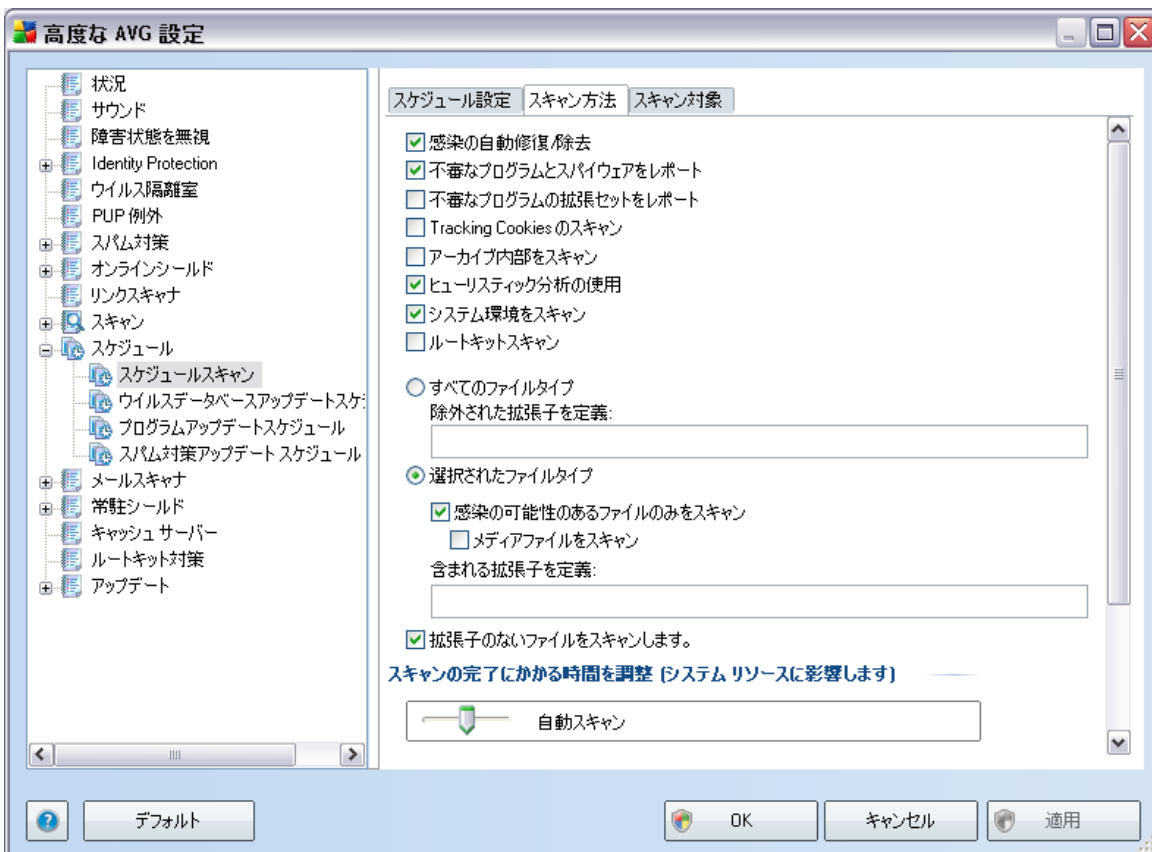
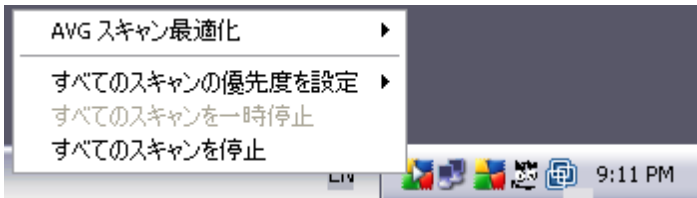
このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、スキャンが実行される条件を定義します。

スケジュール済みのスキャンが指定した時間に起動すると、[AVGシステムトレイアイコン](#)上に開かれるポップアップウィンドウで通知されます。



次に、スケジュール済みスキャンが実行中であることを通知する新しい[AVGシステムトレイアイコン](#)(白の矢印の付いた全色で表示されます。上の画像を参照)が表示されます。実行中のスキャンAVGアイ

アイコンを右クリックすると、コンテキストメニューが開き、実行中のスキャンを一時停止あるいは停止することができます。



スキャン方法タブには、任意でオン/ オフできるスキャンパラメータのリストが表示されます。デフォルトでは、ほとんどのパラメータがオンになっており、その機能はスキャン実行中に適用されます。この設定を変更する合理的な理由がない場合、予め定義された設定を維持することを推奨します。

- **感染の自動修復/ 除去** - (デフォルトではオン) ウイルスがスキャン実行中に検出され、修

復可能な場合、自動で修復されます。感染したファイルを自動的に修復できない場合、感染したオブジェクトは [ウイルス隔離室](#) に移動されます。

- **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると [スパイウェア対策エンジン](#) を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします**。[スパイウェア](#) は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。
- **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#) の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
- **Tracking Cookie をスキャン** - (デフォルトではオン)スパイウェア対策 [コンポーネントのこのパラメータは、スキャン実行中に Cookie が検出されるように定義します](#)。(HTTP cookie は、サイトのプリファレンスや電子ショッピングカードの内容等のユーザーの特定の情報の認証、トラッキング、メンテナンスに使用されます)
- **アーカイブ内部をスキャン** - (デフォルトではオン)このパラメータは、ZIPやRAR等のアーカイブ形式で格納されている場合でも、すべてのファイルがスキャンされるように設定します。
- **ヒューリスティック分析を使用** - (デフォルトではオン)ヒューリスティック分析 (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)は、スキャン実行中にウイルス検出に使用される方法の1つです。
- **システム環境をスキャン** - (デフォルトではオン)コンピュータのシステムエリアもチェックされます。
- **ルートキットをスキャン** 完全コンピュータスキャン中にルートキットをスキャンする場合、この項目にチェックを付けます。また、ルートキットスキャンは [ルートキット対策](#) コンポーネントでも独自に行うことができます。

さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。

- **すべてのファイルタイプとスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリスト** (保存するとカンマはセミicolonに変わります) を入力することで、スキャンからの除外を定義できます。
- **選択されたファイルタイプ** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーンテキストファイルやその他の非実行可能ファイルなど、感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディアファイル (ビデオ、オーディオファイル - これらのファイルは多くの場合、サイズが非常に大きく、ウイルスに感染している可能性が非常に低い) ため、このボックス

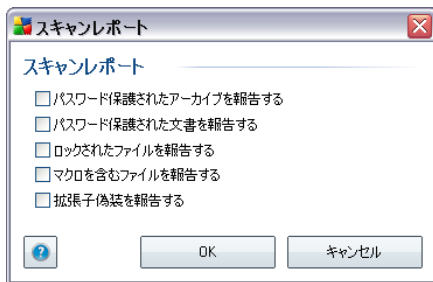
のチェックを外している場合、スキャン時間がさらに短縮されます)が含まれます。ここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。

- オプションとして、**拡張子のないファイルをスキャン**できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審なものであり、常にスキャンすべきです。

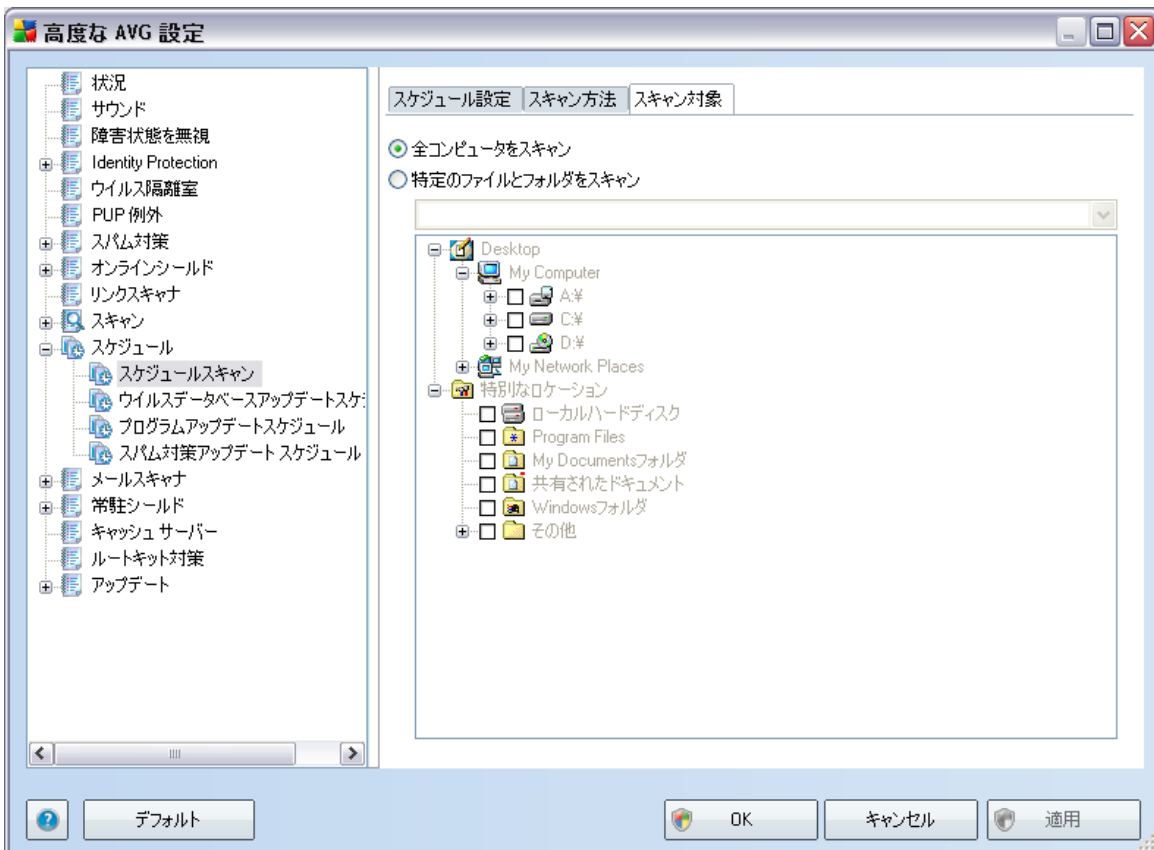
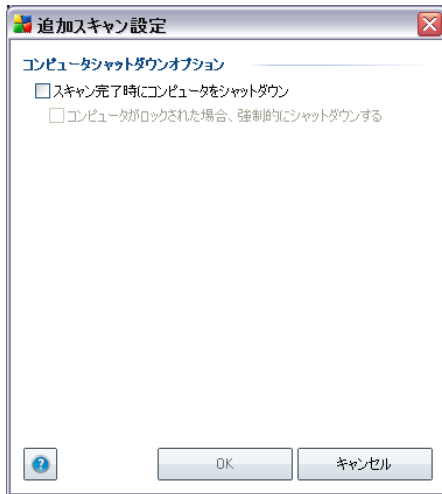
スキャン処理優先度

スキャン処理優先度セクションでは、システムリソース使用度に応じて、希望するスキャン速度を指定することができます。デフォルトでは、このオプションの値は、自動的にリソースを使用する中レベルの値に設定されています。スキャンの速度を上げたい場合、スキャンにかかる時間を削減することができますが、スキャン実行中、システムリソース使用度は著しく上がり、PC上の他の作業の速度が低下します。(このオプションは、コンピュータの電源がオンであり、コンピュータ上で作業をしているユーザーがいない場合等に適しています。)一方、スキャンの時間を延長することで、システムリソース使用度を下げることができます。

追加スキャンレポート...リンクをクリックすると、**スキャンレポート**ダイアログが開きます。このウィンドウでは、レポートされる検出項目を設定します。

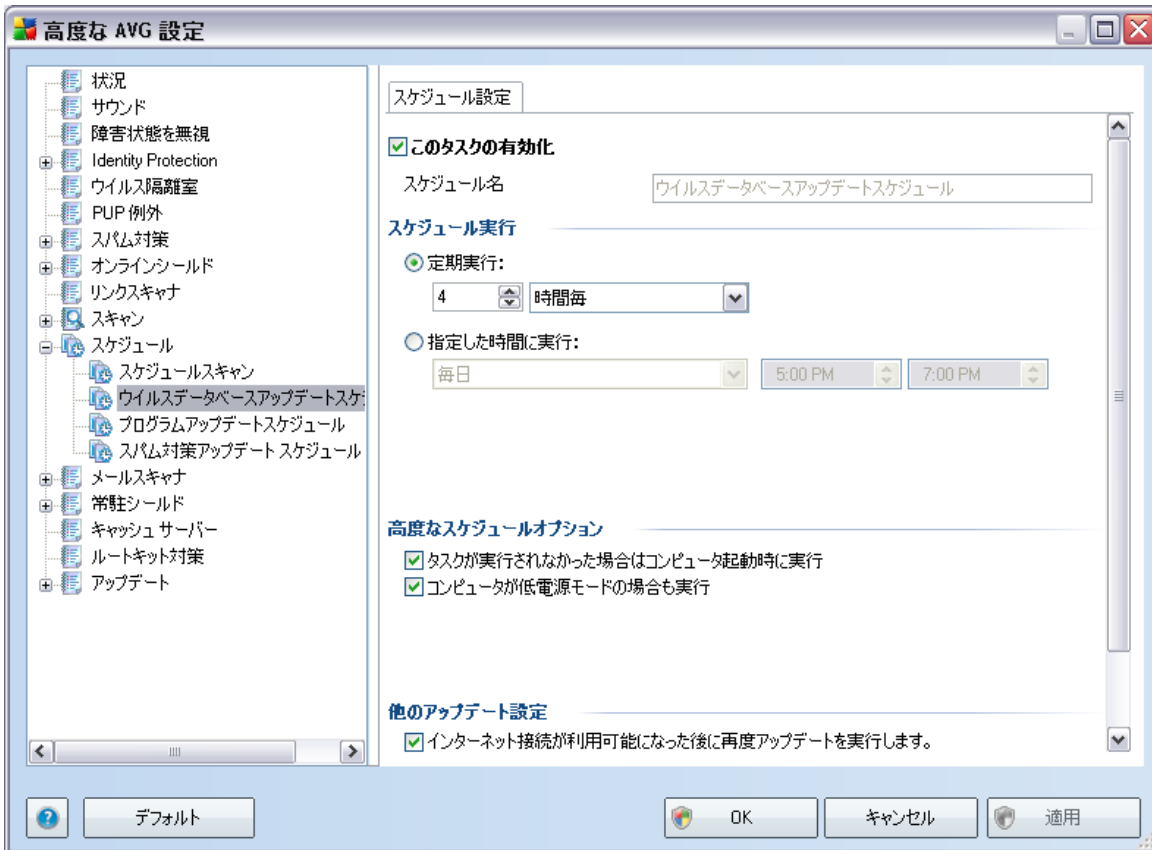


追加スキャン設定 ... をクリックすると、**コンピュータシャットダウンオプション**ダイアログが表示されます。このダイアログでは、スキャンプロセス終了時に自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (**スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン**) 確定すると、現在コンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (**コンピュータがロックされた場合、強制的にシャットダウンする**) が有効化されます。



[**スキャン対象**] タブでは、[全コンピュータをスキャン](#)、あるいは[特定のファイルやフォルダをスキャン](#)のいずれかを選択します。特定のファイルやフォルダスキャンを選択した場合、ダイアログ下部のツリービューで対象フォルダを指定することができます。

10.9.2. ウイルスデータベースアップデートスケジュール



[**スケジュール設定**] タブでは、[**このタスクの有効化**] アイテムにチェックを付けた/外したりすることによって、必要に応じて、簡単にスケジュール済みのウイルスデータベースアップデートを一時的に非アクティブにしたり、再度オンに切り替えた/することができます。基本的なウイルスデータベースアップデートスケジュールは[アップデートマネージャ](#)コンポーネントに含まれます。このダイアログでは、一部の詳細なウイルスデータベースアップデートスケジュールのパラメータを設定します。[**名前**] テキストフィールド(すべての既定のスケジュールでは無効化)には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。

スケジュール実行

このセクションでは、新しくスケジュールされたウイルスデータベースを起動する時間間隔を指定します。タイミングは、特定の期間の後に繰り返し起動するアップデート (...**ごとに実行**) または正確な日時 (**特定の時刻に実行...**) を指定することで、定義できます。

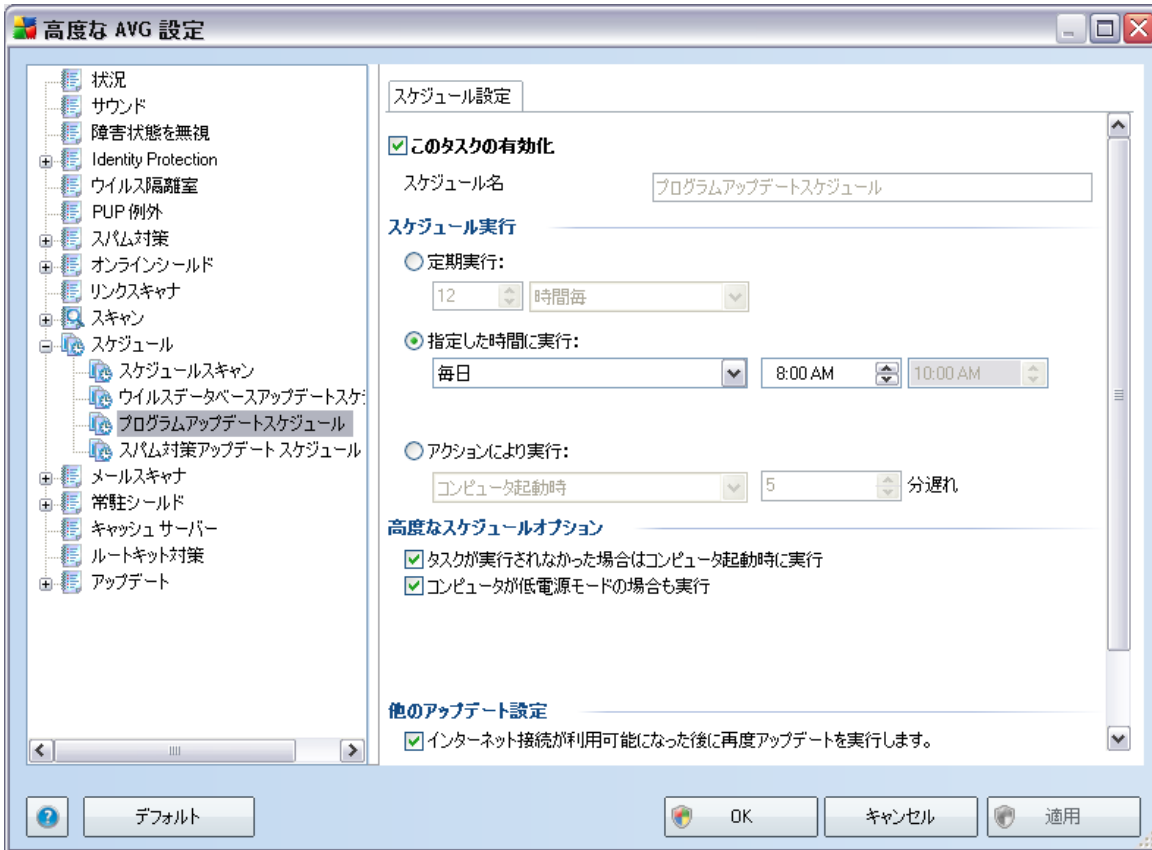
高度なスケジュールオプション

このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、ウイルスデータベースアップデートが実行される条件を定義します。

他のアップデート設定

最後に、[**インターネット接続が利用できるようになった時点ですぐにアップデートを再実行する**] オプションにチェックをすると、インターネット接続に障害が発生し、アップデート処理が失敗した場合、インターネット接続が復旧した時点で必ずすぐにアップデートを再開することができます。

スケジュール済みのアップデートが指定した時間に起動すると、[AVGシステムトレイアイコン](#) 上を開くポップアップウィンドウによってこのことが通知されます ([高度な設定 / 表示](#) ダイアログの既定の設定を保持している場合)。



[スケジュール設定] タブでは、[このタスクの有効化] アイテムにチェックを付けた以外に、必要に応じて、簡単にスケジュール済みのプログラムアップデートを一時的に無効にしたり、再度有効に切り替えたりすることができます。[名前] テキストフィールド (すべての既定のスケジュールでは無効化) には、プログラムベンダーによってこのスケジュールに割り当てられた名前があります。

スケジュール実行

ここでは、プログラムアップデート実行時間を指定します。タイミングは、**定期実行**、**指定した時間に実行**、**アクションにより実行**のいずれかによって定義することができます。

高度なスケジュールオプション

このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、プログラ

ムアップデートが実行される条件を定義します。

他のアップデート設定

[インターネット接続が利用できるようになった時点ですくにアップデートを再実行する] オプションにチェックをすると、インターネット接続に障害が発生し、アップデート処理が失敗した場合、インターネット接続が復旧した時点で必ずすくにアップデートを再開することができます。

スケジュール済みのアップデートが指定した時間に起動すると、[AVGシステムトレイアイコン](#)上を開くポップアップウィンドウによってこのことが通知されます ([高度な設定/表示](#) ダイアログの既定の設定を保持している場合)。

注意: スケジュール済みプログラムアップデートおよびスケジュール済みスキャンの時間と一致する場合は、アップデートプロセスが最優先され、スキャンは中断されます。

10.10. メールスキャナ



メールスキャナダイアログは3つのセクションに分けられます。

- **メール スキャナ** - このセクションでは、これらの送受信メールの基本項目を設定することができます。
 - メール ウイルススキャンを実行する場合、
 - 各メッセージの最後にウイルスが含まれていないことを示す認証テキストを追加する場合、テキストは、[[認証](#)] ダイアログで調整できます。
 - 添付ファイルを含むメッセージにのみ認証テキストを追加する場合、

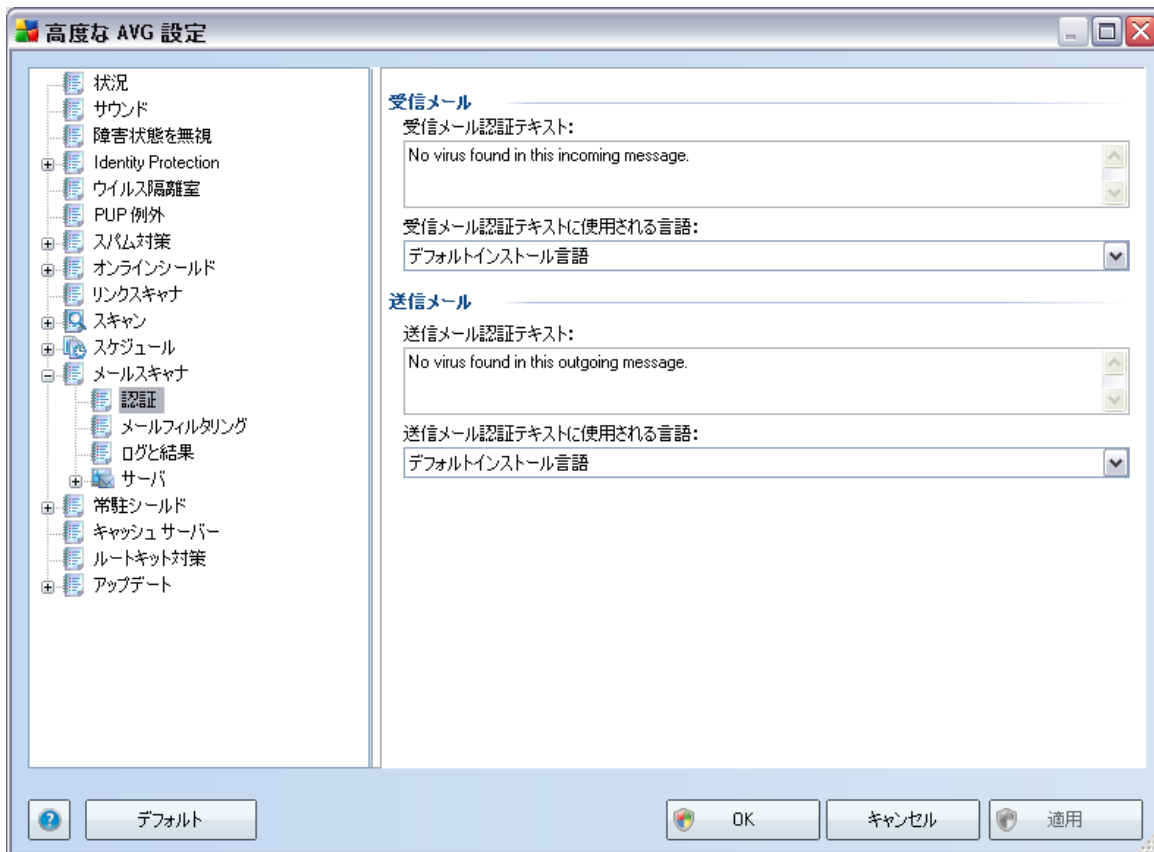
ウイルス感染メッセージの件名を修正、このチェックボックスにチェックを付け、テキストフィールドに希望する値を入力してください。その値は、より簡単に感染を特定し、フィルタリングするために、感染したメールの件名フィールドに追加されます。初期値は*** VIRUS*** であり、この値

を使用することを推奨します。

- **スキャン プロパティ**- このセクションでは、メールがスキャンされる方法を指定することができます。
 - **ヒューリスティック分析を使用**- メール メッセージをスキャンするときに[ヒューリスティック](#) [ス](#)検出方式を使用する場合はチェックしてください。このオプションがオンの場合、メール添付ファイルを拡張子だけでなく、実際の添付ファイルの内容を考慮してフィルタできます。フィルタリングは[メールフィルタリング](#)ダイアログで設定できます。
 - **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると [スパイウェア対策](#) エンジンを有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャン** します。[スパイウェア](#)は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。
 - **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#)の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
 - **アーカイブ内部をスキャン** - メールメッセージに添付されたアーカイブの内容をスキャンする場合にチェックします。
- **添付ファイル レポート** - このセクションでは、潜在的に危険あるいは疑わしいファイルに関する追加レポートを設定できます。警告ダイアログは表示されませんのでご注意ください。認証テキストのみがメールの最後に追加されます。このようなレポートは[メール スキャン検出](#)ダイアログにリストされます。
 - **パスワード保護されたアーカイブを報告する** - パスワードで保護されたアーカイブ (ZIP、RAR等)は、ウイルススキャンできません。潜在的に危険なものとして報告する場合はボックスをチェックします。
 - **パスワード保護された文書を報告する** - パスワード保護された文書はウイルススキャンできません。潜在的に危険なものとして報告する場合はボックスをチェックします。
 - **マクロを含むファイルを報告する** - マクロは、あるタスクを簡単に実行するために予め定義された一連の命令です (MS Wordのマクロが広く知られています。) マクロは潜在的に危険な命令を含むことがあります。ボックスにチェックを付けると マクロを含むファイルが疑わしいものとして報告されます。

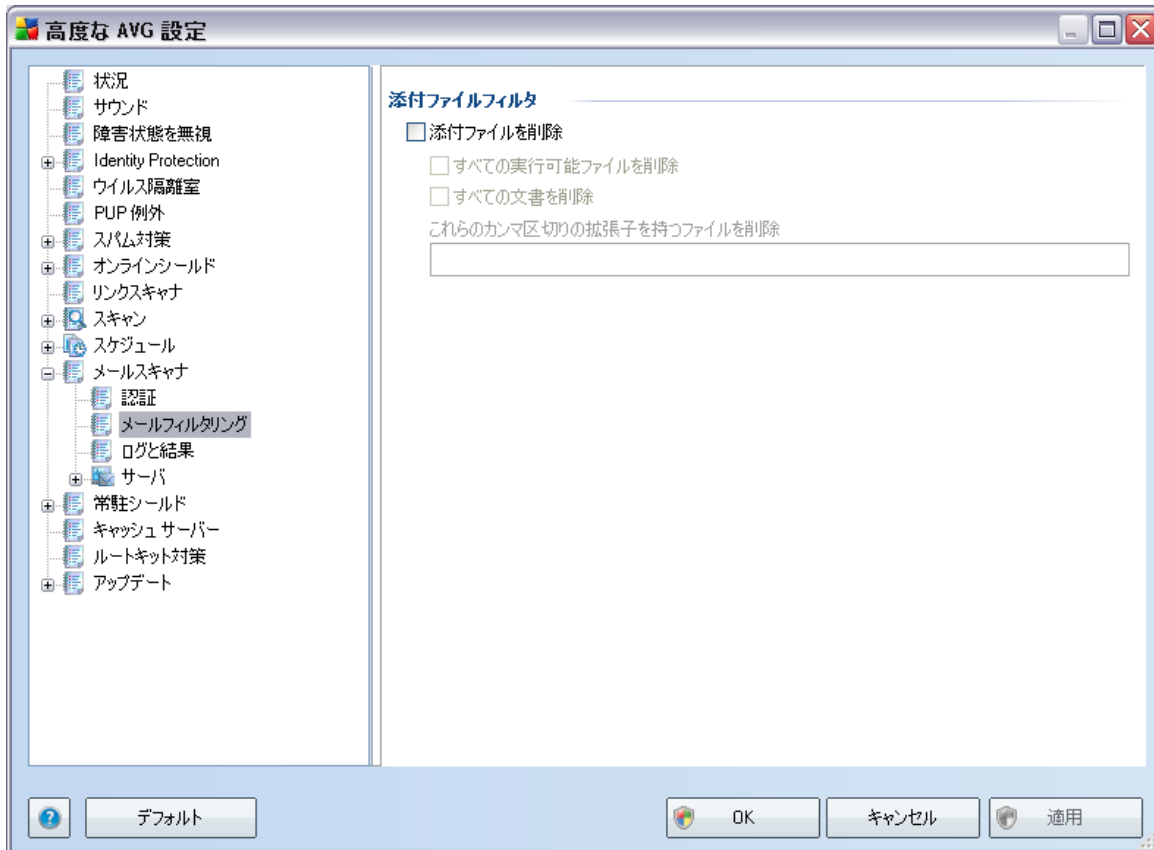
- **拡張子偽装を報告する** - 例えば、疑わしい実行可能ファイル「something.txt.exe」が、無害なテキストファイル「something.txt」と偽装されている場合があります。潜在的に危険なものとしてレポートする場合はボックスをチェックします。
- **レポートされたメール添付ファイルをウイルス隔離室に移動**- 添付ファイルがパスワード保護されたアーカイブ、パスワード保護されたドキュメント、マクロを含むファイル、拡張子偽装を含む場合、それらをレポートするかどうかを指定します。このようなメールがスキャン中に検出された場合、検出された感染オブジェクトを**ウイルス隔離室**に移動するかどうかについても指定することができます。

10.10.1. 認証



認証ダイアログでは、認証テキストの内容と言語を指定します。これは**受信メール**と**送信メール**で個別に指定できます。

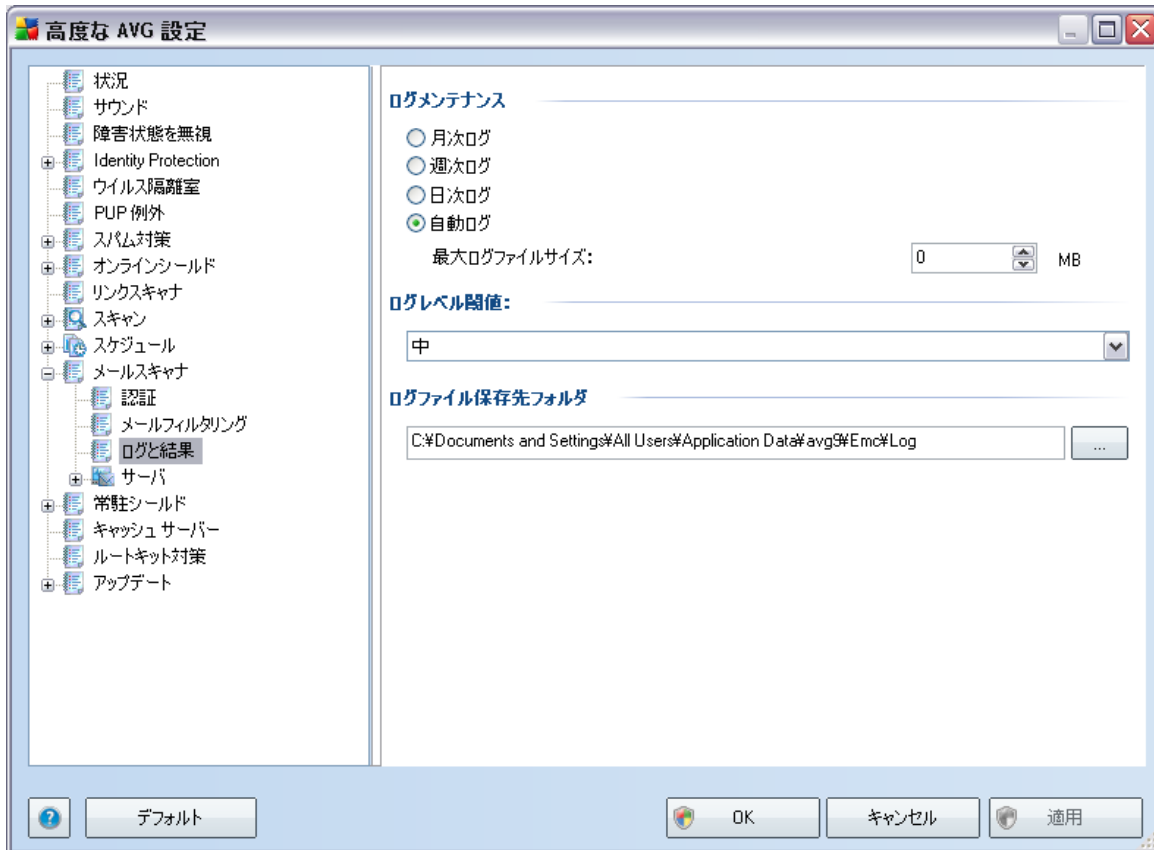
10.10.2. メールフィルタリング



添付ファイルフィルタダイアログでは、メール添付ファイルのスキャンパラメータを設定できます。デフォルトでは、添付ファイルを削除オプションはオフとなっています。有効化した場合、感染、または潜在的に危険だと検出されたすべての添付ファイルは自動的に削除されます。削除する添付ファイルのタイプを定義したい場合、各オプションを選択します。

- **すべての実行可能ファイルを削除** - すべての*.exe ファイルが削除されます。
- **すべての文書を削除** - すべての*.doc、*.docx、*.xls、*.xlsx ファイルが削除されます。
- **これらのカンマ区切りの拡張子を含むファイルを除去** - 定義された拡張子のすべてのファイルを削除します

10.10.3. ログと結果

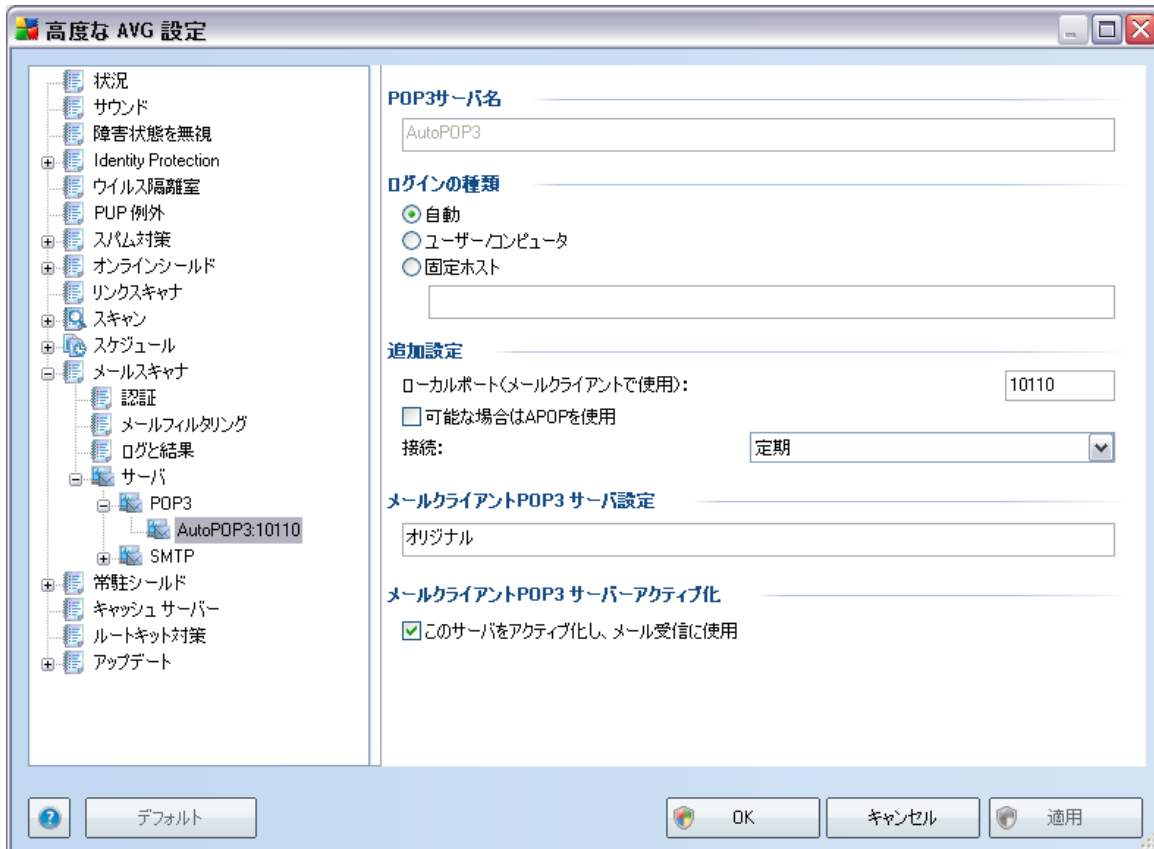


ログと結果 から開かれるダイアログでは、メールスキャナの結果のためのパラメータを指定できます。このダイアログは複数のセクションに分けられます。

- **ログメンテナンス** - メールスキャナのログ出力間隔を日次、週次、月次から選択します。また、最大ログファイルサイズ (MB) を指定することもできます。
- **ログレベル閾値** - デフォルトでは中レベルに設定されています - これより低いレベル (基本接続情報のロギング)、または高いレベル (すべてのトラフィックのロギング) を選択することもできます。
- **ログファイル保存先フォルダ** - ログファイルを保存する場所を定義します。

10.10.4. サーバー

[サーバー] セクションでは、**メールスキャナ**コンポーネントサーバーのパラメータを編集したり [新しいサーバーを追加] ボタンを使用して新しいサーバーを設定できます。

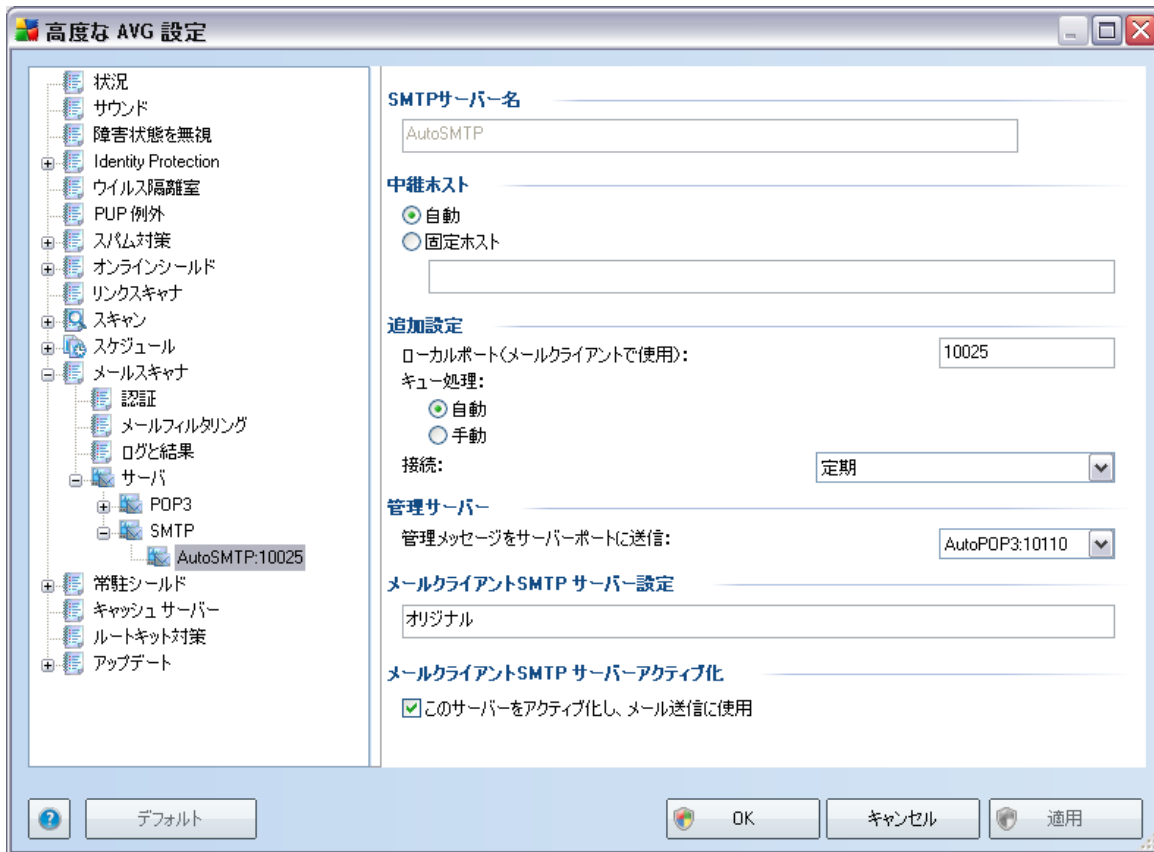


このダイアログでは (**サーバー / POP3** で表示されます。)、受信メール用のPOP3プロトコルを使用して、新規の**メールスキャナ**サーバーを設定することができます。

- **POP3サーバー名** - サーバー名を入力するかAutoPOP3のデフォルト名のままにします。
- **ログインの種類** - 受信メールに使用されるメールサーバー決定方法を定義します。
 - **自動** - メールクライアントの設定にしたがって、自動的にログインが実行されます。
 - **USER/COMPUTER** - メールサーバーを決定する最も簡単で多く使用される方法はプロキシ方法です。この方法を使用するためには、それぞれのメールサーバーのログイン

ユーザー名として、名前またはアドレス (ポート) を指定し、それらを / で区切ってください。例えば、サーバー pop.acme.com のアカウントを user1、ポート番号を 8200 とすると user1/pop.acme.com:8200 をログイン名として使用することになります。

- **固定ホスト** - プログラムは常にここで指定されたサーバーを使用します。メールサーバーのアドレスと名前を指定してください。ログイン名は変更されません。IPアドレス (例えば、123.45.67.89) と同様にドメイン名 (例えば、pop.acme.com) を使用することができます。メールサーバーが標準でないポートを使用する場合、このポートをコロンで区切り、サーバー名の後に記述することができます (例えば、smtp.acme.com:8200)。POP3 通信の標準ポートは 110 です。
- **追加設定** - より詳細なパラメータを設定します。
 - **ローカルポート** - メールアプリケーションからの通信用ポートを指定します。メールアプリケーション上で、このポートを POP3 通信のポートとして指定する必要があります。
 - **可能であれば APOP を使用** - このオプションはより安全なメールサーバーオプションを提供します。これにより、メールスキャナが、ユーザーアカウントパスワードを転送する他の方法を使用することができます。様々なチェーンを使用した暗号化フォーマットでサーバーにパスワードを送信します。*******この機能は、対象メールサーバーがその機能をサポートしている場合にのみ使用可能です。
 - **接続** - このドロップダウンメニューでは、使用する接続の種類 (通常/SSL/SSLデフォルト) を指定します。SSL 接続を選択した場合、送信データは第三者に追跡、監視されるリスクを負うことなく暗号化されます。この機能は、対象メールサーバーがその機能をサポートしている場合にのみ使用可能です。
- **メールクライアントの POP3 サーバー設定** - (AVG パーソナルメールスキャナがすべての受信メールをスキャンできるように) 正しくメールクライアントを設定するために必要なコンフィグレーション設定についての簡単な情報を提供しています *******。これは、このダイアログと他の関連ダイアログで指定されたパラメータに基づくサマリです。
- **メールクライアント POP3 サーバー有効化** - このアイテムをチェック/チェック解除すると、指定された POP3 サーバーを有効化/無効化します。



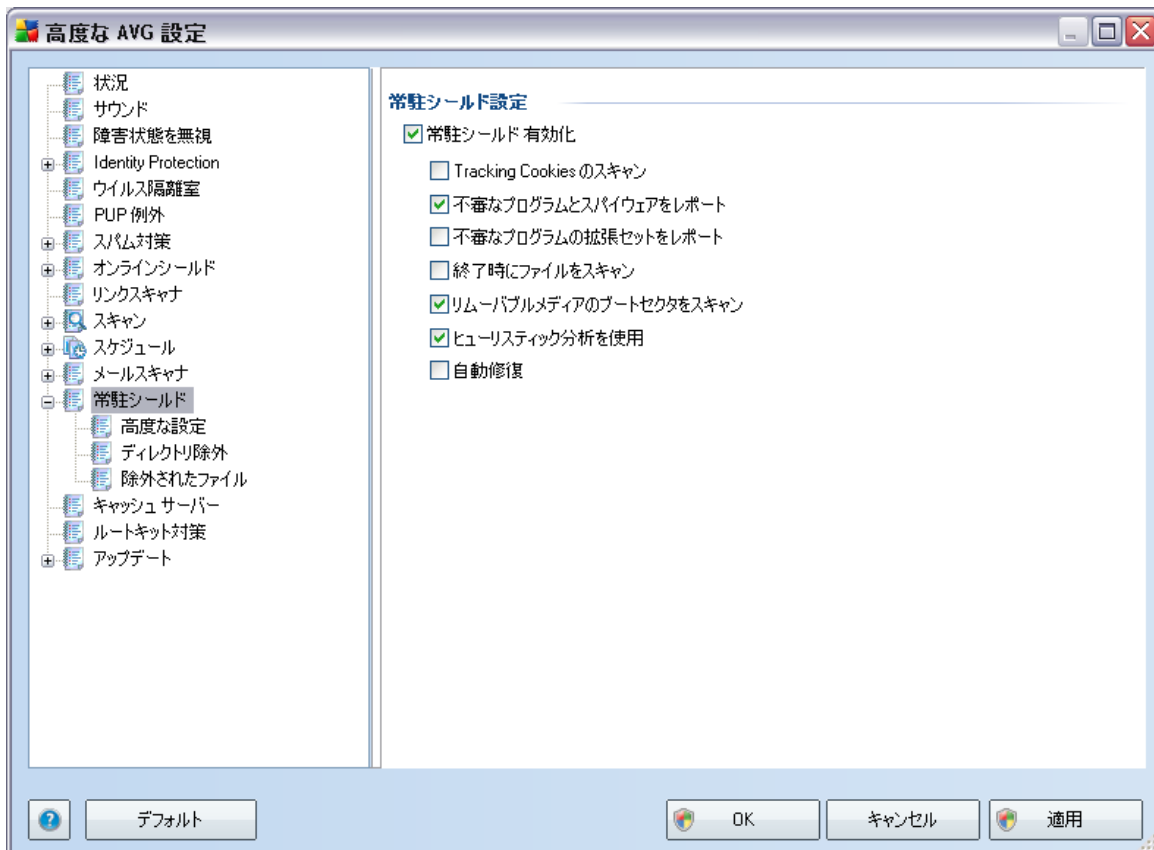
このダイアログでは (**サーバー / SMTP**で開かれます)、送信メール用のSMTPプロトコルを使用して、新規の**メールスキャナ**サーバーを設定することができます。

- **SMTPサーバー名** - サーバー名を入力するかAutoSMTPのデフォルト名のままにします。
- **リレーホスト** - 送信メールに使用されるメールサーバーを決定する方法を定義します。
 - **自動** - メールクライアントの設定にしたがって、自動的ログインが実行されます。
 - **固定ホスト** - プログラムは常にここで指定されたサーバーを使用します。メールサーバーのアドレスと名前を指定してください。IPアドレス (例えば、123.45.67.89)と同様に、ドメイン名 (例えば、smtp.acme.com)を使用することもできます。メールサーバーが標準でないポートを使用する場合、このポートをコロンで区切り、サーバー名の後に記述することができます (例えば、smtp.acme.com:8200)。SMTP通信の標準ポートは25です。

- **追加設定** - より詳細なパラメータを設定します。
 - **ローカルポート** - メールアプリケーションからの通信用ポートを指定します。メールアプリケーション上で、このポートをSMTP通信のポートとして指定する必要があります。
 - **キュー処理** - 送信メールメッセージの要求を処理する際の**メールスキャン**の動作を決定します。
 - 自動 - 送信メールは即時に送信先メールサーバーに配信 (送信) されます。
 - 手動 - メッセージは送信メッセージキューに追加され、後で送信されます
 - **接続** - このドロップダウンメニューでは、使用する接続の種類 (通常/SSL/SSLデフォルト) を指定できます。SSL接続を選択した場合は、送信データは第三者に追跡、監視されるリスクを負うことなく暗号化されます。この機能は送信先メールサーバーの機能としてサポートされている場合のみ利用できます。
- **管理サーバー** - 管理レポートの逆配信に使用されるサーバーのポート番号を示しています。これらのメッセージは、対象メールサーバーが送信メッセージを拒否する場合やこのメールサーバーが利用不可能である場合に生成されます。
- **メールクライアントSMTPサーバー設定** - クライアントメールアプリケーションの設定方法についての簡潔な情報が表示されます。これを適用することにより、送信メールは、現在修正中の送信メールチェックサーバーを使用してチェックされます。これは、このダイアログと他の関連ダイアログで指定されたパラメータに基づくサマリです。
- **電子メールクライアントSMTPサーバー有効化** - このボックスのオン/オフを切り替えると、指定したSMTPサーバーの有効化と無効化を切り替えます。

10.11. 常駐シールド

常駐シールドコンポーネントは、ウイルス、スパイウェア、他のマルウェアに対して、ファイルとフォルダをリアルタイムで保護します。



[**常駐シールド設定**] ダイアログでは、[**常駐シールドを有効化**] 項目（このオプションは既定ではオンです）をオン/オフにして、常駐シールド保護を完全に有効化または無効化できます。また、どの**常駐シールド**機能を有効化するかを選択します。

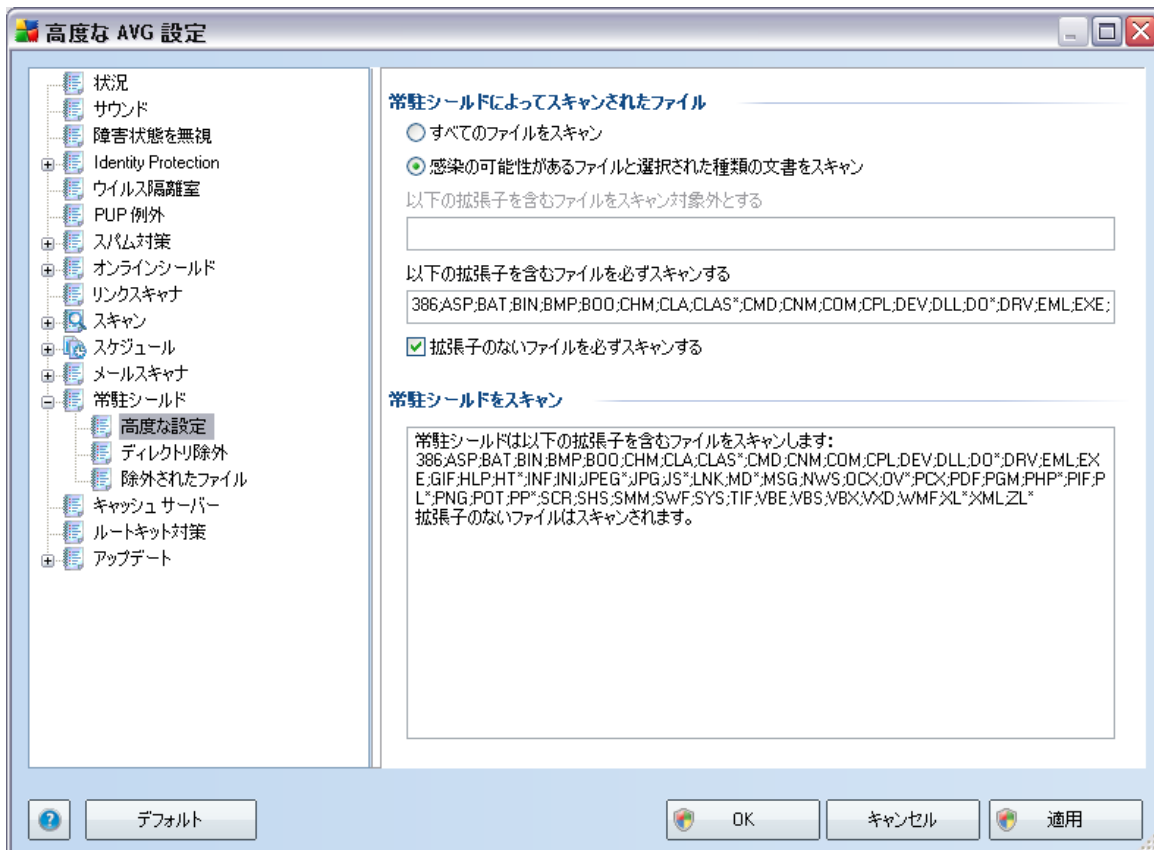
- **Tracking Cookie をスキャン** - このパラメータはcookieがスキャン中に検出されるかどうかを定義します。(HTTP cookies は、認証、トラッキング、サイトのプリファレンスや電子ショッピングカードの内容等の特定のユーザー情報の保持に使用されます)
- **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると **スパイウェア対策エンジン**を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャン**します。**スパイウェア**は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高

めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。

- **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#)の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
- **ファイルを閉じるときにスキャン** - 終了時のスキャンを有効にすると、AVGがアクティブなオブジェクト(アプリケーションやドキュメント等)が開かれるときや終了される時に確実にスキャンを実行します。この機能は、コンピュータを一部の高度なウイルスから保護するために役立ちます。
- **リムーバブルメディアのブートセクタをスキャン** (デフォルトではオン)
- **ヒューリスティック分析を使用** - (デフォルトではオン) [ヒューリスティック分析](#) (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)が検出に使用されます。
- **自動修復** - 修復方法がある場合、検出された感染は自動的に修復されます。

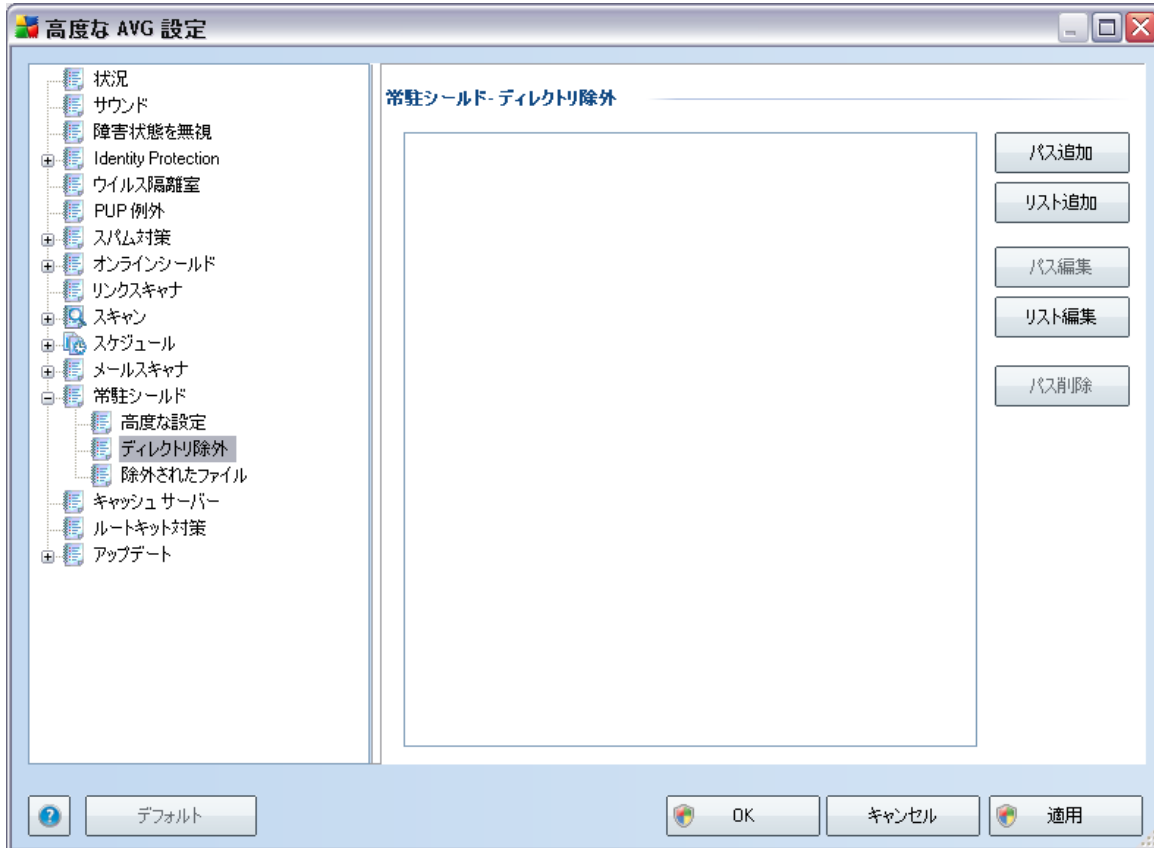
10.11.1. 高度な設定

[常駐シールドによってスキャンされたファイル] ダイアログでは、スキャンされるファイルを(特定の拡張子によって)設定することができます。



すべてのファイルのスキャンするか、感染の可能性があるファイルのみをスキャンするかを指定します。後者の場合、さらに、スキャンから除外されるファイル拡張子を指定することができます。また、必ずスキャンされるファイル拡張子を指定することもできます。

10.11.2. 除外ディレクトリ



常駐シールド- ディレクトリ除外 ダイアログでは、**常駐シールド** スキャンから除外されるフォルダを定義します。

必要でない場合、ディレクトリを除外しないことを強く推奨します。

ダイアログは、以下のコントロールボタンを提供します。

- **パス追加** - フォルダの参照画面で、スキャンから除外されるディレクトリを指定します。
- **リスト追加** - **常駐シールド** スキャンから除外されるディレクトリのリストを入力することができます。
- **パス編集** - 選択したフォルダのパスを編集します。
- **リスト編集** - フォルダリストを編集します。

- **パス削除**-選択したフォルダのパスを削除 できます

10.11.3. 除外されたファイル



[**常駐シールド - 除外されたファイル**] ダイアログは、先に説明した**常駐シールド - 除外されたディレクトリ**と類似した方法で動作しますが、**常駐シールド**スキャンから除外するフォルダではなく、特定のファイルを定義 できます。

これは必要でない場合は、フォルダを除外しないことを強く推奨します。

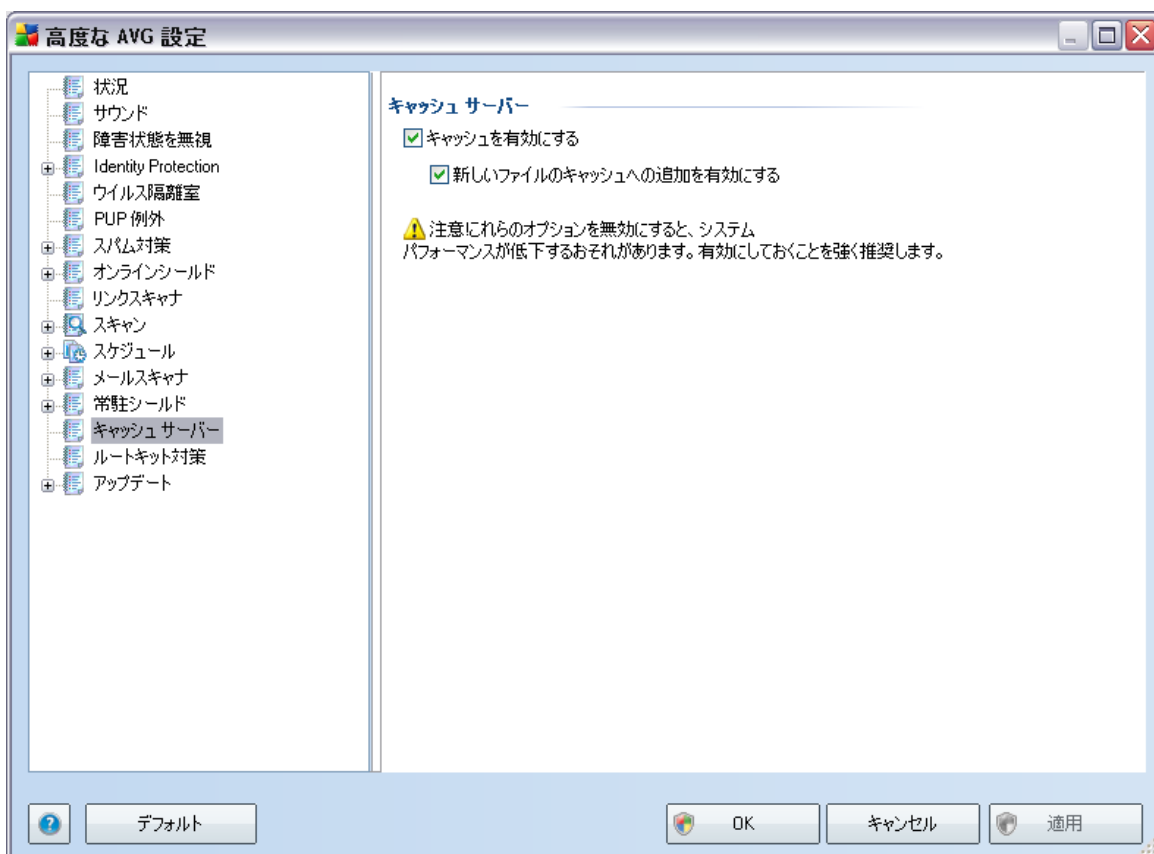
ダイアログは、以下のコントロールボタンを提供 します。

- **追加**-ローカル ディスク ナビゲーション ツリーから 1 つずつ選択することで、スキャンから除外されるファイルを指定 します。
- **リストを追加**-**常駐シールド**スキャンから除外されるファイルの完全 リストを入力 できます。

- **編集**-選択 ファイルへの特定のパスを編集 できます
- **リストを編集**-ファイル リストを編集 できます
- **削除**-選択 したファイルのパスを削除 できます

10.12. キャッシュ サーバー

キャッシュサーバーは、すべてのスキャン (オンデマンド スキャン、スケジュールされた完全 コンピュータ スキャン、**常駐シールド** スキャン) の速度を向上するために設計されている処理です。信頼できるファイル (デジタル署名のあるシステム ファイルなど) の情報を収集して保持します。このようなファイルは安全であると見なされ、スキャン処理中はスキップされます。



設定 ダイアログには 2 つのオプションがあります。

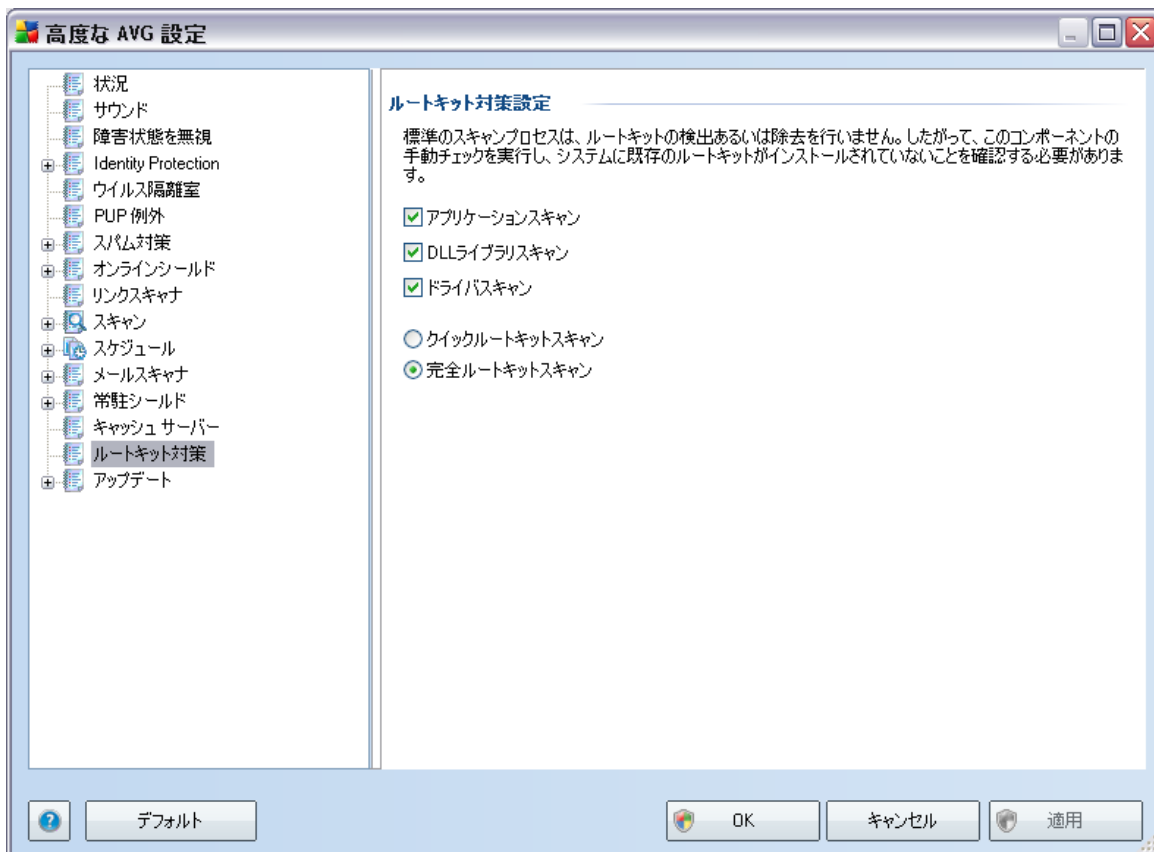
- **キャッシュを有効にする** (デフォルトではオン) - チェックを外すと **キャッシュサーバー**をオフに切り替え、キャッシュメモリを空にします。最初に使用中のすべてのファイルが 1 つずつウィ

ルスおよびスパイウェア スキャンされるため、スキャンの速度が低下し、コンピュータの全体的なパフォーマンスが低下する可能性があります。

- **新しいファイルのキャッシュへの追加を有効にする** (デフォルトではオン) - チェックを外すと、キャッシュメモリへのファイルの追加を停止します。キャッシュを完全にオフにするか、次のウイルス データベース アップデートまで、既にキャッシュに保存されたファイルのすべてが保持され使用されます。

10.13. ルートキット対策

このダイアログでは、**ルートキット対策** コンポーネントのコンフィギュレーションを編集できます。



このダイアログ内で提供されている**ルートキット**コンポーネントのすべての機能に対する編集は、**ルートキット対策** コンポーネントのインターフェースから直接行うこともできます。

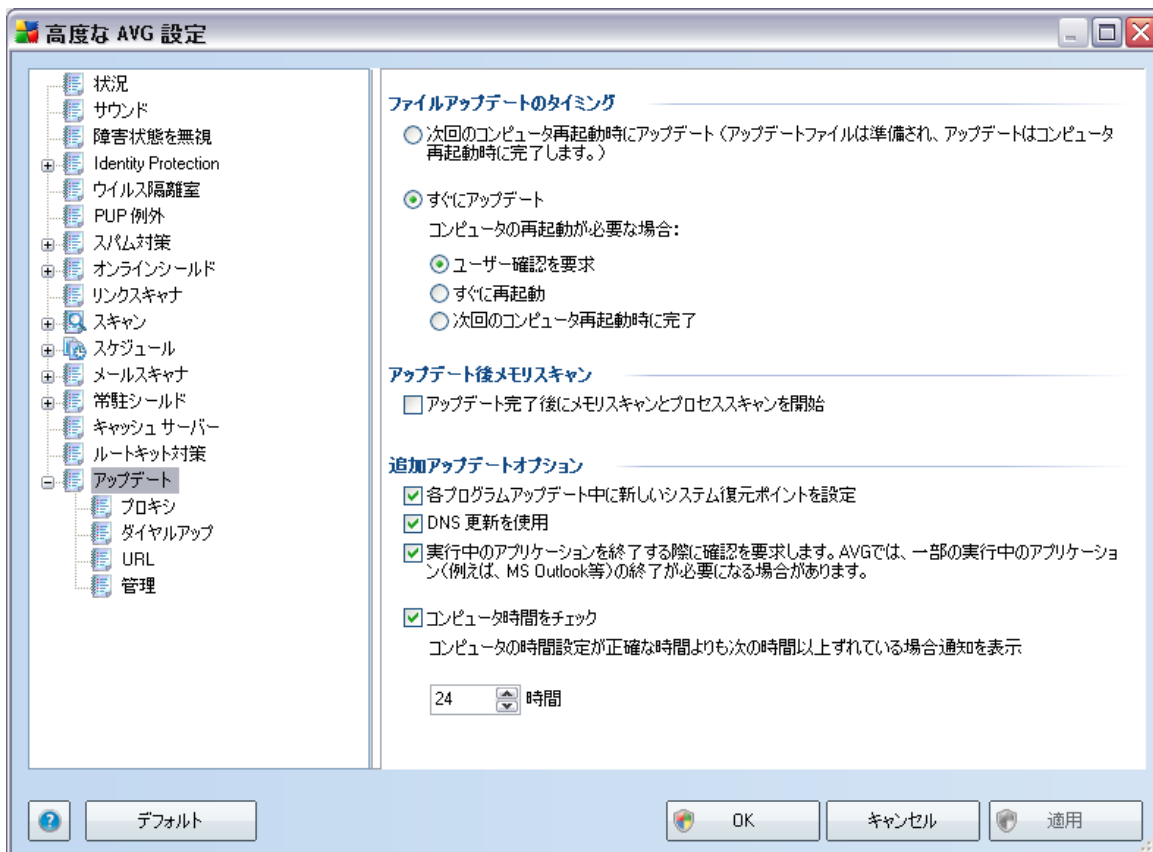
該当するチェックボックスにチェックを付け、スキャン対象 オブジェクトを指定します。

- アプリケーションスキャン
- DLLライブラリスキャン
- ドライバスキャン

さらに、ルートキットスキャンモードを選択できます。

- **クイックルートキットスキャン** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、およびシステムフォルダ (通常は、c:\Windows) をスキャンします。
- **完全ルートキットスキャン** - すべての実行中のプロセス、ロードされたドライバ、システムフォルダ (通常は、c:\Windows)、およびすべてのローカルディスク (フラッシュディスクは含まれますが、フロッピーディスクおよびCDドライブは含まれません) をスキャンします。

10.14. アップデート



アップデートナビゲーションは、新しいダイアログを開きます。このダイアログでは、[AVGアップデート](#)に関

する一般的なパラメータを指定します。

ファイルアップデートのタイミング

このセクションでは、2つのオプションのうち1つを選択できます。[アップデート](#)は、次回のPCの再起動時、またはすぐに[アップデート](#)されます。デフォルトでは、すぐにアップデートが選択されています。この設定で、AVGは最大限の安全を保証します。次回のコンピュータ再起動時にアップデート オプションは、コンピュータが定期的に、少なくとも毎日再起動されるということが確実な場合にのみ推奨されます。

デフォルトの設定を保持し、アップデートプロセスをすぐに実行する場合、コンピュータを再起動する条件を指定します。

- **ユーザーの確認を要求** - [アップデートプロセス完了に必要なPC再起動を確認する画面が表示されます。](#)
- **すぐに再起動** - コンピュータは[アップデートプロセス](#)が完了した時点で、自動的に即時再起動されます。
- **次回のコンピュータ再起動時に完了** [アップデートプロセス](#)の完了は次回のコンピュータ再起動時まで延期されます。 - また、このオプションは、コンピュータが定期的に、少なくとも毎日再起動されるということが確実な場合にのみ推奨されます。

アップデート後 メモリスキャン

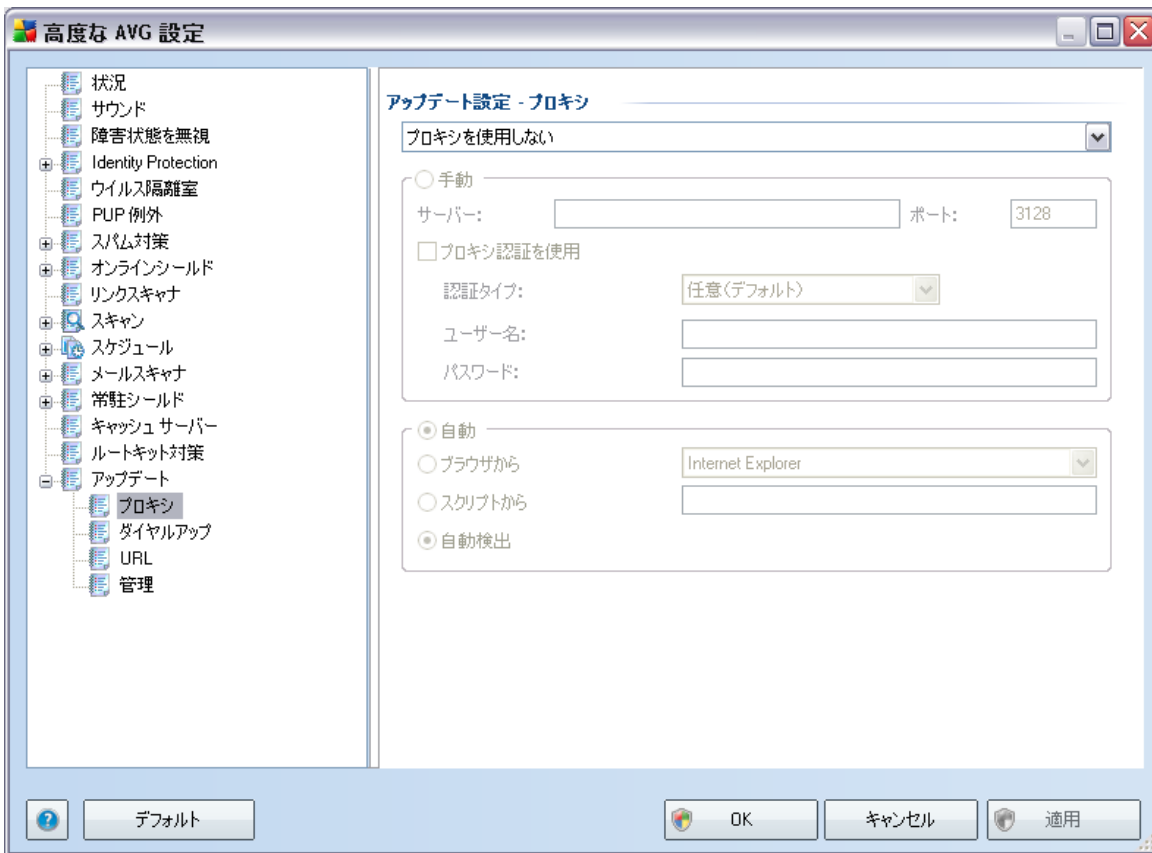
このチェックボックスをオンにすると、各アップデートが正常に完了した後に、新しいメモリスキャンを起動するように定義します。ダウンロードした最新のアップデートには新しいウイルス定義が含まれている場合がありますが、即時スキャンに適用されます。

追加アップデートオプション

- **各プログラムアップデート後に新しいシステム復旧ポイントを作成** - 各 AVG プログラムアップデートの起動前に、システム復旧ポイントが作成されます。アップデートプロセスが失敗し、オペレーティングシステムがクラッシュする場合には、必ずこのポイントから元のコンフィグレーションでOSを復旧できます。このオプションは、スタート/プログラム/アクセサリ/システムツール/システムの復元からアクセスできますが、上級ユーザーのみが変更を行うようにすることをお勧めします。この機能を使用する場合は、このチェックボックスにチェックを付けておきます。
- **DNS アップデートを使用** - このチェックボックスにチェックを付けると、アップデートサーバーとAVG クライアント間で転送されるデータ量を削減するアップデートファイル検出方法を使用します。

- **実行中のアプリケーションを終了する確認を要求** (デフォルトではオン) をチェックすることで、アップデートプロセスの完了に必要な場合、現在実行中のアプリケーションが許可なく終了しないように確認できます。
- **コンピュータ時間を確認** - このオプションにチェックを付けると、コンピュータ時間と正確な時間との差が指定された時間より先大きい場合に通知を表示するよう宣言します。

10.14.1. プロキシ



プロキシサーバーとは、より安全なインターネット接続を保証するスタンドアロンサーバー、またはPC上のサービスです。特定のネットワークルールによって、インターネットに直接またはプロキシサーバーを介して接続できます。次に、**アップデート設定 - プロキシ**ダイアログの最初のアイテムで、コンボボックスメニューから希望するものを選択する必要があります。

- **プロキシを使用**
- **プロキシサーバーを使用しない** - デフォルト設定

- **プロキシを使用して接続し、失敗した場合のみ直接接続します。**

プロキシを使用するオプションを選択した場合、さらにいくつかのデータを指定する必要があります。サーバー設定は手動あるいは自動で行われます。

手動設定

手動設定 (**手動** オプションをチェックすると、該当する入力欄が有効化されます)を選択する場合、以下の項目を指定してください。

- **サーバー** - サーバーのIPアドレスまたはサーバー名を指定します。
- **ポート** - インターネットアクセスを許可するポート番号を指定します (デフォルトでは、この番号は3128に設定されていますが、変更可能です-不明な場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください)

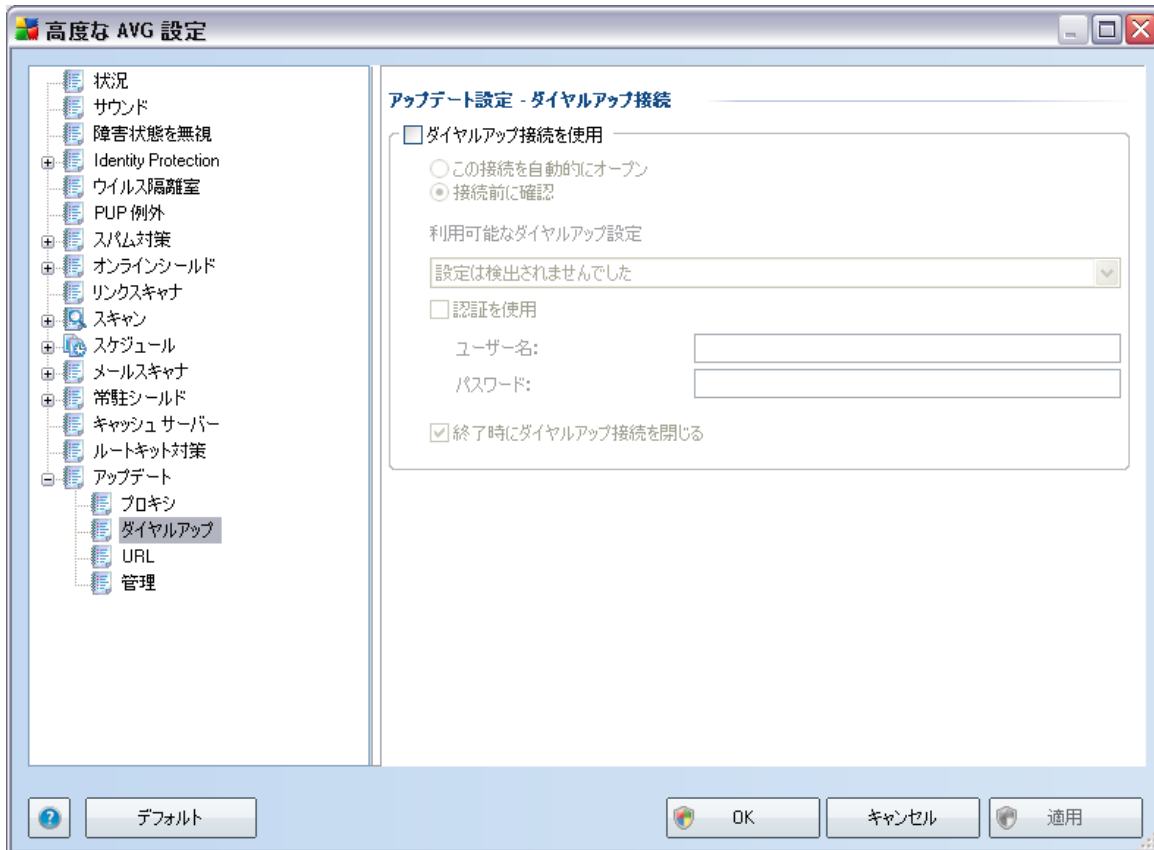
プロキシサーバーは、各ユーザーのルールを設定することもできます。プロキシサーバーがこのように設定されている場合、**プロキシ認証を使用**にチェックを付け、有効なユーザー名とパスワードを入力してください。

自動設定

自動設定を選択する場合 (**自動** を選択すると、該当する入力欄が有効化されます。)、プロキシ設定をどこから取得するかを選択します。

- **ブラウザから** - 既定のインターネットブラウザから設定を読み取ります。
- **スクリプトから** - 設定は、プロキシアドレスを返す機能とともに、ダウンロードされたスクリプトから読み込まれます。
- **自動検出** - 設定は、プロキシサーバーから直接検出されます。

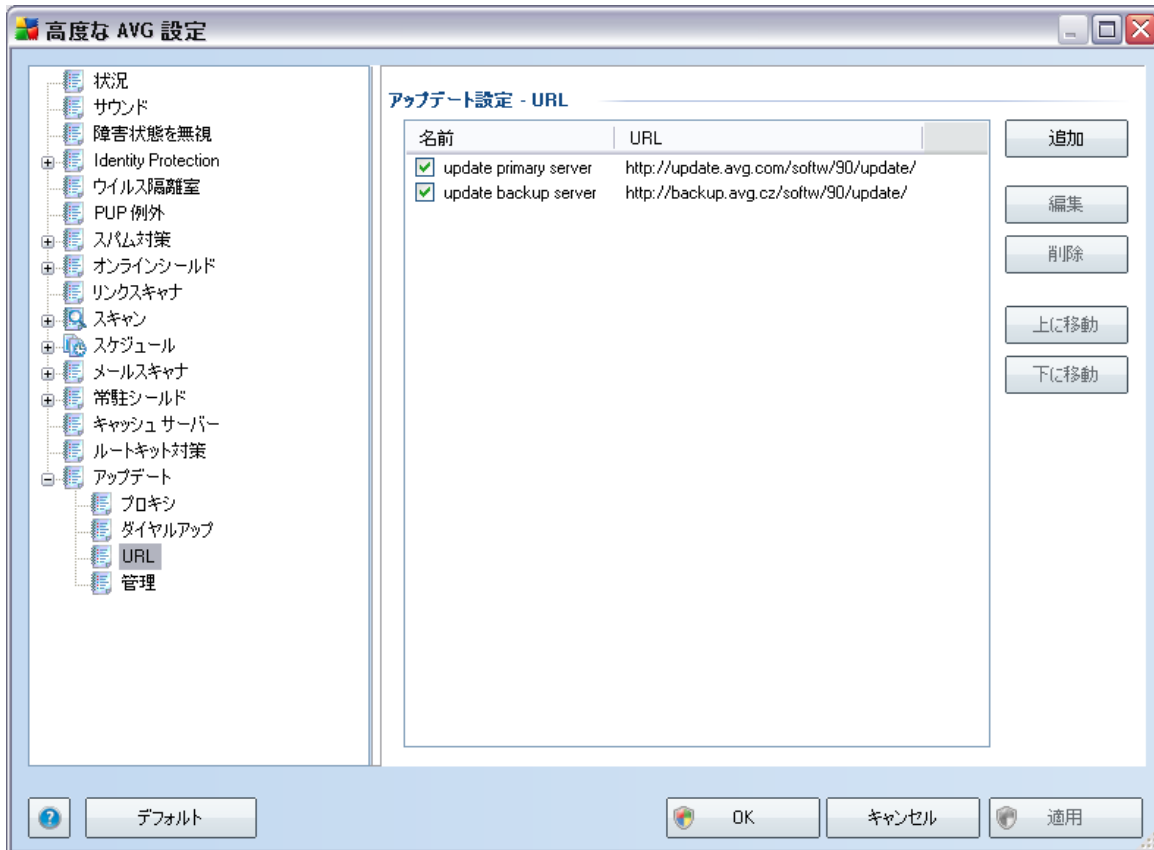
10.14.2. ダイヤルアップ



アップデート設定 - ダイヤルアップ接続ダイアログでは、インターネットへのダイヤルアップ接続のためのパラメータを設定します。各欄は**ダイヤルアップ接続を使用**オプションをチェックすると、変更可能となります。

インターネットに自動接続 (**自動的にこの接続をオープン**)するか、毎回手動で接続を確認 (**接続前に確認**)するかを指定します。自動接続については、さらに接続がアップデート終了後に切断されるかどうかを選択します (**終了後ダイヤルアップ接続を閉じる**)。

10.14.3. URL

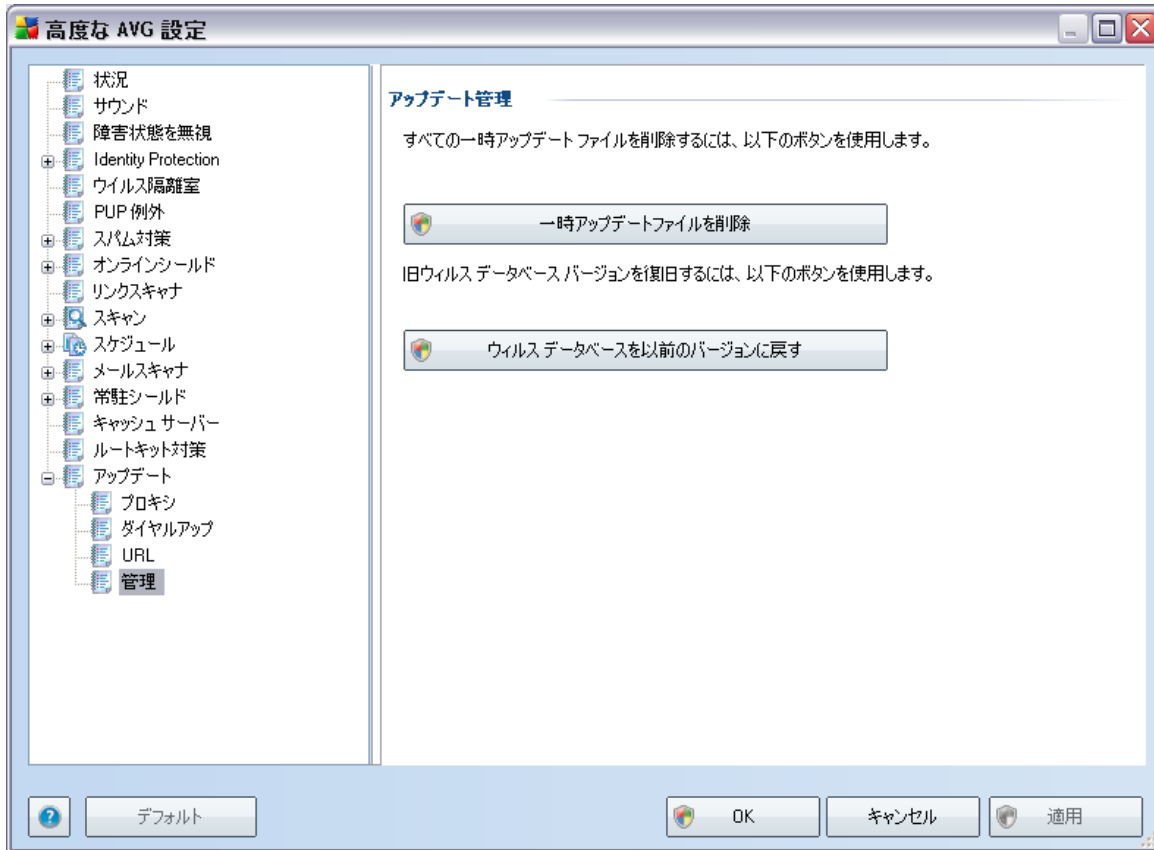


URLダイアログでは、アップデートファイルがダウンロードされるインターネットアドレスのリストが表示されます。このリストは、以下のコントロールボタンを使用して修正します。

- **追加**-ダイアログを開き、新しいURLを指定してリストに追加します
- **編集**-ダイアログを開き、選択されたURLパラメータを編集します。
- **削除**-選択されたURLをリストから削除します。
- **上に移動**-選択されたURLを1つ上の場所に移動します。
- **下に移動**-選択されたURLを1つ下の場所に移動します。

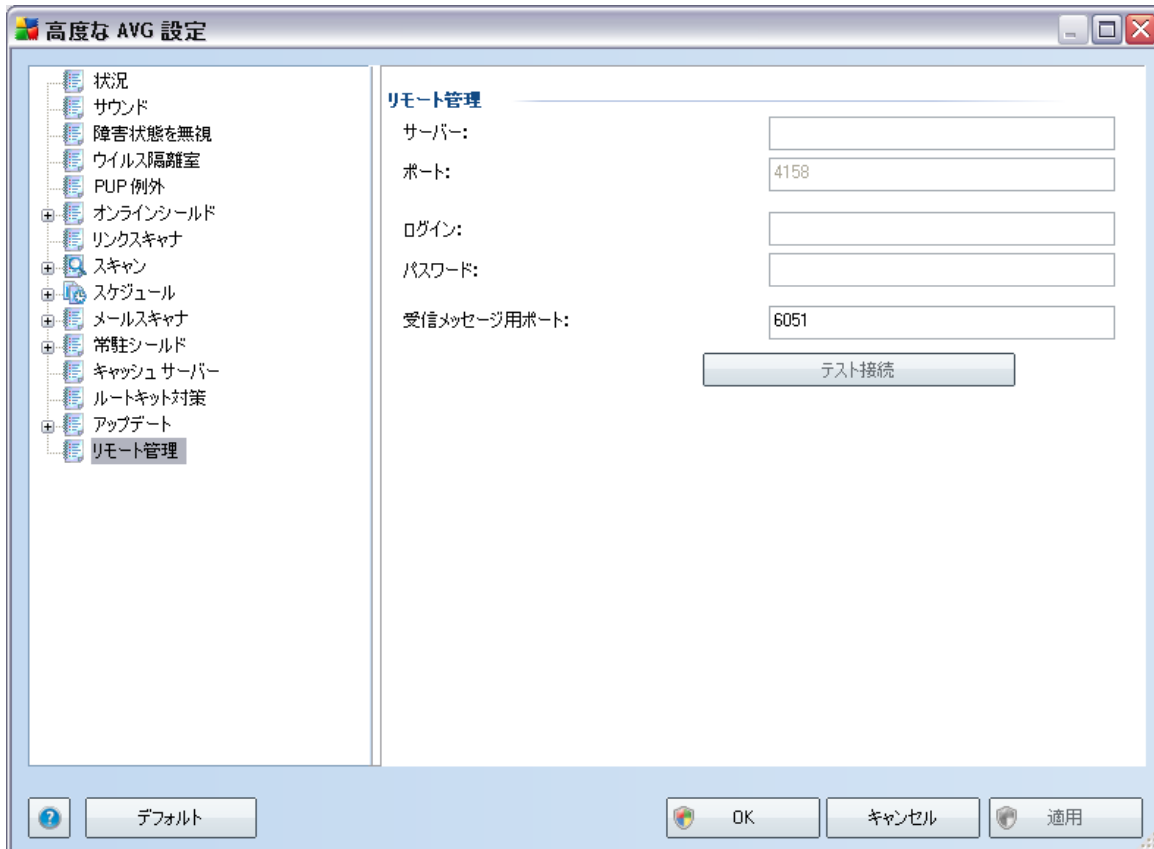
10.14.4. 管理

[管理] ダイアログには 2 つのオプションがあり 2 つのボタンを使用してアクセスできます。



- **一時アップデートファイルの削除** - このボタンをクリックすると、すべての重複するアップデートファイルをハードディスクから削除します (デフォルトでは、これらのファイルは 30 日間保存されます)
- **ウイルスデータベースを以前のバージョンに戻す** - このボタンをクリックすると、最新のウイルススペースのバージョンをハードディスクから削除し、以前に保存されたバージョンに戻します (新しいウイルススペースのバージョンは次回のアップデートに含まれます)

10.15. リモート管理



リモート管理設定は、AVGクライアントをリモート管理システムに接続させるためのものです。各セッションをリモート管理に接続させる場合、以下のパラメータを指定してください。

- **サーバー**- AVG Admin Server がインストールされているサーバー名 (あるいはサーバーIPアドレス)
- **ポート**- AVGクライアントがAVG Admin Server と通信するポート番号を提供します (ポート番号4158はデフォルトとされています- このポート番号を使用しない場合は、ポート番号を明示的に指定する必要があります)
- **ログイン**- AVGクライアントとAVG Admin Server 間の通信が安全だと定義される場合は、ユーザー名を提示します ...
- **パスワード**- パスワードも同様です。



- **受信メッセージ用ポート** - AVGクライアントが受信メッセージをAVG Admin Server から受け入れるポート番号

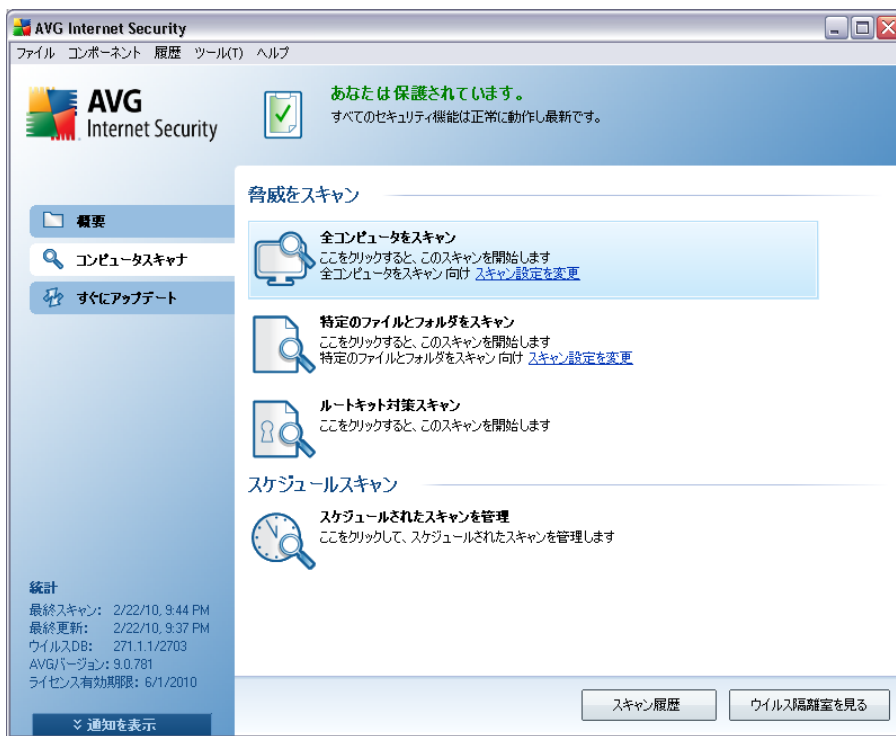
テスト接続 ボタンによって、上記のすべてのデータが有効で、DataCenterに正常に接続するために使用されていることを検証できます。

注意 :レポート管理の詳細な説明については、AVG Network Edition のドキュメントを参照してください。

11. AVGスキャン

スキャンは **AVG 9 Anti-Virus** 機能の最重要な要素です。オンデマンドでスキャンを実行したり 時間を指定して定期的に行われるようにスケジュールすることもできます。

11.1. スキャンインターフェース



AVG スキャンインターフェースには [コンピュータスキャンクイックリンク](#) からアクセスできます。このリンクをクリックすると、**脅威のスキャン**ダイアログに切り替わります。このダイアログには、以下の情報が表示されます。

- あらかじめ定義されたスキャンの**概要**- 3種類のスキャン(ソフトウェアベンダにより定義)がオンデマンドでの即時使用またはスケジュールでの使用に準備されています。
 - [全コンピュータをスキャン](#)
 - [特定のファイルとフォルダをスキャン](#)
 - [ルートキット対策スキャン](#)



- [スキャンスケジュール](#)セクション - ここでは必要に応じて、新しいスキャンを作成することができます。

コントロールボタン

スキャンインターフェースで利用できるコントロールボタンは以下の通りです。

- **スキャン履歴** - スキャンの履歴全体を含む[スキャン結果概要](#)ダイアログを表示します。
- **ウイルス隔離室を見る** - [ウイルス隔離室](#)を表示します。

11.2. 定義済みスキャン

AVG 9 Anti-Virus の主要な機能の 1 つは、オンデマンド スキャンです。オンデマンドのスキャンは、ウイルス感染の疑いがある場合、コンピュータの様々な箇所をいつでもスキャンできるように設計されています。たとえウイルスがコンピュータに存在しないと思われる場合でも、このようなスキャンを定期的に行うことを強く推奨します。

AVG 9 Anti-Virus には、ソフトウェア ベンダがあらかじめ定義した 2 種類のスキャンがあります。

11.2.1. 全コンピュータをスキャン

完全 コンピュータスキャン - 感染と不審なプログラムに対してコンピュータを完全にスキャンします。このスキャンはすべてのコンピュータのハードドライブをスキャンし、ウイルス感染を検出、修復の実行、または検出した感染を[ウイルス隔離室](#)に移動します。完全 コンピュータスキャンは、最低でも週に1度は実行されるようにスケジュールを設定してください。

スキャン実行

完全 コンピュータスキャンは、[スキャンのアイコンをクリックして](#)、スキャンインターフェースから直接実行することができます。このスキャンに対して、さらに特別な設定をする必要はありません。スキャンは [**スキャン実行中**] ダイアログ内で即時開始されます ([スクリーンショットを参照](#))。必要に応じて、スキャンを一時的に中断 (**一時中止**)、またはキャンセル (**停止**) することができます。

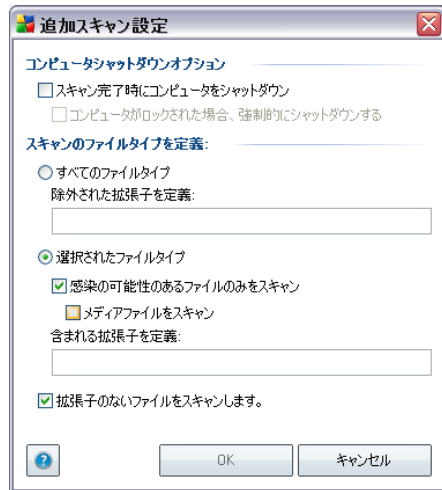


スキャン設定編集

完全 コンピュータスキャンの既定の設定を編集することもできます。スキャン設定を変更リンクを押して、完全 コンピュータスキャンのスキャン設定を変更ダイアログに進みます。特に理由がない場合は、このデフォルト設定を保持することを推奨します。



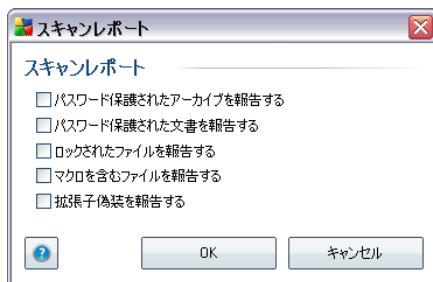
- **スキャンパラメータ** - スキャンパラメータのリストでは、必要に応じて、特定のパラメータのオン/オフを切り替えることができます。デフォルトでは、ほとんどのパラメータがオンとなり、スキャン中、自動的に使用されます。
- **追加スキャン設定** - このリンクからは、新しい [追加スキャン設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



- **コンピュータのシャットダウンオプション** - 実行中のスキャンプロセスが終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (**スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン**) 確定すると 現在 コンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (**コンピュータがロックされた場合、強制的にシャットダウンする**) が有効化されます。
- **スキャンのファイルタイプを定義** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。
 - **すべてのファイルタイプ**とスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。
 - **選択されたファイルタイプ** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーンテキストファイルやその他の非実行可能ファイルなど、感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディアファイル (ビデオ、オーディオファイル - これらのファイルは多くの場合、サイズが非常に大きく ウィルスに感染している可能性が非常に低いため、このボックスのチェックを外している場合、スキャン時間がさらに短縮されます) が含まれます。ここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。
 - オプションとして、**拡張子のないファイル**をスキャンできます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審なものであり 常にスキャンするべきです。
- **スキャンプロセス優先度** - スライダーを使用して、スキャンプロセス優先度を変更します。デフォルトでは、優先度は、スキャンプロセスの速度とシステムリソース消費を最適化する中レベル (自動スキャン) に設定されています。システムリソース負荷を最小限化するようにスキャンプ

ロセスの速度を遅くして実行 (コンピュータで作業をする必要があり スキャンにかかる時間を問わない場合に有効) したり システムリソース消費量の高い高速スキャン (例えば、コンピュータが一時的に使用されていない場合等に有効) を実行できます。

- **追加スキャンレポートを設定** - このリンクは、**スキャンレポート**ダイアログを開きます。このダイアログでは、レポートされる検出の種類を選択することができます。



警告: これらのスキャン設定は新規に定義されたスキャンパラメータと同一です。これは[AVG スキャン/スキャンスケジュール/スキャン方法](#)の章に記載されています。完全コンピュータスキャンのデフォルト設定を変更する場合、新しい設定をデフォルト設定として保存し、すべての完全コンピュータスキャンに使用することができます。

11.2.2. 特定のファイルとフォルダのスキャン

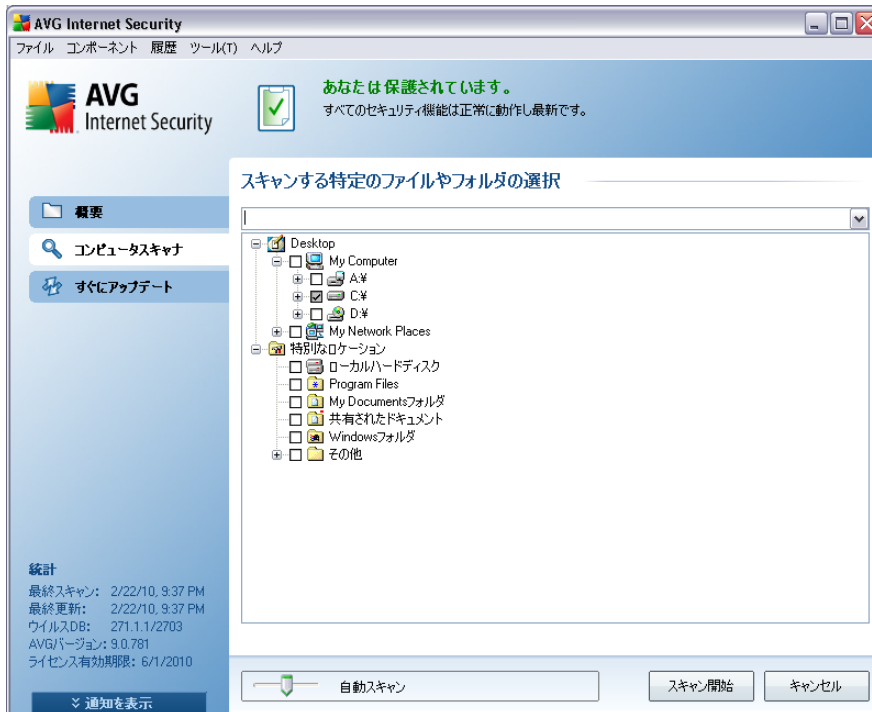
特定のファイルやフォルダをスキャン 選択場所のみをスキャンします (選択されたフォルダ、ハードディスク、フロッピーディスク、CD等)。ウイルス検出、処置等のスキャン進捗は、[完全コンピュータスキャンと同じです](#)。検出ウイルスは修復、またはウイルス隔離室に移動されます。特定のファイルやフォルダをスキャンは、ユーザー独自のスキャン設定とスケジュールのために使用されます。

スキャン実行

特定ファイルあるいはフォルダのスキャンは、[スキャンのアイコンをクリックして](#)、スキャンインターフェースから直接起動することができます。スキャンする**特定のファイル、またはフォルダを選択**という新しいダイアログが開きます。ツリー上でスキャンしたいフォルダを選択します。選択されたフォルダへのパスは自動的に生成され、このダイアログの上部のテキストボックスに表示されます。

また、このスキャンからすべてのサブフォルダを除外する場合、自動生成されたパスの前にマイナス記号「-」を記述します (スクリーンショットを参照)。スキャンからフォルダ全体を除外するには「!」パラメータを使用します。

スキャンを実行するには、**スキャン開始** ボタンを押します。スキャンプロセス自体は基本的に[完全コンピュータスキャン](#)と同一です。

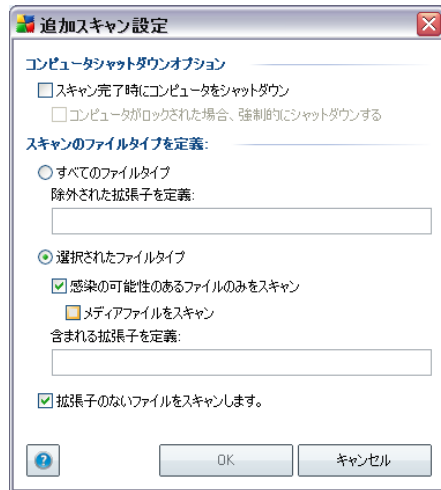


スキャン設定編集

特定のファイルやフォルダスキャンのあらかじめ定義された既定の設定を編集するオプションがあります。スキャン設定を変更リンクを押して、特定のファイルとフォルダをスキャンのスキャン設定を変更ダイアログに進みます。特に理由がない場合は、このデフォルト設定を保持することを推奨します。



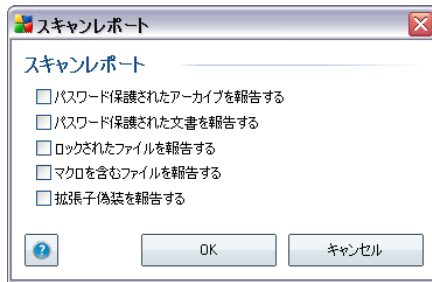
- **スキャンパラメータ** - スキャンパラメータのリストでは、必要に応じて、特定のパラメータのオン/オフを切り替えることができます (この設定の詳細説明については、[AVG高度な設定/スキャン/特定のファイルとフォルダをスキャン](#)の章を参照してください)。
- **追加スキャン設定** - このリンクからは、新しい [追加スキャン設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



- **コンピュータのシャットダウンオプション** - 実行中のスキャンプロセスが終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (**スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン**) 確定すると、現在コンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (**コンピュータがロックされた場合、強制的にシャットダウンする**) が有効化されます。
- **スキャンのファイルタイプを定義** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。
 - **すべてのファイルタイプ**とスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。
 - **選択されたファイルタイプ** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーンテキストファイルやその他の非実行可能ファイルなど、感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディアファイル (ビデオ、オーディオファイル - これらのファイルは多くの場合、サイズが非常に大きく、ウイルスに感染している可能性が非常に低いいため、このボックスのチェックを外している場合、スキャン時間がさらに短縮されます) が含まれます。ここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。
 - オプションとして、**拡張子のないファイル**をスキャンできます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審なものであり、常にスキャンする必要があります。
- **スキャンプロセス優先度** - スライダーを使用して、スキャンプロセス優先度を変更します。デフォルトでは、優先度は、スキャンプロセスの速度とシステムリソース消費を最適化する中レベル (自動スキャン) に設定されています。システムリソース負荷を最小限化するようにスキャンプ

プロセスの速度を遅くして実行 (コンピュータで作業をする必要があり スキャンにかかる時間を問わない場合に有効) したり システムリソース消費量の高い高速スキャン (例えば、コンピュータが一時的に使用されていない場合等に有効) を実行できます。

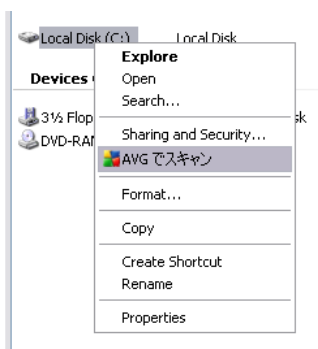
- **追加スキャンレポートを設定** - このリンクは、**スキャンレポート**ダイアログを開きます。このダイアログでは、レポートされる検出の種類を選択することができます。



警告: これらのスキャン設定は新規に定義されたスキャンパラメータと同一です。これは [AVG スキャン/スキャンスケジュール/スキャン方法](#) の章に記載されています。特定のファイルやフォルダスキャンのデフォルト設定を変更する場合、新しい設定をデフォルト設定として保存し、すべての特定のファイルやフォルダをスキャンに使用することができます。また、この設定はすべての新規スケジュールのテンプレートとして使用することができます ([すべてのカスタマイズされたスキャンは、現在のファイルやフォルダのスキャン設定に基づいています](#))。

11.3. シェル拡張スキャン

完全 コンピュータスキャンあるいは特定エリアのスキャンで起動される予め定義されたスキャンのほかにも、**AVG 9 Anti-Virus**は Windows Explorer 環境での特定オブジェクトの直接クイックスキャンオプションを提供しています。不明なファイルを開きたい場合、そのファイルのみをチェックすることができます。以下の方法で実行します。



- Windows Explorerで、チェックするファイル (あるいはフォルダ) を選択します。

- マウスをオブジェクトに移動し、右クリックして、コンテンツメニューを開きます。
- **AVGでスキャン**を選択します。

11.4. コマンドラインスキャン

AVG 9 Anti-Virus には、コマンドラインからスキャンを実行時のオプションがあります。サーバー上のインスタンスに対して、またはコンピュータのブート後に自動的に起動されるバッチスクリプトを作成する際に、このオプションを使用することができます。AVGのグラフィカルユーザーインターフェースで提供されるほとんどのパラメータを使用して、コマンドラインからスキャンを起動することができます。

コマンドラインからAVGスキャンを起動するには、AVGがインストールされているフォルダで以下のコマンドラインを実行します。

- **32ビットOSの場合**、avgscanx
- **64ビットOSの場合**、avgscana

コマンドのシンタックス

コマンドの構文は以下の通りです。

- **avgscanx / パラメータ...** 例えば、完全コンピュータスキャンの場合、**avgscanx /comp**
- **avgscanx / パラメータ/ パラメータ..** 複数のパラメータを使用する場合、これらのパラメータを1行に並べ、スペースとスラッシュで区切る必要があります。
- パラメータが特定の値を必要とする場合 (例 **:/scan**パラメータには、選択された場所の正確なパスを指定する必要があります)は、値はセミコロンで区切る必要があります。例：
avgscanx /scan=C:\,D:

スキャンパラメータ

利用可能なパラメータの完全な概要を表示するには、該当するコマンドをパラメータ?を付加して入力します。あるいは、/HELPと入力します。(例 **:avgscanx /?**)。唯一の必須のパラメータは、スキャンされるコンピュータのエリアを指定する/SCANです。オプションのより詳細は説明については、[コマンドラインパラメータ概要](#)を参照してください。

スキャンを実行するには、**[Enter]** を押します。スキャン中は、**Ctrl+C**、または**Ctrl+Pause**を押して、プロセスを停止できます。

グラフィックインターフェースから起動されるCMDスキャン

Windowsセーフモードでコンピュータを実行している場合、グラフィックユーザーインターフェースからコマンドラインスキャンを起動する可能性もあります。スキャン自体はコマンドラインから起動され、**コマンドラインコンポーサ**ダイアログでは、便利なグラフィックインターフェースでは大部分のスキャンパラメータを指定できます。

このダイアログはWindowsセーフモードでのみ利用可能です。このダイアログの詳細説明については、ダイアログから直接開かれるヘルプファイルを参照してください。

11.4.1. CMDスキャンパラメータ

以下は、コマンドラインスキャンで利用可能なすべてのパラメータです。

- **/SCAN** [特定のファイルまたはフォルダのスキャン](#) /SCAN=パス;パス (例 :/
SCAN=C:\;D:\)
- **/COMP** [完全 コンピュータスキャン](#)
- **/HEUR** ヒューリスティック分析の使用 [***](#)
- **/EXCLUDE** スキャンからパス、またはファイルを除外
- **/@** コマンドファイル /file name/
- **/EXT** これらの拡張子をスキャンする /例えば、EXT=EXE,DLL/
- **/NOEXT** これらの拡張子をスキャンしない /例えば、NOEXT=JPG/
- **/ARC** アーカイブをスキャン
- **/CLEAN** 自動的駆除
- **/TRASH** 感染ファイルをウイルス隔離室に移動 [***](#)
- **/QT** クイックスキャン
- **/MACROW** マクロを報告する
- **/PWDW** パスワード保護されたファイルを報告する
- **/IGNLOCKED** ロックされたファイルを無視
- **/REPORT** ファイルにレポート/file name/

- **/REPAPPEND** レポートファイルに追加
- **/REPOK** 未感染ファイルを「OK」として報告する
- **/NOBREAK** CTRL- BREAKで中断しない
- **/BOOT** MBR/ BOOT チェックを有効化
- **/PROC** アクティブプロセスをスキャンする
- **/PUP** [不審なプログラム](#) を報告する
- **/REG** レジストリをスキャンする
- **/COO** cookieをスキャンする
- **/?** このトピックに関するヘルプを表示
- **/HELP** このトピックに関するヘルプを表示
- **/PRIORITY** スキャン優先度 (低、自動、高) を設定 ([高度な設定 / Scans](#) を参照)
- **/SHUTDOWN** スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン
- **/FORCESHUTDOWN** スキャン完了時にコンピュータを強制シャットダウン
- **/ADS** Alternate Data Streams をスキャン(NTFSのみ)

11.5. スキャンスケジュール

AVG 9 Anti-Virus では、オンデマンドで (例えば、ウイルスに感染した場合)、あるいはスケジュールに基づいてスキャンを実行できます。スケジュールに基づいてスキャンを実行することを強く推奨します。この方法で、コンピュータが感染の可能性から保護されていることを保証でき、スキャンがいつ起動しているかを考える必要がありません。

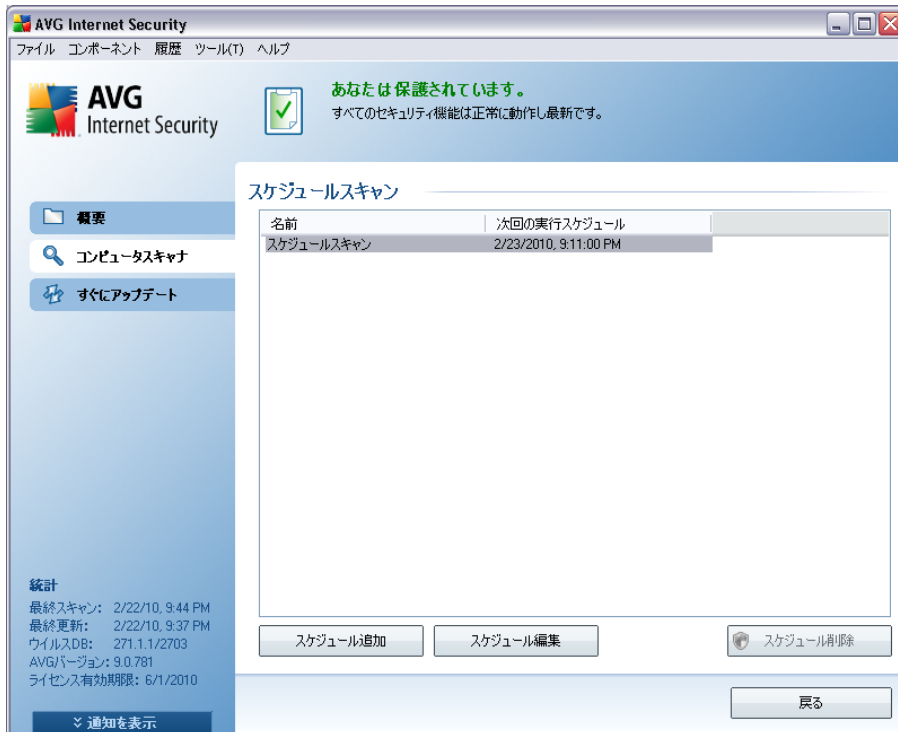
[全コンピュータをスキャン](#)を少なくとも週に1度定期的に行うように設定してください。ただし、可能な場合は、コンピュータのスキャンを毎日行ってください。デフォルトのスキャンスケジュールはこのように設定されています。コンピュータが常にオンとなっている場合、作業時間外にスキャンを実行するよう設定することができます。コンピュータがオフになり、スケジュールが実行されなかった場合、スケジュールは[コンピュータの起動時にスキャンを実行するよう設定してください](#)

新しいスキャンスケジュールを作成するには、[AVGスキャンインターフェース](#)を参照し、下部の[スケジュールスキャンセクション](#)を確認してください。



スケジュールスキャン

[**スキャンのスケジュール**] セクションのグラフィカルなアイコンをクリックすると、新しい [**スキャンのスケジュール**] ダイアログが開き、現在スケジュールされているすべてのスキャンのリストが表示されます。



次のコントロールボタンを使用して、スキャンの編集および追加ができます。

- **スケジュール追加**- ボタンは**スケジュール済スキャン設定**ダイアログ、[スケジュール設定](#)タブを開きます。このダイアログでは、スキャンパラメータを指定することができます。
- **スケジュール編集**- このボタンは既存スケジュールを選択した場合にのみ使用されます。このボタンをクリックすると**スケジュール済スキャン設定**ダイアログ、[スケジュール設定](#)タブが表示されます。選択されたスキャンのパラメータを編集することができます。
- **スケジュール削除**- このボタンも既存スケジュールを選択した場合にのみ有効となります。選択したスキャンがリストから削除されます。ただし、自分で作成したスケジュールのみを削除できます。デフォルトで定義されている**スキャンスケジュール**は削除できません。
- **戻る** - [AVG スキャンインターフェースに戻ります](#)

11.5.1. スケジュール設定

新しいスキャンと通常の起動をスケジュールする場合、[[スケジュール済みの検査の設定](#)] ダイアログ ([[スキャンのスケジュール](#)] [ダイアログ](#)で [[スキャンスケジュールの追加](#)] ボタンをクリック)を入力します。このダイアログは 3 つのタブに分けられます。[スケジュール設定](#)- 以下の図を参照 (自動的にリダイレクトされるデフォルトタブ)、[スキャン方法](#)、スキャン対象 *******



[スケジュール設定] タブでは、[このタスクの有効化] アイテムのチェックをON/OFFすることによって、必要に応じて、スケジュール済みスキャンを一時的に有効化/無効化することができます。

次に、作成してスケジュールするスキャンの名前を付けます。**名前**アイテムの近くのテキストフィールドに名前を入力します。スキャンには、簡潔で、説明的で、適切な名前を使用して、のちに他のスキャンと区別できるようにしてください。

例：「新規スキャン」あるいは「マイスキャン」という名前は適切ではありません。これらの名前は、実際にスキャンがチェックする対象を指さないからです。「システムエリアスキャン」というような名前が推奨されます。また、スキャンが完全コンピュータスキャンか単に選択されたファイルやフォルダのスキャンであるかを区別する名前を指定することも重要です - 自分のスキャンは常に選択されたファイルやフォルダのスキャンの特定バージョンにあります。

このダイアログでは、さらに以下のスキャンパラメータを定義します。

- **スケジュール実行** - スキャン起動時間を指定します。タイミングは、**定期実行**、**指定した時間に実行**、**アクションにより実行**のいずれかによって定義することができます。
- **高度なスケジュールオプション** - このセクションでは、コンピュータが低電源モードあるいは完全に電源オフになっている場合に、スキャンが実行される条件を定義します。

スケジュール済 スキャンダイアログのコントロールボタン

スケジュール済のスキャンの設定 **ダイアログのすべてのタブ** (スケジュール設定、スキャン方法、スキャン対象)には**2つのコントロールボタン**があり、これらは同一の機能を持っています。

- **保存**- このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、[AVG スキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。したがって、すべてのタブでスキャンパラメータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンを押してください。
- **キャンセル** このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセルし、[AVGスキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。

11.5.2. スキャン方法



スキャン方法 タブには、任意でオン/ オフできるスキャンパラメータのリストが表示されます。デフォルトでは、ほとんどのパラメータがオンになっており、その機能はスキャン実行中に適用されます。この設定を変更する合理的な理由がない場合は、予め定義された設定を維持することを推奨します。

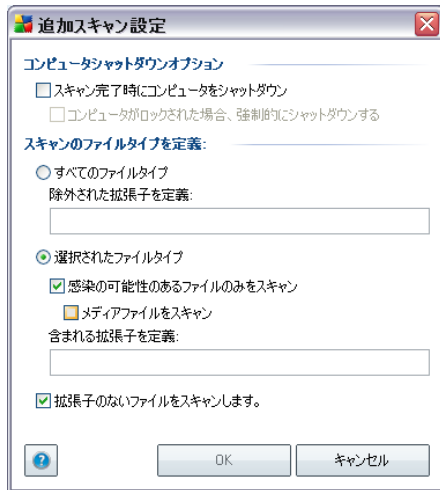
- **自動感染修復/ 除去**- (デフォルトではオン)ウイルスがスキャン実行中に特定され、修復可能な場合は、自動で修復されます。感染ファイルを自動的に修復できない場合やこのオフ

ションをオフにする場合、ウイルス検出が通知されるので、検出された感染の処理方法を決定する必要があります。推奨アクションは、感染ファイルの [ウイルス隔離室](#) への移動です。

- **不審なプログラムとスパイウェアをレポート** - (デフォルトではオン): チェックを付けると [スパイウェア対策エンジン](#)を有効化し、**ウイルスと同時にスパイウェアもスキャンします**。[スパイウェア](#)は、疑わしいマルウェアのカテゴリに含まれます。通常は、セキュリティリスクとなる場合でも、このようなプログラムを故意にインストールすることができます。コンピュータのセキュリティを高めるため、この機能を有効にしておくことをお勧めします。
- **不審なプログラムの拡張セットをレポート** - 前のオプションが有効になっている場合、このボックスにチェックを付けると [スパイウェア](#)の拡張パッケージも検出できます。拡張パッケージとは、直接製造元から入手する場合には、完全に問題がなく、無害なプログラムですが、後から悪意のある目的で誤用されるおそれのあるプログラムです。これは、コンピュータセキュリティをさらに高めるための追加的な手段ですが、合法的なプログラムもブロックする可能性があるため、デフォルトではオフになっています。
- **Tracking Cookie をスキャン** - (デフォルトではオン)スパイウェア対策 [コンポーネントのこのパラメータは、スキャン実行中にCookieが検出されるように定義します](#)。(HTTP cookie は、サイトのプリファレンスや電子ショッピングカードの内容等のユーザーの特定の情報の認証、トラッキング、メンテナンスに使用されます)
- **アーカイブ内をスキャン** - (デフォルトではオン)このパラメータは、ZIPやRAR等のアーカイブ形式で圧縮されている場合でも、すべてのファイルがスキャンによりチェックされるように定義します。
- **ヒューリスティック分析を使用** - (デフォルトではオン)ヒューリスティック分析 (仮想コンピュータ環境でのスキャンオブジェクトの動的エミュレーション)は、スキャン実行中にウイルス検出に使用される方法の1つです。
- **システム環境をスキャン** - (デフォルトではオン)コンピュータのシステムエリアもチェックされます。

次の方法でスキャン設定を変更できます。

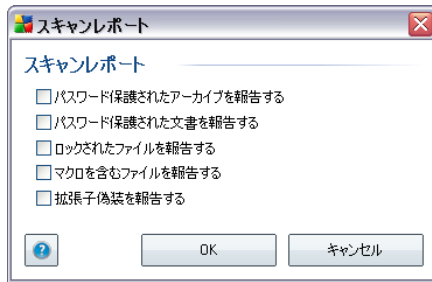
- **追加スキャン設定** - このリンクからは、新しい [追加スキャン設定] ダイアログを開きます。このダイアログでは、次のパラメータを指定できます。



- **コンピュータのシャットダウンオプション** - 実行中のスキャンプロセスが終了した時点で自動的にコンピュータをシャットダウンするかどうかを決定します。このオプション (**スキャン完了時にコンピュータをシャットダウン**) 確定すると 現在 コンピュータがロックされている場合でも、コンピュータをシャットダウンさせる新しいオプション (**コンピュータがロックされた場合、強制的にシャットダウンする**) が有効化されます。
- **スキャンのファイルタイプを定義** - さらに、スキャンするかどうかを決定する必要があります。
 - **すべてのファイルタイプ**とスキャン対象ではないファイル拡張子をカンマで区切ったリストを入力することで、スキャンからの除外を定義できます。
 - **選択されたファイルタイプ** - 感染の可能性のあるファイルのみを指定できます (一部のプレーンテキストファイルやその他の非実行可能ファイルなど、感染の可能性がないファイルはスキャンされません)。これには、メディアファイル (ビデオ、オーディオファイル - これらのファイルは多くの場合、サイズが非常に大きく ウィルスに感染している可能性が非常に低い ため、このボックスのチェックを外している場合、スキャン時間がさらに短縮されます) が含まれます。ここでも、必ずスキャンする必要があるファイルの拡張子を指定できます。
 - オプションとして、**拡張子のないファイルをスキャン**できます。このオプションは既定ではオンになっています。変更する理由がない場合は、この設定を保持することをお勧めします。拡張子のないファイルは不審なものであり 常にスキャンするべきです。
- **スキャンプロセス優先度** - スライダーを使用して、スキャンプロセス優先度を変更します。デフォルトでは、優先度は、スキャンプロセスの速度とシステムリソース消費を最適化する中レベル (自動スキャン) に設定されています。システムリソース負荷を最小限化するようにスキャンプ

プロセスの速度を遅くして実行 (コンピュータで作業をする必要があり スキャンにかかる時間を問わない場合に有効) したり システムリソース消費量の高い高速スキャン (例えば、コンピュータが一時的に使用されていない場合等に有効) を実行できます。

- **追加スキャンレポートを設定** - このリンクは、スキャンレポートダイアログを開きます。このダイアログでは、レポートされる検出の種類を選択することができます。



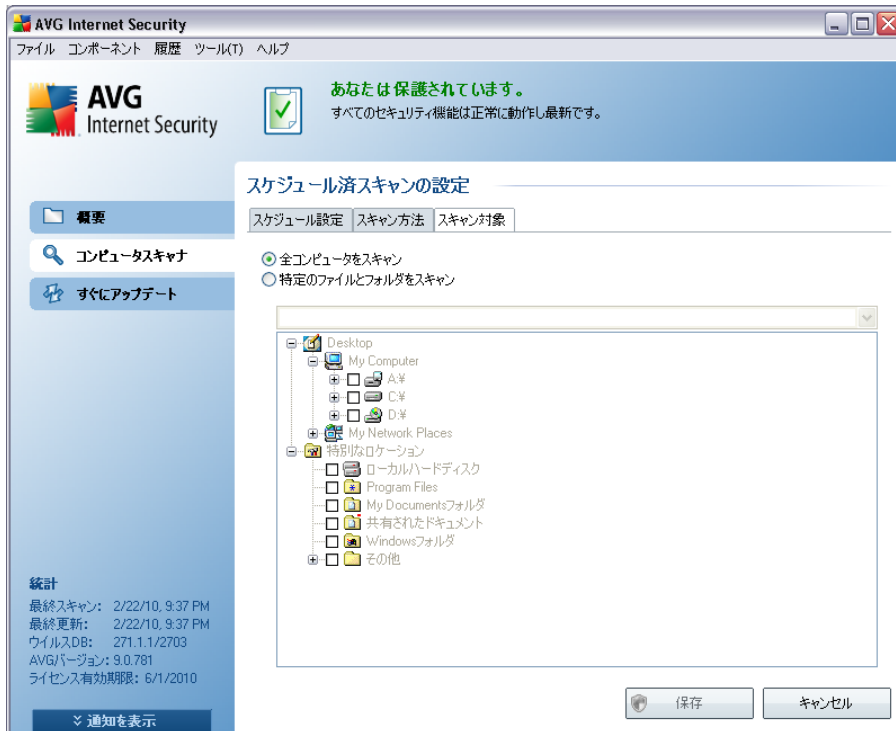
注意 :デフォルトでは、スキャンには最適なパフォーマンスで実行されるように設定されています。このスキャンの設定を変更する合理的な理由がない場合は、あらかじめ定義された設定を維持することを強く推奨します。設定変更は経験のあるユーザーが行ってください。これ以外のスキャンの設定オプションについては、[ファイル/高度な設定](#) システムメニューアイテムからアクセスできる高度な設定ダイアログを参照してください。

コントロールボタン

スケジュール済みのスキャンの設定 **ダイアログのすべてのタブ** (スケジュール設定、スキャン方法、スキャン対象) **には 2 つのコントロールボタンがあり**、これらは同一の機能を持っています。

- **保存** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、[AVG スキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。したがって、すべてのタブでスキャンパラメータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンを押してください。
- **キャンセル** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセルし、[AVG スキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。

11.5.3. スキャン対象



[スキャン対象] タブでは、全コンピュータをスキャン、あるいは特定のファイルやフォルダをスキャンのいずれかを選択します。

特定のファイルまたはフォルダのスキャンを選択する場合は、このダイアログの下部に表示されるツリー構造がアクティブになり、スキャンするフォルダを選択できます（スキャンするフォルダが見つかるまでプラスノードをクリックして項目を展開します）。各ボックスにチェックを付けることで複数のフォルダを選択できます。選択されたフォルダは、ダイアログ上部のテキストフィールドに表示され、ドロップダウンメニューに選択されたスキャン履歴が保持されます。希望するフォルダへのフルパスを手動で入力することもできます（複数パスを入力する場合は、スペースを入れずセミコロンで区切る必要があります）。

ツリー構造内には、[特別な場所] という部分もあります。各チェックボックスにマークを付けると次のようにスキャンする場所のリストが表示されます。

- **ローカルハードドライブ** - コンピュータのすべてのハードドライブ
- **プログラムファイル** - C:\Program Files\
- **マイドキュメントフォルダ** - C:\Documents and Settings\User\My Documents\

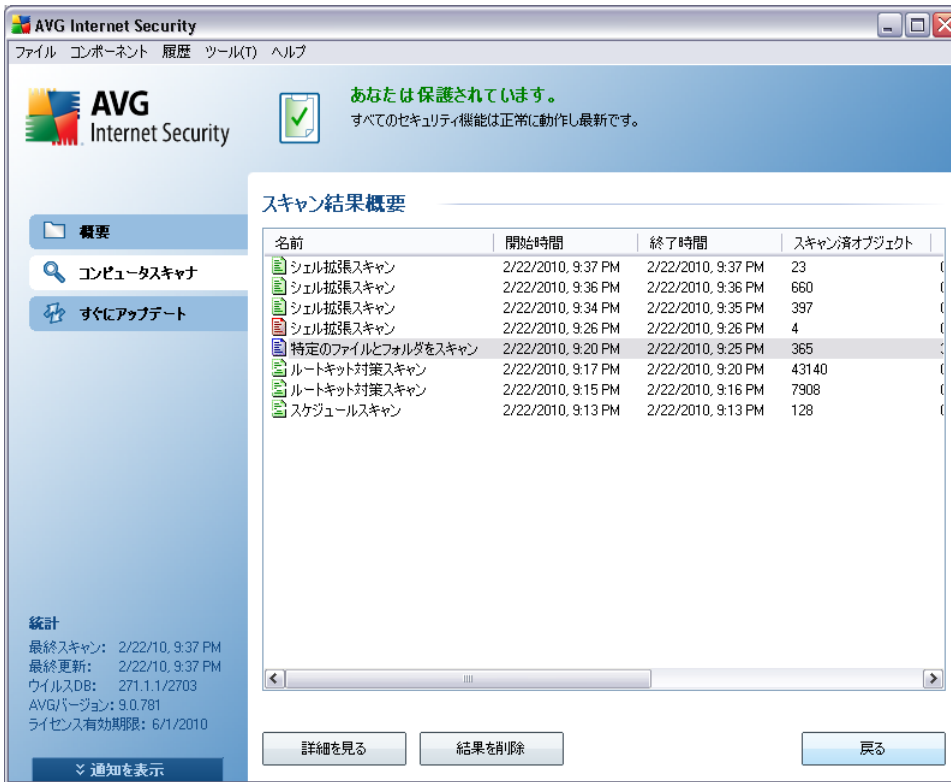
- **共有ドキュメント** - C:\Documents and Settings\All Users\Documents\
 - システム ドライブ - オペレーティング システムがインストールされているハードドライブ (通常は C:)
 - システム フォルダ - Windows/System32
 - 一時 ファイル フォルダ - Documents and Settings/User/Local Settings/Temp
 - 一時 インターネット ファイル - Documents and Settings/User/Local Settings/Temporary Internet Files

スケジュール済 スキャンダイアログのコントロールボタン

スケジュール済のスキンの設定 **ダイアログのすべてのタブ** (スケジュール設定、スキャン方法、スキャン対象) には2つのコントロールボタンがあり、これらは同一の機能を持っています。


- **保存** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更を保存し、[AVGスキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。したがって、すべてのタブでスキャンパラメータを設定する場合、すべての必要項目を指定した後でこのボタンを押してください。
- **キャンセル** - このタブまたはこのダイアログのその他のタブで行ったすべての変更をキャンセルし、[AVGスキャンインターフェースデフォルトダイアログ](#)に戻ります。


11.6. スキャン結果概要




スキャン結果概要ダイアログは、[AVGスキャンインターフェース](#)から[スキャン履歴](#)ボタンを押すとアクセスすることができます。ダイアログには、以前実行されたすべてのスキャンと結果情報のリストが表示されます。

- **名前** - スキャン指定。予め定義されたスキャンの名前あるいは、[自分のスケジュール済のスキャン](#)に付けられた名前です。各名前には、スキャン結果を示すアイコンが表示されます。

 緑のアイコンはスキャン中に感染が検出されなかったことを示します。

 青のアイコンは、スキャン中に感染があり、感染したオブジェクトは自動的に除去されたことを知らせています。

 赤のアイコンは、スキャン中に感染が検出され、それを除去できなかったことを警告しています。

各アイコンは完全な形、または半分のアイコンで表示されます。完全な形のアイコンは正常終了したスキャンを示しています。半分になったアイコンはスキャンがキャンセル

されたか中断されたことを示しています。

注意 :各スキャンの詳細情報については、**詳細**を見るボタン(ダイアログ下部)からアクセス可能な[スキャン結果](#)ダイアログを参照してください。

- **開始時間**- スキャンが実行された日時
- **終了時間**- スキャンが終了した日時
- **スキャン済オブジェクト** スキャンでチェックされたオブジェクトの数
- **感染**- [検出/除去](#)されたウイルス感染の数
- **スパイウェア**- [検出/除去](#)されたスパイウェアの数
- **警告** - 検出された[不審なオブジェクト](#)
- **ルートキット**- 検出された[ルートキット](#)
 - **スキャンログ情報**- スキャン過程と結果に関する情報 (一般的には完了か中断かの情報)

コントロールボタン

スキャン結果概要ダイアログには、以下のコントロールボタンがあります。

- □□□□ - クリックすると [[スキャン結果](#)] ダイアログに切り替わり、選択したスキャンの詳細データを表示します。
- **結果を削除** - クリックすると、スキャン結果概要から選択したアイテムを削除します。
- **戻る** - AVGスキャンインターフェースの[デフォルトダイアログ](#)に切り替わります。

11.7. スキャン結果詳細

[スキャン結果概要](#)ダイアログで、特定のスキャンが選択された場合、**詳細を表示**ボタンをクリックすると、[スキャン結果](#)ダイアログが表示されます。このダイアログでは、選択されたスキャン結果に関する詳細なデータが表示されます。

このダイアログはさらにいくつかのタブに分けられます。

- **結果概要** - このタブは常に表示され、スキャン進捗を示す統計データが表示されます。
- **感染** - このタブは、スキャン実行中に[ウイルス感染](#)が検出された場合にのみ表示されます。

- **スパイウェア** - このタブは、スキャン実行中に**スパイウェア**が検出された場合にのみ表示されます。
- **警告** - Cookie がスキャン中に検出されると、このタブがインスタンスごとに表示されます。
- **情報** - このタブは潜在的な脅威が検出され、これらが上記のいずれのカテゴリにも分類できない場合にのみ表示されます。このタブでは警告メッセージが表示されます。また、スキャンできなかったオブジェクトに関する情報も表示されます (パスワード保護されたアーカイブなど)。

11.7.1. 結果概要タブ



スキャン結果タブには、以下の情報に関する詳細な統計が表示されます。

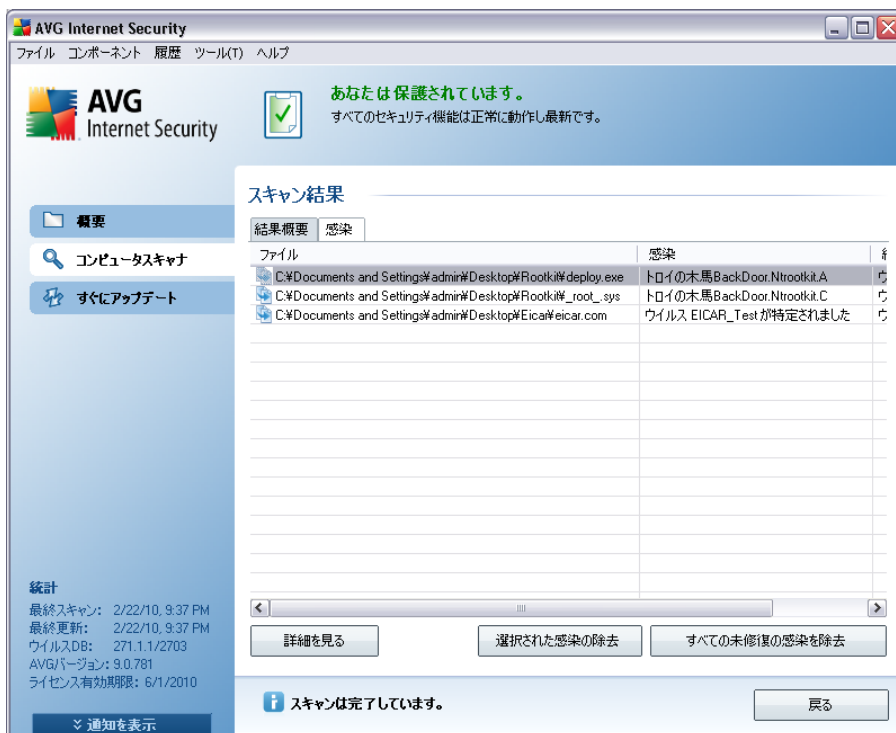
- 検出された**ウイルス感染 / スパイウェア**
- 除去された**ウイルス感染 / スパイウェア**
- 除去あまたは修復不可能な**ウイルス感染 / スパイウェア**数

また、スキャン開始の正確な日時、スキャンされたオブジェクトの合計数、スキャン期間、スキャン実行中に発生したエラー数に関する情報も表示されます。

コントロールボタン

このダイアログで利用できるコントロールボタンは1つです。**結果を閉じる**ボタンを押すと、[スキャン結果概要](#)ダイアログに戻ります。

11.7.2. 感染タブ



感染タブは、スキャン中にウイルス感染が検出された場合、[スキャン結果](#)ダイアログでのみ表示されます。*******このタブは3つのセクションに分かれ、以下の情報が表示されます。

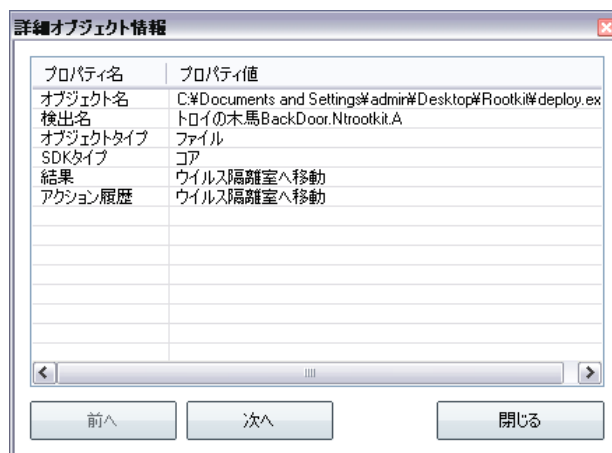
- **ファイル** - 感染オブジェクトの元の場所へのフルパス
- **感染** - 検出された**ウイルス**名 (ウイルスの詳細は、オンラインの[ウイルスエンサイクロペディア](#)を参照してください)
- **結果** - スキャン中に検出された感染オブジェクトの現在のステータス
 - **感染** - 感染オブジェクトが検出され、元の場所に存在します。(例えば、[自動修復オプション](#)を特定のスキャン設定でオフにしている場合)

- **修復** - 感染オブジェクトは自動修復され、元の場所に存在します。
- **ウイルス隔離室に移動** - 感染オブジェクトは **ウイルス隔離室** に移動されました。
- **削除** - 感染オブジェクトは削除されました。
- **PUP例外を追加** - 検出は例外として評価され、PUP例外リスト (高度な設定の **PUP例外** ダイアログで設定) に追加されました。
- **ロックされたファイル - 未スキャン** - 対象オブジェクトはロックされているため、AVGはスキャンできません。
- **潜在的に危険なオブジェクト** - オブジェクトは潜在的に危険なものとして検出されましたが、感染していません(例えば、マクロを含む等)。
- **アクションを終了するために再起動を要求** - 感染オブジェクトを除去できません。完全に除去するには、コンピュータの再起動が必要です。

コントロールボタン

このダイアログには3つのコントロールボタンがあります。

- **詳細を見る** - このボタンは **詳細スキャン結果情報** という新しいダイアログを開きます。



このダイアログでは、感染オブジェクトの場所に関する情報が表示されます (**プロパティ名**)。 **前へ**/**次へ**ボタンを使用して、特定の検出情報を見ることができます。 **閉じる**ボタンを使用して、このダイアログを閉じることができます。

- **選択された感染を除去** - このボタンを使用して、選択された検出を[ウイルス隔離室に移動](#)します。
- **すべての未修復の感染を削除** - このボタンはすべての修復不可能な検出や[ウイルス隔離室に移動された検出を削除](#)します。
- **結果を閉じる** - 詳細情報概要を終了し、[スキャン結果概要](#)ダイアログに戻ります。

11.7.3. スパイウェアタブ

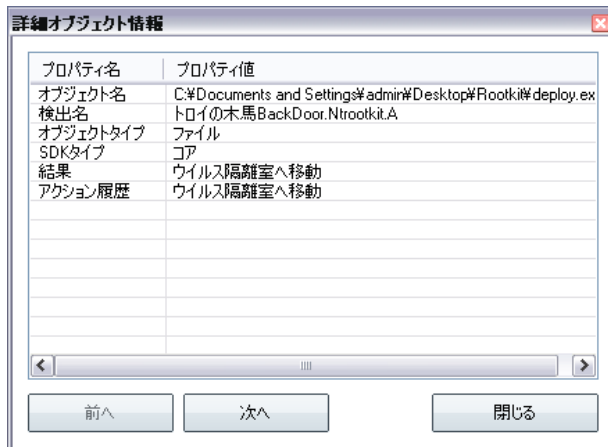
スパイウェアタブは、スキャン中にスパイウェアが検出された場合、[スキャン結果](#)ダイアログでのみ表示されます。*******このタブは3つのセクションに分かれ、以下の情報が表示されます。

- **ファイル** - 感染オブジェクトの元の場所へのフルパス
- **感染** - 検出された[ウイルス](#)名 (ウイルスの詳細は、オンラインの[ウイルスエンサイクロペディア](#)を参照してください)
- **結果** - スキャン中に検出された感染オブジェクトの現在のステータス
 - **感染** - 感染オブジェクトが検出され、元の場所に存在します。(例えば、[自動修復オプション](#)を特定のスキャン設定でオフにしている場合)
 - **修復** - 感染オブジェクトは自動修復され、元の場所に存在します。
 - **ウイルス隔離室に移動** - 感染オブジェクトは[ウイルス隔離室に移動](#)されました。
 - **削除** - 感染オブジェクトは削除されました。
 - **PUP例外に追加** - 検出は例外として評価され、PUP例外リスト (高度な設定の[PUP例外](#)ダイアログで設定)に追加されました。
 - **ロックされたファイル - 未スキャン** - 対象オブジェクトはロックされているため、AVGはスキャンできません。
 - **潜在的に危険なオブジェクト** - オブジェクトは潜在的に危険なものとして検出されましたが、感染していません (例えば、マクロを含む等)。
 - **アクションを終了するために再起動を要求** - 感染オブジェクトを除去できません。完全に除去するには、コンピュータの再起動が必要です。

コントロールボタン

このダイアログには3つのコントロールボタンがあります。

- **詳細を見る** - このボタンは**詳細スキャン結果情報**という新しいダイアログウィンドウを開きます。



このダイアログでは、感染オブジェクトの場所に関する情報が表示されます (**プロパティ名**)。前へ/次へボタンを使用して、特定の検出情報を見ることができます。閉じるボタンを使用して、このダイアログを閉じることができます。

- **選択された感染を除去** - このボタンを使用して、選択された検出を**ウイルス隔離室に移動**します。
- **すべての未修復の感染を削除** - このボタンはすべての修復不可能な検出や**ウイルス隔離室に移動された検出を削除**します。
- **結果を閉じる** - 詳細情報概要を終了し、**スキャン結果概要**ダイアログに戻ります。

11.7.4. 警告タブ

警告タブには、スキャンで検出された「疑わしい」オブジェクトに関する情報 (一般的には**ファイル**)が表示されます。**常駐シールド**によって検出された場合は、これらのファイルへのアクセスはブロックされます。この種の検出の一般的な例は、隠されたファイル、cookie、疑わしいレジストリキー、パスワードで保護されたドキュメント、アーカイブ等です。このようなファイルはコンピュータやセキュリティにとって、何ら直接的な脅威を与えるものではありません。これらのファイルに関する情報は一般的に、コンピュータでアドウェアやスパイウェアが検出される場合に有用です。AVG検査によって警告のみが検出される場合は、何も対応する必要はありません。



このようなオブジェクトに関する最も一般的な例を以下に簡潔に説明しました。

- **非表示のファイル** - 非表示のファイルはデフォルトでは、Windows上では見ることができません。あるファイルやその他の脅威はこの属性を持ってファイルを格納することによって検出されることを避けようとする場合があります。AVGで悪意のあるファイルの疑いがある非表示のファイルが報告される場合、[AVG ウィルス隔離室](#)に移動できます。
- **Cookies** - Cookiesはウェブサイトによって使用されるプレーンテキストファイルです。これは、後にカスタムウェブサイトレイアウトや予め入力されたユーザー名等をロードするために使用されるユーザー特有の情報を格納するために使用されます。
- **不審なレジストリキー** - 一部のマルウェアはその情報をWindowsレジストリに格納し、起動時にそれがロードされるようにしたり、それがオペレーティングシステムにまで影響するようにします。

11.7.5. ルートキットタブ

ルートキットスキャンを起動した場合や、手動でルートキット対策スキャンオプションを**完全コンピュータスキャン**([このオプションは既定でオフになっています](#))に追加した場合、[ルートキット] タブにはスキャン中に検出されたルートキットに関する情報が表示されます。

ルートキットは、システムの所有者や正式な管理者の許可なしで、コンピュータシステムの基本的なコ

ントロールを実行するように設計されたプログラムです。ルートキットは、ハードウェア上で実行されているオペレーティングシステムのコントロールを掌握するよう意図されているため、ハードウェアへのアクセスはほとんど必要とされません。一般的には、ルートキットは、標準のオペレーティングシステムのセキュリティメカニズムを破壊したり回避したりすることで、システム上でその存在を隠すように動作します。一般的に、それは同時にトロイの木馬でもあり、システムで実行しても安全であるかのようにユーザーを騙し、信じこませます。これを実現させる技術によって、実行中のプロセスをプログラム監視から隠したりオペレーティングシステムからファイルやシステムデータが隠されることもあります。

このタブの構成は基本的に、[感染タブ](#)や[スパイウェアタブ](#)と同じです。

11.7.6. 情報タブ

情報タブには、感染、スパイウェア等と分類できない「検出」に関するデータが表示されます。それらは危険なものとは断定はされませんが、注意する価値があります。AVG スキャンは、感染していない可能性があるが、疑わしいファイルを検出することができます。このようなファイルは**警告**か**情報**として報告されます。

重大度 **情報** は次の理由のいずれかで報告されます。

- **ランタイムバック** - このファイルは、少ない共通ランタイムパッカーのいずれかで圧縮されており、このようなファイルのスキャンを防ぐ試みを示している可能性があります。ただし、このようなファイルの報告のすべてがウイルスを示唆しているわけではありません。
- **ランタイムバック再帰** - 上記と同様ですが、共通ソフトウェア間の頻度は低くなります。このようなファイルは疑わしく、分析のためファイルの除去または提出を考慮する必要があります。
- **パスワード保護されたアーカイブまたは文書** - パスワード保護されたファイルは AVG (あるいは一般的にはその他のウイルスソフトウェア) でスキャンできません。
- **マクロを含んだ文書** - 報告された文書には、悪意のあるプログラムである可能性があるマクロが含まれます。
- **拡張子偽装** - 拡張子偽装のファイルは、画像などのように見える場合がありますが、実際には実行可能形式ファイル (例: `picture.jpg.exe`) です。Windows の既定の設定では、2 番目の拡張子は表示されませんが、AVG はこのようなファイルをレポートし、間違って開いてしまうことを防止します。
- **不適切なファイルパス** - 一部の重要なシステムファイルが既定以外のパスで実行中の場合 (例: `Windows フォルダ以外で実行中の winlogon.exe`)、AVG はこの不一致を報告します。一部の場合、ウイルスは標準システムプロセス名を使用し、システム内でその存在を目立たなくします。
- **ロックしたファイル** - 報告されたファイルはロックされるため、AVG がスキャンできません。これは通常一部のファイルが常にシステムによって使用されていることを意味しています (例: `スワップファイル`)。

11.8. ウイルス隔離室



ウイルス隔離室は、AVGスキャン中に検出された疑わしい、または感染したオブジェクトを管理する安全な環境です。スキャン中に感染したオブジェクトが検出され、AVGがそれを自動的に修復できない場合、この疑わしいオブジェクトの処理方法を決定するための画面が表示されます。推奨される解決方法は、このオブジェクトを**ウイルス隔離室**に移動することです。**ウイルス隔離室**の主な目的は、削除されたファイルを一定期間保存しておき、そのファイルが元の場所で必要がないものであることを確認できるようにすることです。ファイルが存在しないことによって問題が発生する場合は、問題のファイルを分析に送信したり元の場所に復元したりできます。

ウイルス隔離室インターフェースは、別ウィンドウで開き、隔離された感染オブジェクトに関する情報概要が表示されます。

- **重大度** - 感染タイプ情報 (感染レベルに基づいて、リストに表示されているすべてのオブジェクトは実際に感染しているか感染の可能性が**あります**) も表示されます。
- **ウイルス名** - [ウイルスエンサイクロペディア](#) (オンライン) にしたがって、検出された感染名を表示します。
- **ファイルパス** - 検出された感染ファイルのフルパス
- **元のオブジェクト名** - 表にリストされるすべての検出されたオブジェクトは、スキャンプロセス中にAVGによって与えられる標準名で表示されます。オブジェクトの元の名前が既知の特定の名前であった場合 (例 :添付ファイルの実際の内容に対応しないメール添付ファイル名)、このカラムにこの名前が表示されます。
- **保存日** - 疑わしいファイルが検出され、**ウイルス隔離室に移動された日時**

コントロールボタン

ウイルス隔離室インターフェースでは、以下のコントロールボタンが使用可能です。

- **復旧** - 感染ファイルをディスク上の元の場所に復元します。
- **元の名前で復旧** - 検出された感染オブジェクトを**ウイルス隔離室**から選択されたフォルダに移動する場合は、このボタンを使用します。疑わしい検出されたオブジェクトは元の名前で保存されます。元の名前がわからない場合は、標準名が使用されます。
- **詳細** - このボタンは、**ID 保護**で検出された脅威にのみ適用されます。クリックすると、脅威の詳細の概要 (影響するファイルやプロセス、プロセスの特性など) が表示されます。IDPで検出されるその他のすべての項目では、このボタンはグレイ表示になり無効です。



- **削除** - 感染 ファイルを**ウイルス隔離室**から完全に削除し、元に戻すことはできません。
- **空にする** - すべての**ウイルス隔離室**内のファイルを削除します。ウイルス隔離室から削除することで、これらのファイルは、ディスクから削除され、元に戻すことはできません (ごみ箱には移動されません)。

12. AVGアップデート

AVGを最新の状態に保つことはすべての新しいウイルスがすぐに検出されることを保証するうえで非常に重要です。

[AVGのインストール処理中](#)には、AVGを更新する頻度を指定するよう求められます。利用可能なオプションは、**4時間ごと**または**毎日** ([定期スキャンと更新のスケジュール](#) ダイアログを参照) です。AVGアップデートは定期的なスケジュールでリリースされませんが、新しい脅威の量と重要度に対応するには、すくなくとも毎日新しいアップデートを確認することが推奨されます。4時間ごとにチェックすることで、毎日 **AVG 9 Anti-Virus** が最新の状態に保たれる事が保証されます。

12.1. アップデートレベル

AVGは、2つの選択可能なアップデートレベルを提供します。

- **定義アップデート**には信頼できるウイルス対策保護に必要な変更が含まれます。一般的には、コードの変更は含まれず、定義データベースのみをアップデートします。このアップデートは、利用可能な場合、すぐに適用する必要があります。
- **プログラムアップデート**には、さまざまなプログラムの変更、修正、および改善が含まれています。

[アップデートをスケジュール](#)する際に、ダウンロードの優先レベルを選択できます。

注意: スケジュール済みプログラムアップデートおよびスケジュール済みスキャンの時間と一致する場合は、アップデートプロセスが最優先され、スキャンは中断されます。

12.2. アップデートタイプ

2つのタイプのアップデートを区別することができます。

- **オンデマンドアップデート**は、必要に応じていつでも実行できる即時 AVG アップデートです。
- **スケジュール済みのアップデート** AVGでは[アップデートスケジュールをあらかじめ設定](#)することもできます。スケジュールされたアップデートは、設定にしたがって定期的に行われます。新しいアップデートファイルが特定の場所にある場合、それらはインターネットから直接、またはネットワークディレクトリを介してダウンロードされます。入手可能な新しいアップデートがない場合は何も実行されません。

12.3. アップデートプロセス

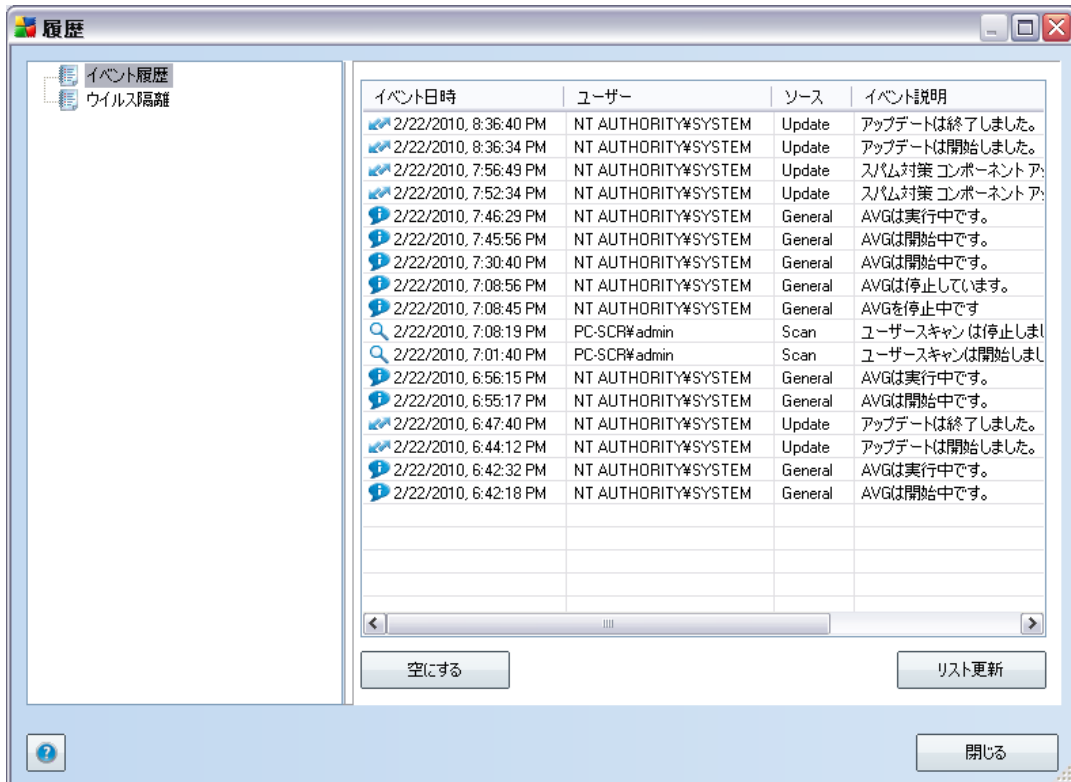
[すぐにアップデートクイックリンク](#)によって、アップデートプロセスをすぐに実行できます。このリンクは、[AVGユーザーインターフェース](#)ダイアログからいつでも使用可能です。ただし、[アップデートマネージャ](#)コンポーネントのアップデートスケジュール編集で説明されているように、定期的なアップデートを実行することが強く推奨されます。



アップデートを開始すると、AVGはまず利用可能な新しいアップデートファイルがあるかどうかを確認します。この場合、AVGはダウンロードを開始し、アップデートプロセスが実行されます。アップデートプロセス中は、**アップデート**インターフェースにリダイレクトされます。ここでは、グラフィカルな表示や関連統計パラメータの概要で処理の状況を見ることができます（アップデートファイルサイズ、受信データ、ダウンロード速度、経過時間等）。

注意 :AVGプログラムアップデートの前に、システム復旧ポイントが作成されます。アップデートプロセスが失敗し、オペレーティングシステムがクラッシュする場合には、必ずこのポイントから元のコンフィギュレーションでOSを復旧できます。このオプションは、スタートプログラム/アクセサリシステムツール/システムの復元からアクセスできますが、上級ユーザーのみが変更を行うことをお勧めします。

13. イベント履歴



イベント履歴ダイアログはシステムメニューの履歴 / イベント履歴 ログからアクセスできます。このダイアログでは、AVG 9 Anti-Virus動作中に発生した重要なイベントのサマリを見ることができます。イベント履歴は以下のイベントを記録します。

- AVGアプリケーションの更新情報
- スキャン開始、終了、定義 (自動実行スキャンを含む)
- 発生場所を含む、常駐シールド、スキャンによるウイルス検出関連イベント
- 他の重要イベント

コントロールボタン

- **空にする** すべてのイベントリストエントリを削除します



- **リスト更新** - イベントリストエントリをすべて更新します

14. FAQとテクニカルサポート

AVG に関する問題がある場合は、ビジネスの場合でも技術的な場合でも、AVG ウェブサイトの [FAQ](http://www.avg.com/) セクション (<http://www.avg.com/>)を参照してください。

この方法でヘルプが見つからない場合は、電子メールでテクニカルサポート部門までお問い合わせください。システムメニューのヘルプ/オンラインヘルプより、お問い合わせフォームをご利用ください。